

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（13コマ）、演習（2コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。
授業計画	<p>第1回 心理学の歴史と方法 心理学の領域、心理学史</p> <p>第2回 脳と心理学 脳の構造、脳の働き、高次脳機能障害</p> <p>第3回 心の発達 発達の諸側面、子どもの発達、生涯発達心理学</p> <p>第4回 感覚と知覚 感覚、知覚的な体制化、奥行き知覚と知覚の恒常性、錯覚、運動の知覚</p> <p>第5回 学習 レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ</p> <p>第6回 記憶と思考 記憶のしくみ、記憶の二重貯蔵モデル</p> <p>第7回 動機づけと情動 動機づけと欲求、感情・情動、表出行動とコミュニケーション</p> <p>第8回 性格 類型論、特性論、性格検査の信頼性と妥当性 性格検査体験</p> <p>第9回 対人関係と集団 対人認知、対人感情、関係の維持</p> <p>第10回 臨床心理学1 精神分析（フロイト）</p> <p>第11回 臨床心理学2 分析心理学（ユング）</p> <p>第12回 臨床心理学3 来談者中心療法（ロジャース）</p> <p>第13回 臨床心理学4 心理療法の技法</p> <p>第14回 臨床心理学5 コラージュ療法の体験</p> <p>第15回 臨床心理学6 コラージュ療法の理論</p>
科目の目的	心理学の各領域に関する基礎的な知識を習得することを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 心理学の概要を理解し、国家試験対策の基礎を形成する。 2. 心理学理論による人間理解を深めるとともに自分について振り返る。 3. 心理学的援助の概要と方法について理解し、自らの専門分野に活かす。
関連科目	<p>【教養科目】教育学、生命倫理、教育心理学、健康スポーツ理論、大学の学び入門、ジェンダー論</p> <p>【専門基礎科目】発達心理学、臨床心理学、カウンセリング</p> <p>【専門科目】成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ、小児看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論、災害看護論</p>
成績評価方法・基準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等の評価（20％）を加味して評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	【教科書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房
オフィス・アワー	月・水・金の昼休み（305研究室）
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－a</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－6－A－b</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－C－d</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－C－e</p>

	≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－a ≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－b ≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－c ≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－d ≪必修問題≫－Ⅱ－7－G－d
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
吉田 幸恵			

授業形態	講義・グループワーク・発表
授業計画	<p>1 イントロダクション 授業全体の予定や授業の進め方などの説明、生命倫理の概要</p> <p>2 「生命倫理」の誕生 生命倫理の社会的・歴史的変遷</p> <p>3 戦争と優生思想と生命倫理 戦争と倫理の問題について（日本とナチスドイツを中心に）</p> <p>4 被験者になるということ 医学研究におけるインフォームド・コンセント</p> <p>5 「病い」を生きる ハンセン病史における倫理的問題</p> <p>6 出生前診断と生殖技術(1) 中絶・生殖技術を巡る立場と問題、様々な生殖技術</p> <p>7 出生前診断と生殖技術(2) 里子問題などを通して、子どもの「生きる権利」について考える</p> <p>8 安楽死／尊厳死(1) 安楽死／尊厳死とは？安楽死を巡る日本の状況について</p> <p>9 安楽死／尊厳死(2) 安楽死を巡る世界の状況について</p> <p>10 臓器移植をめぐる諸問題 臓器移植の歴史、臓器移植と法</p> <p>11 外部講師によるレクチャー 内容は講義進行具合を見ながら決定</p> <p>12 グループワーク テーマを受講生から募り、グループワーク</p> <p>13 プレゼンテーション グループワーク結果の発表</p> <p>14 医療の役割 医療の論理、医学の進歩と医学研究のこれから</p> <p>15 まとめ 授業全体のまとめ、期末レポート相談</p>
科目の目的	生命倫理・医療倫理の概要・諸問題を、講義形式だけではなく、映像資料・映画を適宜参照したりグループワークなどを実施したりしながら解説し、自分で考える力を身につけることを目的としています。時事問題や学生の関心によって講義内容を変更する場合があります。
到達目標	医療者は時に「医療者視点」が絶対的であるという思い込みに陥りがちになります。医療の主役はあくまで患者さんやその家族です。この授業を通して「医療は誰のものか」ということを改めて考えることができるようになることを目指します。
関連科目	公衆衛生学、免疫・感染症学、緩和医療学、家族学、ジェンダー論
成績評価方法・基準	授業後に実施するミニレポートの提出（30%）、グループワークでの発表（30%）、期末レポート（40%）による総合評価。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業の前後において、可能な範囲で教科書やレジュメに目を通してください。
教科書・参考書	（教科書） 神里彩子・武藤香織編 2015 『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』 東京大学出版会
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-4-A-a~f 【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》-2-B-a~c, 2-C-acd
履修条件・履修上の注意	

講義科目名称：教育学

授業コード：2N003

英文科目名称：Education

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	必修
担当教員			
高野 利雄			

授業形態	講義、演習、討論
授業計画	<p>1 人間の活動としての教育 教育とは何か。人間は教育によって何を達成しようとしているのか。</p> <p>2 学習権という人権 義務教育、教育の機会均等、子どもの権利条約。</p> <p>3 教育活動の時と場 人間の成長と発達課題。家庭・学校・社会での教育と学習</p> <p>4 家庭教育と社会教育 家庭教育と社会教育の実状。子育て支援。</p> <p>5 学校教育の柱と方法 教科指導と生活指導。指導と援助。</p> <p>6 指導と評価 指導法と評価法。学習の動機づけ。</p> <p>7 教育思想① 西洋の教育をたどる。</p> <p>8 教育思想② 日本の教育をたどる。</p> <p>9 公立学校と私立学校 教育基本法。建学の精神。</p> <p>10 学校教育現場の諸問題 いじめ、不登校、学級崩壊。</p> <p>11 教育の土台となる信頼関係 良好なコミュニケーション。ゴードン・メソッド。</p> <p>12 援助の教育 学校保健、スクールカウンセリング、スクールソーシャルワーク</p> <p>13 児童生徒理解 生徒指導と教育相談</p> <p>14 障害児教育 特別支援教育の考え方と実状</p> <p>15 まとめ</p>
科目の目的	教育活動についての学びを通して、看護・医療の対人援助職に必要な教育者の素養を身につける。
到達目標	教育の役割を理解し、対人援助職を目指す自らのありようを述べられること。
関連科目	心理学、教育心理学、教育情報論
成績評価方法・基準	試験（60％）、随時の提出物と授業への取り組み（40％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	必要に応じて指示する。
教科書・参考書	教科書・・・使用しない 参考書・・・講義時に紹介する
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義2回と演習13回
授業計画	<p>1 回目 情報とは何か 情報の意味と歴史</p> <p>2 回目 情報の教育とは何か 情報の教育の意義と歴史</p> <p>3 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション①「健康について」 情報収集の方法と留意点①「健康について」</p> <p>4 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション②「疾病について」 情報収集の方法と留意点②「疾病について」</p> <p>5 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション③「医療の現状」 情報収集の方法と留意点③「医療の現状」</p> <p>6 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション④「医療問題」 情報収集の方法と留意点④「医療問題」</p> <p>7 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション⑤「医療の国際情勢」 情報収集の方法と留意点⑤「医療の国際情勢」</p> <p>8 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション⑥「運動と食事」 情報収集の方法と留意点⑥「運動と食事」</p> <p>9 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション⑦「健康と長寿」 情報収集の方法と留意点⑦「健康と長寿」</p> <p>10 回目 情報収集の実習とプレゼンテーション⑧「医療と貧困」 情報収集の方法と留意点⑧「医療と貧困」</p> <p>11 回目 情報に関する諸問題への対処①「情報倫理」 情報処理の倫理的問題と対処法①「情報倫理」</p> <p>12 回目 情報に関する諸問題への対処②「問題事例」 情報処理の倫理的問題と対処法②「問題事例」</p> <p>13 回目 情報に関する諸問題への対処③「予防策」 情報処理の倫理的問題と対処法③「予防策」</p> <p>14 回目 情報に関する諸問題への対処④「対策事例」 情報処理の倫理的問題と対処法④「対策事例」</p> <p>15 回目 情報に関する諸問題への対処⑤「まとめ」 情報処理の倫理的問題と対処法⑤「まとめ」</p>
科目の目的	情報の収集方法とその諸問題への対処法、倫理的問題への対応などを指導する。学生の主体性を重視したアクティブラーニングの学習方法を用いて指導する。
到達目標	本講義の内容を全員が一定のレベルまで理解し、実践できること
関連科目	情報処理
成績評価方法・基準	課題30%、発表30%、試験40%で総合して成績を付ける。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容が理解・習得できるように、特に講義後の復習をしっかりと行うこと。日頃から、看護・医療等について興味関心を持って情報収集するように努めること。
教科書・参考書	無し
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
原 芳典			

授業形態	講義（演習＝エクササイズを含む）15回
授業計画	<p>第1回 教育心理学を学ぶ意義 ガイダンス 学校教育とは 子供の誕生と消滅 エクササイズ（思い出に残る先生）</p> <p>第2回 発達の視点を持つ 様々な発達理論 思春期とは？ エクササイズ（自分史グラフ）</p> <p>第3回 仲間関係の発達 ギャンググループ チャムグループ ピアグループ エクササイズ（自分たちの体験を振り返る）</p> <p>第4回 児童期 フロイトの自我理論 心理学のあゆみ エクササイズ</p> <p>第5回 乳幼児期① 生理的早産仮説 有能な赤ちゃん 愛着形成 エクササイズ</p> <p>第6回 乳幼児期② ビデオ学習「赤ちゃん」</p> <p>第7回 青年期の心理と課題 エリクソンの発達理論 エクササイズ（アイデンティティ・ステータス）</p> <p>第8回 自己概念 ジェンダー・アイデンティティ 男女の会話スタイル エクササイズ</p> <p>第9回 学校教育相談 学校教育相談の歩み チェーン・インタビュー エクササイズ（聞く態度）</p> <p>第10回 特別支援教育① 特別支援教育に至る経緯 発達障害の概念の整理 エクササイズ（視覚優位か聴覚優位か）</p> <p>第11回 特別支援教育② 現場での実践的課題 支援の実際</p> <p>第12回 教育現場での実践的諸問題① ビデオ学習「多様な生の子どもたち」 不登校やいじめの背景にある性的マイノリティ</p> <p>第13回 教育現場の実践的諸問題② ビデオ学習「傷つき傷つけられた果てに」 摂食障害 自傷行為（リストカット）</p> <p>第14回 学校教育と自己肯定感 自己肯定感 エレファントシンドローム エクササイズ（OKマークをペタン）</p> <p>第15回 学校臨床学という視点 潜在的カリキュラム 保健室と養護教諭 生活の場としての学校 まとめ エクササイズ（様々な私）</p>
科目の目的	自らが体験してきた教育を振り返ることにより、人と人とが関わる教育的出来事（事象）を心理学的に解明・理解する。
到達目標	教育心理学の概要を自分および周囲の人々の体験から理解し、効果的援助方法を習得する
関連科目	教育学 心理学 臨床心理学 カウンセリング ジェンダー論
成績評価方法・基準	定期試験50% および 課題（毎回提出を求める学習の理解や定着度を測る小レポートなど）50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義終了時に、次回の予告をする。格別準備はいらないが自分の教育体験をよく想起しておく（10分程度）
教科書・参考書	教科書は とくに使用しない 参考書： 保坂亨著「いま、思春期を問い直す」東京大学出版会 2010年 近藤邦夫他編「子どもの成長 教師の成長～学校臨床の展開」2000
オフィス・アワー	昼休み及び授業前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	とくになし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 英恵			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方を説明します。</p> <p>2 民間信仰の石仏 石仏に込められた人びとの思い 人びとの信仰がかたちとなったのが石仏です。信仰形態と習俗からその役割について考えます。</p> <p>3 現代社会のなかの石仏 地域社会における石仏の役割 講義では道祖神を事例に、今日的役割と意義についてみていきます。</p> <p>4 観念と俗信 生活文化にみる俗信 生活文化から禁忌、予兆、民間療法など俗信の内容についてみていきます。</p> <p>5 映像鑑賞 盲目の旅芸人 警女 三味線を手に村をめぐる盲目の女性旅芸人の生活から、医療と民俗の関連を考えましょう。</p> <p>6 霊魂と通過儀礼 人生儀礼とその節目 人の一生から人生の節目について考えてみます。</p> <p>7 誕生と名づけの民俗 命名の方法とキラキラネーム 現代社会における命名とその特徴をみていきます。</p> <p>8 産育の民俗 七つ前は神の子？ 子どもの成長を願う儀礼に焦点をあて、その方法と意味をみていきます。</p> <p>9 結婚の民俗 一人前と結婚 伝統的な結婚習俗と現代的な諸相を取り上げます。</p> <p>10 厄年と年祝いの民俗 節分と厄年 厄落としと年祝いの方法を、各種儀礼と年中行事からみていきます。</p> <p>11 老いと民俗 地域社会で生きる経験と知恵 高齢化社会で活躍する人びとに焦点をあて、地域社会の伝統と継承について考えてみます。</p> <p>12 福祉と民俗 回想法にみる民俗の役割 民具の持つ可能性と社会貢献について考えます。</p> <p>13 葬送の民俗 現代の葬送儀礼の特徴 変わりゆく葬送儀礼を現代の様相からみていきます。</p> <p>14 先祖の民俗 先祖と供養 先祖の供養から霊魂の捉え方を考えていきます。</p> <p>15 医療と民俗 現代社会にみる民俗と医療（まとめ） これまでの授業内容を確認します。</p>
科目の目的	本科目では医療に関わる誕生から死に至るまでの習俗・儀礼を取り上げ、これらの今日的役割と意義について学ぶ。
到達目標	医療と民俗（生活知識・知恵）の接点を学び、より豊かな心で人びとの生き様を理解することを目標とします。
関連科目	生命倫理、家族学
成績評価方法・基準	試験（85点）、課題提出（15点）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日常生活のなかで医療に関連する文化や事柄に興味を持ち、注意深く観察してください。父母や祖父母、世代の違う人と話すことは新しい発見に繋がります。身近な人たちがどのような儀礼や慣習を経て、年を重ねてきたのか関心を持ってください。予めテキストに目を通し、授業内容と合わせて復習してください。
教科書・参考書	教科書 板橋春夫『叢書いのちの民俗学3生死』社会評論社、2010年 参考書 市川秀之・福田アジオ他編『はじめて学ぶ民俗学』ミネルヴァ書房、2015年
オフィス・アワー	授業終了時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	日々の生活に目を向けて、幅広く生活文化に興味関心を持ってください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
鈴木 聡子			

授業形態	講義 測定実習等
授業計画	<p>1 ガイダンス 講義の進め方など</p> <p>2 体力について 体力とは何か</p> <p>3 カラダづくりについて① カラダづくりに必要なこと</p> <p>4 形態計測のいろいろ 周経囲など</p> <p>5 食事と健康 運動と栄養、体重コントロール、メンタルコントロール</p> <p>6 運動処方について 身体活動量の把握</p> <p>7 運動と生活習慣病 生活習慣病と関連する要因</p> <p>8 身体の発育・発達と運動 子どもの時期の運動・自分の発育発達</p> <p>9 学生生活と健康 健康を維持増進し、集中力を高める 簡単な運動を行うことも。</p> <p>10 老化、寿命と運動 老化に伴う身体機能の変化</p> <p>11 カラダづくりについて② 軽運動</p> <p>12 障がい者スポーツ・アダプテッドスポーツ</p> <p>13 精神の健康 運動・スポーツ、栄養、休養と心理の関わり</p> <p>14 環境と健康 運動と水分補給、熱中症、突然死など</p> <p>15 まとめ まとめ</p>
科目の目的	健康と運動・スポーツ、環境、老化と寿命などに関する講義内容を学習する中で、現代社会における健康の意味や健康の維持増進の方法について考えていく。
到達目標	健康と運動、環境、老化と寿命、運動処方などに関する講義の内容を理解できる。 理解した内容に関する自分の考えをまとめることができる。
関連科目	健康スポーツ実技
成績評価方法・基準	授業への取り組み、ミニレポートおよび最終試験またはレポート
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回ノートを取り、講義に関する自分の考えをまとめる。 学習したことを活用し、日々の生活を記録する。 週150分以上の運動・スポーツなどの実践を通し、体調を整え、関連する事柄を調べ、記録する。
教科書・参考書	教科書 「入門運動生理学」勝田茂編著 和田正信、松永智 著 杏林書院 参考書 「若い時に知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」田口貞善、山地啓司著 近代科学社 その他随時紹介していく。
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	興味があれば是非受講してみてください。ノートなど記録も今できる範囲で構いません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
鈴木 聡子			

授業形態	体力測定 スポーツ実技 講義		
授業計画	1	オリエンテーション 本講義の進め方	
	2	体力測定① 形態測定① その他 新体力測定をベースに行います。	
	3	体力測定② シャトルラン	
	4	ストレッチ 自重筋トレ①	
	5	スポーツ①	
	6	スポーツ②	
	7	スポーツ③	
	8	ニュースポーツ①	
	9	スポーツ④	
	10	スポーツ⑤	
	11	スポーツ⑥	
	12	スポーツ⑦	
	13	ニュースポーツ②	
	14	体力測定③ 形態測定②	
	15	まとめ 体力測定の結果や日常生活を踏まえ、簡単な運動処方を行う。	
科目の目的	身体活動を通して、各自が健康や体力に対する認識を深め、健康(運動・栄養・休養の面から)の保持増進、体力向上を図ることにより、心身ともに健康的で幸福な生活を送れるようになる。 室内、屋外問わず、軽運動・スポーツ・トレーニング等に親しみ、積極的に参加し、将来健康で豊かなライフスタイル形成が出来るように工夫する。		
到達目標	①仲間とのコミュニケーションを動くことを通じて豊かに行えるようになる。 ②生涯にわたって健康と体力を維持向上するための知識・行動を身につける。 ③自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策を立て心身の健康状態を整えられるようになる。		
関連科目			
成績評価方法・基準	授業への取り組み、ミニレポートおよび最終課題レポート		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	ノートを作り、日頃の生活スタイルに関する記録を取る。仲間とのコミュニケーションを取りながら、運動スポーツを実践する。 週150分は、運動・スポーツに取り組み、体調を整えられるといいでしょう(詳細は講義で)。		
教科書・参考書	参考書 「脳を鍛えるには運動しかない」 ジョンJレイティ with エリック・ヘイガーマン 訳 野中香方子 NHK 出版 「若い時に知っておきたい運動・健康とからだのひみつ」 田口貞善、山地啓司著 近代科学社		
オフィス・アワー	講義の前後		
国家試験出題基準			
履修条件・履修上の注意	スポーツに関しては、皆さんの希望を伺いつつ実施の種目を確定します。 授業内容の変更もあります。 スポーツや運動が苦手でも大丈夫です。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	演習。テキストに沿って進める。
授業計画	<p>1 Introduction 授業の説明、自己紹介</p> <p>2 Reading 1 I-1 A Holistic View of Humans 人間を全体的にとらえる考え方と医療を理解する。body parts-externalを覚える。</p> <p>3 Reading 2 I-3 Homeostasis, Stress, and Adaptation 体内の恒常性の維持、ストレス対処法を理解する。body parts-internalを覚える。</p> <p>4 Reading 3 I-4 Late Adulthood geriatricsとgerontologyを理解する。</p> <p>5 Reading 4 II-1 Sports Medicine and the Overtraining Syndrome スポーツ医療と過剰トレーニングの予防を学ぶ。</p> <p>6 Reading 5 II-3 Organ Transplant : A Matter of Life and Death 臓器移植とその問題について考える。</p> <p>7 Reading 6 英字新聞を読む 英字新聞を読み、current topicsの英語表現を学ぶ。</p> <p>8 Conversation 1 医療現場の英語表現 Meeting Patients 患者登録と生活習慣アンケートをする。(unit 1)</p> <p>9 Conversation 2 医療現場の英語表現 Taking Medical History 病歴および健康状態を把握する。(unit 2)</p> <p>10 Conversation 3 医療現場の英語表現 Assessing Patients' Symptoms 病状や症状をアセスメントする。(unit 3)</p> <p>11 Conversation 4 医療現場の英語表現 Taking Vital Signs バイタル・サインを正確に計測する。(unit 4)</p> <p>12 Conversation 5 医療現場の英語表現 Taking Specimens 検体を採取する。(unit 5)</p> <p>13 Conversation 6 医療現場の英語表現 Taking Medical Examinations 検査の注意や指示をする。(unit 6)</p> <p>14 Conversation 7 医療現場の英語表現 Assessing the Pain 疾病・負傷による痛みをアセスメントする。(unit 7)</p> <p>15 Conversation 8 医療現場の英語表現 Advising about Medication 処方された投薬についてアドバイスを。(unit 8)</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力と英語表現力をつける。
到達目標	テキストや各自の力と興味に合わせた本を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 テキストやgraded readerの音声聞くことで単語や文章を聴き取ることができる。 看護・医療の基本的英単語、英語表現を覚える。
関連科目	【関連する教養科目】英語II 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語I, II 英文講読I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	前期末試験 (80%) 医療英単語テスト(10%) extensive reading(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。extensive readingは少なくとも月1冊のペースでやさしい読み物を読み、quizに答えながら内容を把握する。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。 予習復習合わせて約90分。
教科書・参考書	教科書・Health Care Today『英語で学ぶ医療と健康』, 西村月満, James W. Page1他(朝日出版社), 2006年。 教科書・Caring for People, 黛道子, 宮津多美子, 杉田雅子他(Cengage Learning), 2014年。
オフィス・アワー	講義日の昼休み、研究室 (1号館3階324)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	演習。テキストに沿って進める。
授業計画	<p>1 Reading 1 III-2 Communication Skills 治療に役立つコミュニケーションスキルを学ぶ。</p> <p>2 Reading 2 III-3 Perioperative Procedures 手術を成功させるために一医療専門職の役割</p> <p>3 Reading 3 IV-1 Rest and Sleep 休息と睡眠のメカニズムを学ぶ。</p> <p>4 Reading 4 IV-4 In-hospital Infections 院内感染について学ぶ。</p> <p>5 Reading 5 VI-1 A Patient's Bill of Rights 患者の権利章典を学ぶ。</p> <p>6 Reading 5 英字新聞を読む 英字新聞を読み、current topicsの英語表現を学ぶ。</p> <p>7 Reading 6 英字新聞を読む 英字新聞を読み、current topicsの英語表現を学ぶ。</p> <p>8 Conversation 1 医療現場の英語表現 Improving Patients' Mobility (unit 9) 体の機能回復を介助・援助する。</p> <p>9 Conversation 2 医療現場の英語表現 Maintaining a Good Diet (unit 10) 栄養と食餌についてアドバイスする。</p> <p>10 Conversation 3 医療現場の英語表現 Caring for Inpatients (unit 11) 入院患者のケアをする。</p> <p>11 Conversation 4 医療現場の英語表現 Coping with Emergencies (unit 12) 緊急事態に対処する。</p> <p>12 Conversation 5 Skitを作る 医療現場の英語表現 英語での患者さん対応のビデオを見て、skit作りをスタートする。</p> <p>13 Conversation 6 Skitを作る 医療現場の英語表現 グループでskitを作る。</p> <p>14 Conversation 7 Skit発表会リハーサル Skitのリハーサルをすることで、より良いものを作る。</p> <p>15 Conversation 8 Skit発表会 医療現場の英語表現 Skitを発表する。演じる。</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むためのリーディング力、リスニング力をつける。 専門分野の基本的英語語彙力と英語表現力をつける。
到達目標	テキストや各自の力と興味に合わせた優しい読み物を読むことを通じて、多くの英文に接し、構文を正しく理解し、英文の内容を理解することができる。 テキストやgraded readerの音声聞くことで単語や文章を聴き取ることができる。 看護・医療の基本的英単語、英語表現を覚え、演じることができる。
関連科目	【関連する教養科目】英語I 英語基礎 英語表現 ステップアップ英語I, II 英文講読I, II 広義には看護に関する科目全般に関連する。
成績評価方法・基準	後期末試験 (70%) 医療英単語テスト(10%) extensive reading(10%) skit(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：次回に学習する範囲の英文、英単語の音声を聴く。英文を読んで、わからない単語は辞書で調べ、英文の大まかな内容をつかむ。どこがわからないのかを明確にする。extensive readingは月1冊のペースでやさしい読み物を読み、quizに答えながら内容を把握する。 復習：その日に学習したことを整理し、英語構文を理解する。英単語、英語表現は覚え、正しく発音できるように音声教材をよく聴き、また、正しく書けるまで練習する。 予習復習合わせて約90分。
教科書・参考書	・Health Care Today『英語で学ぶ医療と健康』、西村月満、James W. Page1他 (朝日出版社)、2006年。 ・Caring for People, 黛 道子、宮津多美子、杉田雅子他 (Cengage Learning) 2014年。
オフィス・アワー	講義日の昼休み、研究室 (1号館3階324)
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	高校までの基本的英文法は理解しておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 Unit 1 Eating Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 4 Short Talk</p> <p>第2回 Unit 1 Eating (continued) Part 5 Incomplete Sentences ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第3回 Unit 2 Leisure Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 4 Short Talk</p> <p>第4回 Unit 2 Leisure (continued) Part 5 Incomplete Sentences ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第5回 Unit 3 Sports Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 4 Short Talk</p> <p>第6回 Unit 3 Sports (continued) Part 5 Incomplete Sentences ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第7回 Unit 4 Shopping Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第8回 Unit 4 Campus Life Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第9回 Unit 6 Travel Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第10回 Unit 7 Health Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第11回 Unit 8 Work Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第12回 Unit 9 Weather Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第13回 Unit 10 Cooking Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第14回 Unit 11 Parties Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p> <p>第15回 Unit 12 Movies Warm-up, Part 1 Pictures ～ Part 7 Reading Comprehension</p>
科目の目的	英語表現を理解し、英語によるコミュニケーションに積極的に取り組めるようにする。
到達目標	TOEIC(Test of English for International Communication)は米国の非営利組織ETS(Educational Testing Service)が開発・実施している英語のテストである。この授業は、TOEICの形式に準拠した比較的やさしい英語の演習問題を利用して、無理のない仕方で、実用的な英語を聞く・話す・読む・書く力をつけることを目標とするが、当然TOEICの受験準備にもなる。
関連科目	英語 I、その他英語科目
成績評価方法・基準	授業で随時行う小テスト(40%) + 期末テスト(60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で指示された復習(1～2時間)に重点を置く。また、この教科書にはCDが付いているので、復習にはCDを活用すること。
教科書・参考書	教科書：“Starting on the TOEIC Test (TOEICテストはじめの一步) -CD付-” 著者：安浪誠祐, Richard S. Lavin 出版社：朝日出版社 ¥1,800
オフィス・アワー	授業の前後、または予約時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	演習なので出席を重視する。また、疑問点は質問をすること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 授業の説明 英会話：教科書とその音声ダウンロードについて 多読：多読用図書とMReader利用について、</p> <p>第2回 英会話と多読 英会話：Unit 1. It's Fun to Make Friends 多読：質疑と情報交換</p> <p>第3回 英会話と多読 英会話：Unit 2. We Like the Same Things 多読：質疑と情報交換</p> <p>第4回 英会話と多読 英会話：Unit 3. A Weekend to Enjoy 多読：質疑と情報交換</p> <p>第5回 英会話と多読 英会話：Unit 4. Your Family's Not Like Mine 多読：質疑と情報交換</p> <p>第6回 英会話と多読 英会話：Unit 5. An Interesting Date 多読：質疑と情報交換</p> <p>第7回 英会話と多読 英会話：Unit 6. A Good Day to Go Shopping 多読：質疑と情報交換</p> <p>第8回 英会話と多読 英会話：Unit 7. Here's a Good Restaurant 多読：質疑と情報交換</p> <p>第9回 英会話と多読 英会話：Unit 8. First Day at Work 多読：質疑と情報交換</p> <p>第10回 英会話と多読 英会話：Unit 9. I Need a Vacation 多読：質疑と情報交換</p> <p>第11回 英会話と多読 英会話：Unit 10. What a Beautiful Voice 多読：質疑と情報交換</p> <p>第12回 英会話と多読 英会話：Unit 11. A Five-Year Plan 多読：質疑と情報交換</p> <p>第13回 英会話と多読 英会話：Unit 12. It's Only Money 多読：質疑と情報交換</p> <p>第14回 英会話と多読 英会話：Unit 13. Staying Stylish 多読：質疑と情報交換</p> <p>第15回 英会話と多読 英会話：Unit 14. Let's Watch a Movie 多読：質疑と情報交換</p>
科目の目的	このStep-up Englishでは、「英語の勉強」から一步踏み出して、英会話と多読で「実用英語」を習う。
到達目標	この授業では、英会話と多読を行う。1. 英会話：やさしい英会話を聞き、場面に応じた会話の練習をして、必要に応じて英語で意思疎通ができるようにすることが目標である。2. 多読：やさしい英語の本を選んで、一冊読んで楽しかったら、もう一冊読み、さらに次につなげる。このサイクルを作るのが目標である。
関連科目	英語 I、英語 II、その他英語科目
成績評価方法・基準	多読（20%）、授業中の小テスト（30%）、期末テスト（50%）：詳細は授業で説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	会話は復習に重点おいて最低週1時間は予定してほしい。多読は本人次第だが、5～10分で読めるような簡単な本から始めることを勧めたい。
教科書・参考書	1. Listeningの教科書 書名：Airwaves Basic-Second Edition（リスニング総合集中コース・基礎編・改訂版） 著者：Dale Fuller 出版社：マクミラン ランゲージハウス（03-5224-3584） 定価：2,200円 ISBN: 978-4-7773-6389 2. 多読はPAZ大学図書館の英語多読用蔵書とInternet上のReading記録プログラム（MReader）を利用する。
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	多読は自分のペースで楽しみながら行う。会話は音声を無料でダウンロードできるので是非利用すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	講義と演習
授業計画	<p>第1回 導入, Chapter 1. Edinburgh</p> <p>第2回 Chapter 2. The Darjeeling Himalayan Railway</p> <p>第3回 Chapter 3. Nasca: Pictures in Peru</p> <p>第4回 Chapter 4. The Kremlin</p> <p>第5回 Chapter 5. Mt. Kenya National Park</p> <p>第6回 Chapter 6. The Pyramids</p> <p>第7回 Chapter 7. Angkor Wat: Jungle Ruins</p> <p>第8回 Chapter 8. Seville: Spain's Fun City</p> <p>第9回 Chapter 9. Stonehenge: Farmers' Calendar</p> <p>第10回 Chapter 10. Shuriyo: Okinawa's Red Castle</p> <p>第11回 Chapter 11. The Great Wall of China</p> <p>第12回 Chapter 12. Yosemite: A Major National Park</p> <p>第13回 Chapter 13. Uluru: Ayers Rock</p> <p>第14回 Chapter 14. Istanbul: East Meets West</p> <p>第15回 Chapter 15. Auschwitz: A Place to Remember</p>
科目の目的	専門分野の英語に取り組むための力を身につける。
到達目標	世界遺産を紹介する英語のテレビ番組（NHK）を利用して作成された教材を使って、楽しみながら英語の4技能（聞く、話す、読む、書く）を学習する。
関連科目	英語科目全般
成績評価方法・基準	授業内小テスト（40%）、定期試験（60%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習に重点を置く。
教科書・参考書	書名： Our World Heritage（ビデオで学ぶ世界遺産） 出版社： 成美堂（TEL 03-329-2261） 定価： ¥1900
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	まじめに学習すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	講義と演習
授業計画	<p>第1回 導入 授業内容、成績評価などの説明</p> <p>第2回 Unit 1 健康の概念</p> <p>第3回 英英辞典 1 英英辞典の用法 (名詞)</p> <p>第4回 Unit 3 災害後の心のケア</p> <p>第5回 速読 1 速読のスキル(スキヤニング)</p> <p>第6回 Unit 4 看護師や介護士が不足する日本</p> <p>第7回 英英辞典 2 英英辞典の用法 (動詞)</p> <p>第8回 Unit 4 小テスト (1)</p> <p>第9回 Unit 7 ガン発生率の高騰</p> <p>第10回 速読 3 速読のスキル (スキミング)</p> <p>第11回 Unit 10 生活習慣の見直しで糖尿病を克服する</p> <p>第12回 速読 4 速読のスキル (主題をつかむ)</p> <p>第13回 Unit 12 高度医療を支えるために一看護師の配置の重要性</p> <p>第14回 Unit 12 小テスト (2)</p> <p>第15回 Unit 14 (ストレス解消とリラックスの方法) を速読で読む</p>
科目の目的	医療関係の英語を読みながら、健康とは何かを考える。
到達目標	4技能を連関させ、速読の訓練もしながらテキストをすばやく正確に理解できるようにする。医療関係の用語を使えるようにする。
関連科目	英語科目全般
成績評価方法・基準	小テスト(10%)、定期試験(90%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分ほどで各ユニットの語彙と文法問題を予習しておくこと。
教科書・参考書	教科書：石川英司他編、『今を生きる こころとからだ』、朝日出版、2014年。 参考書：電子辞書
オフィス・アワー	講義日の昼休み
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	まじめに積極的に授業に臨むこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	演習
授業計画	<p>第1回 授業の進め方、英語論文・抄録の学習方法</p> <p>第2回 日本語看護学雑誌の英語抄録を読む(1)、用語と語法、文章作法</p> <p>第3回 日本語看護学雑誌の英語抄録を読む(2)、用語と語法、文章作法</p> <p>第4回 日本語看護学雑誌の英語抄録を読む(3)、用語と語法、文章作法</p> <p>第5回 日本語看護学雑誌の英語抄録を読む(4)、用語と語法、文章作法</p> <p>第6回 日本語看護学雑誌の英語抄録を読む(5)、用語と語法、文章作法</p> <p>第7回 日本語看護学論文の英語抄録を書く(1)、用語と語法、文章作法</p> <p>第8回 日本語看護学論文の英語抄録を書く(2)、用語と語法、文章作法</p> <p>第9回 英語看護学論文の英語抄録を読む(1)、用語と語法、文章作法</p> <p>第10回 英語看護学論文の英語抄録を読む(2)、用語と語法、文章作法</p> <p>第11回 英語看護学論文の英語抄録を読む(3)、用語と語法、文章作法</p> <p>第12回 英語で看護学論文の抄録を書くための用語と語法をまとめる(1)</p> <p>第13回 英語で看護学論文の抄録を書くための用語と語法をまとめる。(2)</p> <p>第14回 日本語看護学論文の英語抄録を書く(1)</p> <p>第15回 日本語看護学論文の英語抄録を書く(2)</p>
科目の目的	内外の看護学会誌の英語で書かれた抄録・論文を読み、看護論文の抄録を英語で書く方法を学ぶ。
到達目標	1. 看護系、特に自分の専門分野の抄録・論文を読むことに積極的に取り組むようになる。2. 看護論文の抄録を英語で書く努力ができるようになる。
関連科目	英語Ⅰ、Ⅱとその他の英語関連科目
成績評価方法・基準	授業中の作業(40%)、期末レポート(60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	必要な学習は出来るだけ授業時間中に行えるように工夫をするが、復習または準備のために週30分～1時間程度の時間は必要になるかもしれない。
教科書・参考書	プリント配布
オフィス・アワー	授業の前後、または予約時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	授業はすべて共同作業で行う。積極的な参加を望む。

講義科目名称：中国語

授業コード：2N016

英文科目名称：Chinese

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
深町 悦子			

授業形態	演習
授業計画	<p>1 第1課 中国語とは？第2課 中国語の発音 発音、漢字、声調</p> <p>2 第3課 母音の発音 単母音、複合母音</p> <p>3 第4課 子音の発音</p> <p>4 発音の復習 音節表の朗読</p> <p>5 第5課 簡単な日常会話 あいさつの表現と数字</p> <p>6 第6課 基本文型① 名詞述語文</p> <p>7 第6課の復習 復習と練習問題</p> <p>8 第7課 基本文型② 形容詞述語文</p> <p>9 第7課の復習 復習と練習問題</p> <p>10 第8課 基本文型③ 動詞述語文</p> <p>11 第8課の復習 復習と練習問題</p> <p>12 第9課 話してみよう①</p> <p>13 第10課 話してみよう②</p> <p>14 総合練習問題</p> <p>15 第1課から第10課までの復習</p>
科目の目的	現代のグローバル化の社会の中で、一国際人として、多言語ができる人材を育成する。
到達目標	日常生活及び仕事の中で、簡単な会話ができるよう勉強してもらう。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	期末に筆記試験を行う。授業中の学習態度も参考する。基準は筆記試験が80%、授業中の学習態度が20%。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業前の予習と授業後の復習をすること。1時限ごとに30分ぐらい必要である。
教科書・参考書	教科書：陳先生の中国語（白帝社） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	教科書の購入が必要である

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
青木 順			

授業形態	演習
授業計画	<p>第一回 ハングルの読み方 基本母音 朝鮮半島、ソウル市などを簡単に紹介し、ハングルの由来、構造を簡単に説明。基本母音十個の読み方、基本母音を含んだ単語、挨拶言葉等を学習する。</p> <p>第二回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統料理を紹介する。</p> <p>第三回 ハングルの読み方 基本子音 基本子音四個の読み方、その基本子音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第四回 ハングルの読み方 激音（濃音と比較しながら） 濃音と比較しながら激音の読み方、激音を含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての伝統茶を紹介する。</p> <p>第五回 ハングルの読み方 濃音（激音と比較しながら）、合成母音 激音と比較しながら濃音の読み方、合成母音の読み方、それらを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。</p> <p>第六回 ハングルの読み方 パッチム パッチムの読み方、パッチムを含んだ単語、挨拶言葉を学習する。文化としての食事のマナー、1歳の誕生日を紹介する。</p> <p>第七回 前半のまとめ 後半の文法の学習につながるように、前半に学んだハングルの読みをまとめ、復習する。</p> <p>第八回 「私は青木順です」① サンパッチム、連音の説明、練習を行う。</p> <p>第九回 「私は青木順です」② 「は」「です」「～と申します」という文法の学習、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統家屋、伝統舞踊を紹介する。</p> <p>第十回 「私は青木順です」のまとめと「何人家族ですか？」① 韓国語での自己紹介を一人一人行う。関連単語、「ます」「ますか」等の文法の学習と練習を行う。文化としての伝統的結婚式、楽器等を紹介する。</p> <p>第十一回 「何人家族ですか」② 「お～になります」「が」「と」などの文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十二回 「何人家族ですか」③ 固有数字、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統遊びを紹介する。</p> <p>第十三回 「すみません」① 関連単語、「～してください」、意志を含んだ「ます」等の文法の学習と練習を行う。</p> <p>第十四回 「すみません」② 「いる（いない）」「ある（ない）」の説明と練習。固有数字を使う助数詞、関連会話文の読み、訳を行う。文化としての伝統刺繍を紹介する。</p> <p>第十五回 まとめ 後半の文法を中心にまとめ、試験問題の説明を行う。</p>
科目の目的	基礎的なコリア語を学ぶと同時に、韓国社会や文化への理解も深める。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル文字を正確に読み書きできるようになる。 ・正確な発音をマスターする。 ・挨拶をはじめ、簡単な日常会話を身につける。
関連科目	特になし。
成績評価方法・基準	授業の態度、課題への取り組み（40%）・期末テスト（60%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業で学習した内容はその都度復習しておくこと。外国語の学習は反復・継続することが何より大切なので、毎日10分でもよいので、積極的に取り組むこと。
教科書・参考書	講師作成教材使用予定（コピー）
オフィス・アワー	コリア語の授業のある日12:30～12:50非常勤教員室
国家試験出題基準	特になし。

履修条件・履修上の注意	講師作成の教材を使用する。 配布期間：前回の授業翌日から当該日まで。 持参方法：各自印刷して授業に持参すること（課題も含まれているため、印刷必須）。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 家族をとらえる（1） 近代家族の基本概念 近代家族の特徴 近代家族の誕生 家族とはなにか</p> <p>第2回 家族をとらえる（2） 家族の変動 家族と世帯 世帯の動向 家族周期</p> <p>第3回 家族の機能（1） 近代家族が担ってきた基本機能=生活保障</p> <p>第4回 家族の機能（2） 生産機能 消費機能 社会的・個人的機能</p> <p>第5回 家族のつながり（1） 家族のつながりの変化と現状 家族行動の個別化</p> <p>第6回 家族のつながり（2） 家族のつながりの変化による影響 子育て負担の偏り</p> <p>第7回 家族をめぐる制度 “夫婦別姓”とはどういう問題か</p> <p>第8回 家庭経済（1） 家庭経済内部の4つの活動とその循環</p> <p>第9回 家庭経済（2） 生活とお金 ワーキングプア</p> <p>第10回 生活習慣（1） 生活習慣、医療と生活習慣、生活習慣への働きかけ、家族と生活習慣①食生活</p> <p>第11回 生活習慣（2） 家族と生活習慣②喫煙、③飲酒</p> <p>第12回 ワーク・ライフ・バランス（1） ワーク・ライフ・バランス 働く人の生活への配慮</p> <p>第13回 ワーク・ライフ・バランス（2） 家庭責任をもつ人の仕事への支援</p> <p>第14回 ワーク・ライフ・バランス（3） 看護職としての成長と私生活の運営・充実</p> <p>第15回 ふりかえり 家族とは 「家族」の存在や意味・社会のあり方</p>
科目の目的	学生は皆、家族関係の中にあり、今後その多くは自ら新しい家族を形成していく。また、保健医療サービスの対象者の多くは家族関係の中にあり、サービス提供にあたっては、その人だけでなく、家族や家族関係をも対象とすることが必須である。この科目は、職業人、生活者、市民としての家族に関する見識と“家族する力”の養成と、家族を踏まえた適切な保健医療サービスの提供を可能にする知識の形成を目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 近代家族の特徴、家族機能など、家族を理解し、考察し、ひいては将来サービス対象とするための基本的な概念を習得する 2. 自分と定位家族、自らが将来つくるかもしれない家族、そこにおける家庭生活、家庭生活と職業生活のバランス等についてより具体的に考えられるようになる 3. サービス対象者が家族関係の中にあることや、当事者だけでなく家族関係もサービス対象となることが認識できる
関連科目	<p>【関連し合う教養科目】 ジェンダー論 地域社会学 法学</p> <p>【この科目が基盤となる専門科目】 看護学入門 看護学概論 母性看護学総論 公衆衛生看護学概論 在宅看護論</p>
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫-8-A-ab, 8-B-abc</p>

	《健康支援と社会保障制度》-1-A-abc, 1-B-abcde, 2-A-abcd
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
西谷 泉			

授業形態	講義と演習（毎回前半講義、後半実習）
授業計画	<p>1 回目 統計学の基礎① 統計学の歴史について指導する</p> <p>2 回目 統計学の基礎② 統計学の基本的事項について指導する</p> <p>3 回目 Excelの基本 Excelの基本的事項について指導する</p> <p>4 回目 合計、平均の計算 種々のデータの合計、平均について指導する</p> <p>5 回目 種々のデータの合計、平均について指導する 関数の活用 Excel内の種々の関数について指導する</p> <p>6 回目 最大・最小 種々のデータの最大値・最小値について指導する</p> <p>7 回目 表の作成 種々のデータを表にする方法を指導する</p> <p>8 回目 グラフ作成 種々のデータのグラフの描き方について指導する</p> <p>9 回目 様々なグラフ 種々のグラフの特徴に応じた使い方等について指導する</p> <p>1 0 回目 データベースの基本事項 種々のデータベース作成について指導する</p> <p>1 1 回目 データのソート、検索、集計 種々のデータのソート、検索、集計を指導する</p> <p>1 2 回目 WordへのExcelの埋め込み WordへのExcelの埋め込みについて指導する</p> <p>1 3 回目 研究課題の発表① 各受講生が独自に調べた内容をPowerPointを用いてプレゼンテーションを行う①</p> <p>1 4 回目 研究課題の発表② 各受講生が独自に調べた内容をPowerPointを用いてプレゼンテーションを行う②</p> <p>1 5 回目 まとめ 全体的なまとめと重要な内容の復習と確認を行う</p>
科目の目的	Excelを使用した実習を通して、情報処理の基本的な知識・技能を実習的に習得する。
到達目標	Excelを用いて種々のデータを表やグラフ等に表現処理し、その結果を考察すると共に、結果をプレゼンテーションできるようにする。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	試験(40%)・課題提出(30%)・発表(30%)を総合判断して、成績評価を行う。詳細は、講義の中で説明する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容が理解・習得できるように、特に講義後の復習をしっかり行うこと。
教科書・参考書	教科書「30時間マスター Excel 2013」（実教出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【保健師】 ≪保健統計≫-4-A-abcd
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
西川 久貴			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 法学1 法律の種類、法の機能、法の定義、文化としての法、道徳と法</p> <p>2 法学2 法の発展、現代社会における法の機能</p> <p>3 法学3 国家と法、犯罪と法、家族生活と法、財産関係と法、労働と法、国際社会と法</p> <p>4 憲法総論1 憲法の意味、日本国憲法の成立、大日本帝国憲法との違い</p> <p>5 憲法総論2 国民主権の原理、平和主義の原理、憲法9条の考え方</p> <p>6 基本的人権1 人権の意味、人権の種類</p> <p>7 基本的人権2 幸福追求権、法の下での平等</p> <p>8 基本的人権3 思想・良心の自由、信教の自由、学問の自由</p> <p>9 基本的人権4 表現の自由、集会・結社の自由、通信の秘密</p> <p>10 基本的人権5 職業選択の自由、居住・移転の自由、財産権の保障</p> <p>11 基本的人権6 人身の自由、参政権、生存権</p> <p>12 統治機構1 権力分立の原理、国会</p> <p>13 統治機構2 内閣</p> <p>14 統治機構3 裁判所</p> <p>15 統治機構4 憲法改正の手続</p>
科目の目的	<p>■現代社会における法の機能の基礎的理解。 社会人として、高度に複雑化する社会を理解し、様々なトラブルを法的に解決する糸口を見つけれられる。</p> <p>■日本国憲法の基礎的理解。 日本においてベースとなる価値は何か、その価値を維持・発展するための仕組みにはどのようなものがあるか。</p>
到達目標	<p>■日本国憲法が規定する基本原理や価値の基礎的な理解。</p> <p>■制度の趣旨及び機能を、制度の沿革や諸々の価値の比較検討を通じて、具体的に明らかにする。そのうえで、一定の結論を導き出す考え方を養う。</p>
関連科目	生命倫理、家族学、環境学、ジェンダー論、経済学
成績評価方法・基準	筆記試験（短い論述問題含む）により評価（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	次回講義内容に関する時事問題又は身近な問題についての自分なりの検討。 準備学習に必要な学習時間の目安は1時間です。
教科書・参考書	教科書は使用しません。 参考書：「法と社会 新しい法学入門」碧海純一（中公新書）、「日本人の法意識」川島武宜（岩波新書） 「憲法（第6版）」芦部信喜 高橋和之補訂（岩波書店）
オフィス・アワー	講義の前後。講師控室または講義室
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	講義資料は講義の前日までにはアップロードするので、各自プリントアウトのうえ持参ください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
西菌 大実			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 環境とは 環境問題の範囲と拝啓</p> <p>2 地球の環境の構造 地球の自然の成り立ち</p> <p>3 生活を支える資源 再生可能資源と再生不能資源</p> <p>4 環境問題の変遷 公害問題から地球環境問題へ</p> <p>5 典型七公害 足尾鉍毒、四大公害病</p> <p>6 有害物質による環境汚染 イタイイタイ病を事例として</p> <p>7 水質汚濁（Ⅰ） 水質汚濁の原因、生活排水、BOD</p> <p>8 水質汚濁（Ⅱ） 水質汚濁の対策、下水道と浄化槽、多自然川づくり</p> <p>9 オゾン層破壊 オゾン破壊物質、紫外線</p> <p>10 気候変動（Ⅰ） 温室効果ガス、気候変動の状況と見通し</p> <p>11 気候変動（Ⅱ） 予防原則、先進国・途上国の責任</p> <p>12 エネルギー問題 1次エネルギー、再生可能エネルギー</p> <p>13 廃棄物問題 一般廃棄物、産業廃棄物、感染性廃棄物</p> <p>14 循環型社会 3R、熱回収</p> <p>15 持続可能社会 再生可能資源中心の社会づくり</p>
科目の目的	環境問題への認識は、現代社会を生きていくために不可欠の要素である。また、疾病の発症するバックグラウンドとして、その時代の環境が色濃く反映している。環境理解を深めることによって、社会人としてよりよく生き、適切な保健医療サービスを提供できるようになることを目指す。
到達目標	<p>1. 環境問題の背景と発生原因への理解</p> <p>2. 公害問題、地球環境問題とその対策、関連する法制度の理解</p> <p>3. 資源・エネルギーの適切な利用の理解と循環型社会・持続可能社会構築への認識</p>
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	定期試験（90％）、課題提出（10％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自筆ノートの整備、30時間
教科書・参考書	使用しない（プリント配布）
オフィス・アワー	授業の前後・昼休み、非常勤講師室
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫-2-C-abc ≪健康支援と社会保障制度≫-10-A-abcdef, 10-B-abc, 10-C-abc, 10-D-ab</p> <p>【保健師】 ≪公衆衛生看護学概論≫-3-B-ab</p>
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1回 ジェンダーとは何か 現代のジェンダー構造</p> <p>2回 社会化と役割取得 セクシュアリティ なぜ「女らしい」「男らしい」という概念が生まれるのか セクシュアリティの多様性</p> <p>3回 L G B T と同性婚 L G B T とは パートナーシップ制度</p> <p>4回 メディアとジェンダー ジェンダーが再生産される構造</p> <p>5回 学校教育とジェンダー ジェンダーに敏感な教育とは</p> <p>6回 女性のエンパワーメントとリプロダクティブ・ヘルス ジェンダー平等のためのエンパワーメント教育 女性の性と生殖をめぐる自己決定権の確立</p> <p>7回 ジェンダーと労働① 第一の性別分業：社会的労働と私的労働</p> <p>8回 ジェンダーと労働② 第二の性別分業：基幹労働と周辺労働 二つの性別分業の関係</p> <p>9回 ジェンダーと労働③ 社会資源の男性偏在 男性問題</p> <p>10回 ジェンダーと労働④ 女性問題 女性に対する暴力（DV）</p> <p>11回 ジェンダーと労働⑤ 女性問題 女性の貧困</p> <p>12回 ジェンダーと労働⑥ ハラスメント</p> <p>13回 子育てとジェンダー 子育てにかかわる能力に男女差はあるのか</p> <p>14回 性別について公正な社会へ① 国連女性差別撤廃条約 男女共同参画社会基本法</p> <p>15回 性別について公正な社会へ② 性別について公正な社会の姿とは 社会的労働と私的労働のゆくえ</p>
科目の目的	<p>1. 高度経済成長期以降の日本における、「性別」を組み込んだ社会のありようを解説し、それがどのような問題を生み出してきたかを理解する。</p> <p>2. 若い人たちが形成の担い手となる、「性別に関して公正な社会像」を明らかにし、そこに至る具体的な方策を考える。</p>
到達目標	<p>1. 日常生活・社会生活の中にある、性別に関するさまざまな社会習慣、社会通念を認識できる。</p> <p>2. 1のような従来の慣習・通念にどのような問題があったのかが理解できる</p> <p>3. 2のような問題を乗り越えた、性別について公正で、どのような性別の人にもより生きやすい社会の姿を認識できる。</p> <p>4. 3のような社会へと向かう中で、社会人・生活者・市民となっていく自分自身の生き方をより具体的に考えることができる。</p>
関連科目	家族学、法学
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。定期試験70%・小レポート30%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	なし
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
坂本 祐子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 地域社会学の概論（1） 地域社会、地域コミュニティへのアプローチ。なぜ今「地域」が重要なのか。地域社会とは何か。</p> <p>第2回 地域社会学の概論（2） 地域社会の都市化への変遷・歴史。生活の質とライフスタイルの変化。</p> <p>第3回 地域社会学の概論（3） 地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）①</p> <p>第4回 地域社会学の概論（4） 地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）②</p> <p>第5回 地域社会学の概論（5） 地域社会で解決しうる諸問題について（環境、家族、教育、福祉、防災など）③</p> <p>第6回 地域コミュニティの形成 ソーシャル・キャピタルと地域づくり</p> <p>第7回 「公共サービス」の担い手 共助社会</p> <p>第8回 コミュニティ・ビジネス コミュニティ コミュニティ・ビジネスの事例から学ぶ地域社会</p> <p>第9回 住民参加のまちづくり 市民参加の段階</p> <p>第10回 人口減少社会 人口減少社会とまちづくり</p> <p>第11回 地域おこし協力隊 地域おこし協力隊とは 事例から学ぶ</p> <p>第12回 東日本大震災からの復興 災害と地域社会 人と人とのつながり</p> <p>第13回 分断されるアメリカ社会 格差社会のアメリカが生む地域社会の姿</p> <p>第14回 地域社会における「協働」 より暮らしやすい地域社会の在り方とは</p> <p>第15回 ふりかえり これからの地域社会と私たちの生活</p>
科目の目的	日常生活においては、あまり意識することのない「地域」であるが、様々な領域において、「地域」の重要性が再認識されている。少子高齢の進行する日本社会において、高齢者と子どもの生活も「地域」を基盤としているし、環境や防災の問題においても「地域」での解決を要する問題である。講義を通して、地域社会における問題点、自分の身近な地域における生活の問題と意味を考えることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域社会に関する基本的な知識（地域社会の概念、日本社会における歴史的な地域社会の状況、地域社会の構成要素など）を身につける。 2. 地域社会で解決しうる現代社会の諸問題について学ぶ。 3. 地域社会を身近なこととしてとらえ、地域社会に対して各自が関心と意見を持つ。
関連科目	家族学 ボランティア活動論 経済学 社会福祉・地域サービス論
成績評価方法・基準	講義時間内に、何度か小レポートを実施。期末レポート70%・小レポート30% (10月31日訂正)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	Active Academyにより資料を配布するので、資料内の不明な用語等を調べてくること。また、前回講義の重要事項を見直しておくこと。日頃から新聞に目を通すことを習慣にし、1週間で4時間半以上を自己学習に必要な時間の目安とする。
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	授業の前後（場所：非常勤講師室）
国家試験出題基準	【看護師】 《健康支援と社会保障制度》-7-B-abcd
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を配布するので（前回講義翌日から当該日まで）、各自必ず印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
竹澤 泰子			

授業形態	演習 実践
授業計画	<p>1 ボランティアとは エゴグラムテスト 学生に「ボランティア」についてのディフィニションを問う。エゴグラムテストにより自己分析・認識をする。ボランティア活動のみならず将来の職業においても必要である。</p> <p>2 ボランティア活動 講師の30年間のボランティア活動（日本と米国） 現在行っているボランティア活動について</p> <p>3 ボランティアの歴史 ボランティア活動の歴史概論</p> <p>4 ボランティア活動の経験談1 久保田光明氏</p> <p>5 ボランティア活動の経験談2 アトランタパラリンピック 銅メダリスト 塚本京子氏</p> <p>6 ボランティア活動のプレゼンテーション、調査1 発表に関する資料の作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認、自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話し方について説明。</p> <p>7 ボランティア活動のプレゼンテーション、調査2 発表に関する資料の作り方について質疑応答 グループ毎に現行のボランティア活動を調査する前に、調査の仕方・調査の論点がずれていないかを確認、自分の意見を持ち、聞き手に理解させる話し方について説明。</p> <p>8 プレゼンテーション1 各グループで調査しまとめたことを発表する。学生が相互評価を行う。質疑応答</p> <p>9 プレゼンテーション2 各グループで調査しまとめたことを発表する。学生が相互評価を行う。質疑応答</p> <p>10 プレゼンテーション3 各グループで調査しまとめたことを発表する。学生が相互評価を行う。質疑応答</p> <p>11 プレゼンテーション4 各グループで調査しまとめたことを発表する。学生が相互評価を行う。質疑応答</p> <p>12 プレゼンテーション5 各グループで調査しまとめたことを発表する。学生が相互評価を行う。質疑応答</p> <p>13 ボランティアについて講義全体のまとめ 調査・学習したことについてのまとめ ボランティアについての意見交換</p> <p>14 レポートの書き方 発表した結果をレポートのまとめ方指導</p> <p>15 まとめ レポート提出</p>
科目の目的	ボランティアとは何か。ボランティア活動実施における問題点。ボランティア活動と心の交流。
到達目標	ボランティアについての基本概念とその歴史を修得。 ボランティア活動を国内のみならず国際的な見地からもながめ、現在行われている活動を調査・理解する。そして将来のボランティア活動参加意欲を育てる。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	テーマ毎に行うグループプレゼンテーションとそのレポート(60%)。毎時間講義内容に対する意見提出に対する評価(40%)。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	自分の意見や考え方を表現出来るようにしておく。プレゼンテーション準備に6時間。
教科書・参考書	特になし
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	特になし
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	選択
担当教員			
飯島 正義			

授業形態	講義形式。授業時における理解を確認するためにミニッツ・ペーパーを配布する予定です。		
授業計画	第1回	経済学で何を学ぶのか 授業内容とその進め方、成績評価等についての説明	
	第2回	国民経済の仕組み 経済の3主体、国民経済の仕組みと租税	
	第3回	市場メカニズムとその限界 市場メカニズムとは何か、市場の失敗、外部性	
	第4回	景気循環 景気の波、日本の「景気指標」を読む	
	第5回	物価 物価とは何か、物価指数、インフレ・デフレと私たちの生活	
	第6回	政府の役割 経済に対する政府の役割、政府の失敗	
	第7回	財政・金融政策（1） 財政政策	
	第8回	財政・金融政策（2） 金融政策	
	第9回	国内総生産（GDP）（1） 国内総生産（GDP）とは何か、三面等価の原則	
	第10回	国内総生産（GDP）（2） 三面等価の原則の視点から「国民経済計算」のデータを読む	
	第11回	経済成長 経済成長とは何か、成長要因は、日本の経済成長率の推移を確認する	
	第12回	貿易・国際収支 比較優位説、国際収支とは何か、「国際収支表」を読む	
	第13回	為替レート 為替レートとは何か、為替レートの変動とその影響	
	第14回	日本経済を分析する（1） 経済データを分析することで日本経済の現状を確認する	
	第15回	日本経済を分析する（2） 少子高齢化と今後の日本経済	
科目の目的	経済学は、私たちの経済生活の中に存在する本質を明らかにすることを目的とした学問です。したがって、経済学を学ぶということは、私たちの経済生活そのものを知ることになります。		
到達目標	1. 経済学の基礎知識を身につけることができる。 2. 経済学の基礎理論を使って、現実の経済問題について理解できるようになる。		
関連科目	特にありません。		
成績評価方法・基準	授業内における小テスト：50%、レポート：50%		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	プリント資料で前回の授業内容を復習する共に、次回の授業内容の大筋をつかんでおいて下さい。その際、授業で紹介する参考文献も利用して2時間復習・予習にあてて下さい。		
教科書・参考書	教科書は使用しません。授業中にプリント資料を配布します。参考書については、必要に応じ紹介します。		
オフィス・アワー	授業の前後の時間に講師室で対応します。		
国家試験出題基準	該当しません。		
履修条件・履修上の注意	授業資料をWeb上に添付しますので、各自印刷して授業に持参して下さい。なお、資料の配布期間は、前回授業翌日から当日までとします。		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
杉田 雅子			

授業形態	演習
授業計画	<p>1 科目の説明、大学生の学習・生活、アカデミック・スキルとスチューデント・スキル(杉田) 科目の目的・目標・進め方の説明、高校生までの学習・生活と大学生の学習・生活の違い、アカデミック・スキル、スチューデント・スキルとは</p> <p>2 調べる(佐藤司書) 情報を探す</p> <p>3 インターネットリテラシー(星野) インターネット利用のルールとマナー1</p> <p>4 インターネットリテラシー(星野) インターネット利用のルールとマナー2</p> <p>5 聞く・読む(杉田) 授業を受ける、ノートを取る、本や資料を読む</p> <p>6 考える(杉田) 直感的感情的反応から論理的思考へ、課題を見出す、解決の筋道を組立てる</p> <p>7 書く：レポートの書き方1(杉田) レポートとは何か レポート作成の手順</p> <p>8 書く：レポートの書き方2(杉田) 論文作法</p> <p>9 書く：レポートの書き方3(杉田) レポートの形式</p> <p>10 自身の課題を見つける、書く：テーマを見つける(杉田) 前回までの授業を踏まえて、自身の学習と生活を検証し、学習、生活両面の自己課題を見出す。 レポートのテーマを決める。</p> <p>11 相手の話を聴く(榎本) ロールプレイを通して基本的なカウンセリングの技法を体験する。</p> <p>12 自分の気持ちや考えを伝える(榎本) グループワークを通し、自分の感情や意思をわかり易く伝える練習をする。</p> <p>13 協力して作業する(榎本) これまでのワークを通して身につけたスキルを活用し、周囲と協力して課題を達成する</p> <p>14 書く：レポートを書く(杉田) レポート作成の実践</p> <p>15 書く：レポートを書く(杉田) レポート作成の実践、提出</p>
科目の目的	<p>大学での学習形態や学問に対する姿勢、大人としての生活態度を認識、理解し、高校生までの学習・生活から大学生の学習・生活に移行することができるように、基本的なスキル、姿勢を学ぶ。</p> <p>1. 与えられた知識や技術を身に付けていく高校までの学習から、自ら課題を見つけ、それを解決していく大学の学習のためのスキルの習得、姿勢の理解</p> <p>2. 高校までの大人に守られた生活から、責任ある大人としての生活のためのスキルと姿勢の理解</p>
到達目標	<p>1. 大学での学習に必要な学習習慣・学習技術(アカデミック・スキル)を理解し、授業やレポートで実践できる。</p> <p>2. 責任ある大人としての生活に必要な、基本的な生活習慣を身につけ、大学生活で実践できる。(スチューデント・スキル)</p>
関連科目	全科目
成績評価方法・基準	杉田担当レポート(50%)、榎本担当意見文・感想文(30%)、星野担当感想文(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	前回授業の重要事項を見直しておくこと。約45分間。
教科書・参考書	なし。プリントを使用。
オフィス・アワー	杉田：講義日の昼休み、1号館3階324 星野：講義終了後、あるいは金曜日3限終了後、1号館3階307 榎本：月、水、金の昼休み、1号館3階305
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1～3 第9章 ヒトへの進化（教科書 pp.167～）第1章生命を支える物質（教科書 pp.3～）第2章生命の単位（教科書 pp.13～）</p> <p>①生命の誕生と進化、ヒトへの進化について概説 ②生命現象の普遍的な特質、一様性、多様性、連続性について ③生体内化合物のうち、生命活動に主要な役割を持つ構成成分（水、タンパク質、炭水化物（糖質）、脂質、核酸、無機質（無機塩類））の構造や機能 ④ウイルス、原核細胞（細菌類を含む）、真核細胞について ⑤真核細胞の構造と機能 ・細胞膜の構造と機能 ・細胞質基質の役割 ・粗面小胞体 ・滑面小胞体の構造と機能 ・ゴルジ体の構造と機能 ・リソソーム ・ペルオキシソーム ・ミトコンドリア ・色素体 ・細胞骨格の種類とその役割</p> <p>4～5 第4章 生命活動とエネルギー（教科書 pp.73～）</p> <p>①酵素の性質と酵素反応 ②生命活動とエネルギー ・光合成：光エネルギーを利用して二酸化炭素から炭水化物を作り出す過程 ・呼吸：生体のエネルギー産生過程とミトコンドリアの役割（解糖系からTCA回路、電子伝達系によるエネルギーの産生）</p> <p>6～8 中間試験（30分程度） 第5章 細胞の増殖・細胞の分化と幹細胞（教科書 pp.87～） 講義に先立ち1回～5回までの講義内容についてテスト（中間試験）を行う。</p> <p>①細胞周期の全体像－間期と分裂期－ ・間期（S期、G2期、G1期）における細胞の動き ・細胞周期調節のしくみ ・分裂期（M期）の詳細 体細胞分裂－染色体の構造、娘細胞への染色体（遺伝子）の分配－ 減数分裂－生殖細胞の形成－ ②配偶子の形成 ③ヒトの配偶子形成 ④減数分裂期に起こるキアズマ形成と遺伝子組み換えのメカニズムと意義 ⑤幹細胞（胚性幹細胞、iPS細胞など）について－幹細胞の種類と細胞の再生－ ⑥幹細胞の医療への応用</p> <p>9～10 第6章 遺伝－ヒトを中心に－その1（教科書 pp.106～）</p> <p>①細胞の連続性を担う本体、DNAの複製 ②DNAに組み込まれている遺伝情報 ③遺伝情報発現の詳細 ④原核生物と真核生物における遺伝情報発現コントロール ⑤特定の時期（環境）に特定の遺伝子が発現する機構（あるいは発現しない機構） ⑥性染色体の不活化 ⑦生体に備わっているDNA修復機構</p> <p>11～12 第7章 受精、発生、分化（教科書 pp.137～） 第8章 ヒトの初期発生（教科書 pp.153～）</p> <p>①無性生殖と有性生殖 ②哺乳類の受精 ③発生と分化のしくみ 卵割と胞胚形成 ④胚葉形成（中期胞胚変（遷）移と母性胚性変（遷）移） ⑤器官形成 ⑥発生をつかさどる遺伝子 ⑦アポトーシスと形態形成</p> <p>13～15 第6章 遺伝－ヒトを中心に－その2（教科書 pp.116～）ヒトの遺伝</p> <p>①メンデルの法則とヒトの遺伝 家系図の表し方 ②常染色体性優性遺伝病と劣性遺伝病 ③伴性遺伝病 ④ミトコンドリア病、多因子遺伝病 ⑤保因者・患者の出現頻度－ハーディーワインベルグの法則の有用性－ ⑥染色体異常 ⑦先天異常 生物学まとめ－期末試験に向けて－</p>
科目の目的	高等学校「生物基礎」履修済みを前提に、専門科目の生命科学関連科目を理解するために必要な生命現象の基礎知識を深めることを目的とする。
到達目標	次の事項を学ぶことによりヒトの生命活動の全体像を理解する。 1. 生命の単位、細胞 2. 生命活動とエネルギー 3. 細胞の増殖と分化 4. 生殖と発生 5. 遺伝 6. ヒトの遺伝
関連科目	化学基礎、解剖学、生理学、生化学
成績評価方法・基準	学習到達目標の達成度を測る内容の中間試験（35%）・定期試験（50%）・授業中に行うミニテスト（15%）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	各回ともシラバスの講義内容に一致する高等学校生物の教科書または補助教材を復習し、指定されている教科書を読んでおくこと。特に、授業範囲の専門用語について理解しておくこと。準備学習は1時間程度必要である。
教科書・参考書	教科書：「人の生命科学」 佐々木史江、堀口 毅、岸 邦和、西川純雄（医歯薬出版株式会社） 参考書Ⅰ：高校で[生物基礎]のみ履修した学生： ①高校生物補助教材「フォトサイエンス生物図録」（数研出版） ②「最新図説生物」（第一学習） ③「アメリカ版 大学生物学の教科書 1巻～3巻」 D.サダヴァ他著 ブルーボックス（講談社） 参考書Ⅱ：高校で[生物基礎][生物]を履修した学生： ①「アメリカ版 大学生物学の教科書 1巻～3巻」 D.サダヴァ他著 ブルーボックス（講談社） ②「はじめの一歩のイラスト生化学・分子生物学」 前野正夫・磯川桂太郎著（羊土社） ③「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学」 和田 勝（羊土社）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 求			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 指数表現 指数法則、非整数乗、科学的表記法。</p> <p>2 変数計算 四則演算、累乗、根号、括弧の処理。変数がxではない場合にも慣れる。</p> <p>3 関数 2次方程式の解。n次関数や指数関数の大まかな振る舞い。</p> <p>4 対数 対数の導入。pHへの応用。</p> <p>5 三角比 一般角、三角比、三角関数の導入。力や速度の分解。</p> <p>6 三角関数 三角関数の一般式とグラフ。</p> <p>7 確率 確率と期待値。条件付確率。</p> <p>8 論理と命題 必要条件・十分条件・必要十分条件。裏・逆・対偶。論理的な判断とは。</p>
科目の目的	<p>高校までの数学のうち科学の基礎となる部分を復習する。 科学的知見に基づく医療を行うために欠かせない、定量的な評価、論理的な分析を行う能力の基礎を身につける。</p>
到達目標	<p>1. 基礎的かつ必要となる数学概念の復習。 2. 感覚的ではなく、数值的・論理的に現象を捉えるセンスを身につける。 3. 数値だけが一人歩きするようなことの無いよう、適用できる範囲の判断ができるようになる。</p>
関連科目	化学基礎
成績評価方法・基準	筆記試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>高校数学教科書の相当部分を読んでから講義に臨めばより効果的だが、受講生には予習よりも講義の復習を期待する。 前回のプリントの演習問題、作業課題はこなしておくこと。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：使用しない(プリント配布) 参考書：特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後、講義日の昼休み
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
日置 英彰			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 化学の立場から医療を考える 歴史的に重要な化学物質を取り上げて、化学物質がどのように医療に貢献してきたか考える。</p> <p>第2回 共有結合化合物と有機分子 生体を構成している物質のほとんどは有機分子である。有機分子の結合様式、特異な形、一般的な性質について解説する。</p> <p>第3回 有機化合物各論 アルコール、エーテル、カルボン酸、アミン等の性質について解説する。</p> <p>第4回 生体を構成する有機化合物 糖、タンパク質、核酸の化学構造とその性質について解説する。</p> <p>第5回 水の性質と物質の状態変化 ヒトの体の半分以上を占める水の性質と浸透や物質の三態（気体、液体、固体）について解説する。</p> <p>第6回 酸と塩基 酸、塩基、緩衝液について解説する。</p> <p>第7回 酸化と還元 物質の酸化と還元、生体内での酸化還元反応について解説する。</p> <p>第8回 まとめ 内容を振り返ってまとめる。</p>
科目の目的	医療と化学の関係は深い。生命活動自身が秩序だった化学反応であり、医薬品、医用材料、臨床検査薬等を扱うには化学的な見方・考え方は重要である。本講義ではその基礎を習得する。
到達目標	生体関連物質、医薬品、医用材料など医療に密接に関係している化学物質の性質や反応を理解する。
関連科目	生化学
成績評価方法・基準	試験（80%）、毎講義ごとのリアクションペーパーの提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習は必要ないが、毎回の講義の理解度を確保するために、各講義ごとに約一時間程度出題されるチェックテストを復習してください。
教科書・参考書	教科書：看護系で役立つ化学の基本 有本淳一・西沢いづみ著 化学同人 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義前後の時間
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
柴山 森二郎			

授業形態	演習
授業計画	<p>第 1 回 Unit 1 be動詞, Unit 2 一般動詞, Unit 3 未来形</p> <p>第 2 回 Unit 4 助動詞, Unit 5 冠詞, Unit 6 代名詞</p> <p>第 3 回 Unit 7 前置詞, Unit 8 接続詞</p> <p>第 4 回 Unit 9 比較, Unit 10 進行形</p> <p>第 5 回 Unit 11 to不定詞, Unit 12 動名詞</p> <p>第 6 回 Unit 13 受動態, Unit 14 現在完了</p> <p>第 7 回 Unit 15 関係詞, Unit 16 仮定法</p> <p>第 8 回 まとめ</p>
科目の目的	中学・高校で習った英語の語法を復習する。
到達目標	基礎的な英語を聞く、話す、読む、書くことができるようになる。
関連科目	英語 I その他の英語科目
成績評価方法・基準	授業中の小テスト (40%)、期末テスト (60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業の予習と復習それぞれ1時間
教科書・参考書	教科書： Symply Grammar (シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法) 著 者： 斉藤喜久志 城一道子 出版社： 南雲堂 (03-3268-2311) ISBN978-4-523-17545-2
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	分からないことは質問をすること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1学年	2単位	必修
担当教員			
浅見 知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<p>1. 序論 解剖学とは何か 器官とその系統 上皮組織 支持組織</p> <p>2. 序論 筋組織 神経組織 人体の外形と方向用語</p> <p>3. 骨格系 骨格とは何か 骨の形 骨の構造 骨の発生と成長 骨の連結・関節</p> <p>4. 骨格系 頭部の骨 脳頭蓋 顔面頭蓋 鼻腔・副鼻腔</p> <p>5. 骨格系 脊柱 胸郭</p> <p>6. 骨格系 上肢の骨格 上肢帯の骨 上腕の骨 前腕の骨 手の骨</p> <p>7. 骨格系 下肢の骨格 下肢帯の骨 骨盤 大腿の骨 下腿の骨 足の骨</p> <p>8. 筋系 筋の構造と機能</p> <p>9. 筋系 頭頸部の筋 顔面筋 咀嚼筋 胸鎖乳突筋 舌骨上筋群・下筋群 斜角筋 椎前筋</p> <p>10. 筋系 胸腹部の筋 大胸筋 小胸筋 前鋸筋 僧帽筋 広背筋 脊柱起立筋 肋間筋 横隔膜 腹直筋 側腹筋群 鼠径靭帯と鼠径管</p> <p>11. 筋系 上肢・下肢の筋 三角筋 上腕二頭筋 上腕三頭筋 前腕の筋 手の筋 腸腰筋 殿筋群 外旋筋群 内転筋群 大腿二頭筋 大腿四頭筋 (ハムストリングス) 前脛骨筋 下腿三頭筋 足の筋</p> <p>12. 脈管系 血管系 心臓 刺激伝導系 心臓の血管 (冠状動脈) 肺循環と体循環</p> <p>13. 脈管系 動脈系 大動脈 総頸動脈とその枝 鎖骨下動脈とその枝 胸・腹大動脈の枝 総腸骨動脈、骨盤と下肢の動脈</p> <p>14. 脈管系 静脈系 上大静脈とその枝 奇静脈 下大静脈とその枝 門脈 下肢と骨盤の静脈 胎生時の循環系</p> <p>15. 脈管系 リンパ系 (リンパ節 リンパ本幹) 脾臓 胸腺 血液・血球・造血組織</p> <p>16. 消化器系 粘膜 腺 口腔 (歯 口蓋 舌 唾液腺) 咽頭</p> <p>17. 消化器系 食道 胃</p> <p>18. 消化器系 小腸 (十二指腸 空腸・回腸) 大腸</p> <p>19. 消化器系 肝臓 胆嚢 膵臓</p> <p>20. 呼吸器系 鼻腔 副鼻腔 咽頭 喉頭 気管支 気管</p> <p>21. 泌尿器系 腎臓 尿管 膀胱 尿道</p> <p>22. 生殖器系 男性の生殖器 (精巣・精巣上体 精管 精嚢と前立腺 陰茎 精液と精子)</p> <p>23. 生殖器系 女性の生殖器 (卵巣 卵管 子宮 胎盤 陰と外陰部) 腹膜</p> <p>24. 内分泌系</p>

	<p>下垂体 松果体 甲状腺 上皮小体 副腎 膵島</p> <p>25. 神経系 神経系の構成 中枢神経系 (脊髄 延髄と橋 小脳 中脳 間脳)</p> <p>26. 神経系 大脳 脳の血管 脳室と脳脊髄膜</p> <p>27. 神経系 末梢神経 (脳神経 脊髄神経)</p> <p>28. 神経系 自律神経系 (交感神経 副交感神経) 伝導路</p> <p>29. 感覚器系 視覚器 (眼球 眼球の付属器)</p> <p>30. 感覚器系 平衡聴覚器 (外耳 中耳 内耳) 皮膚 角質器 皮膚の腺</p>
科目の目的	看護学を学ぶ上で必要と考えられる、また医療技術者としての基本知識となる人体の肉眼解剖学的構造を習得する。
到達目標	人体の基本的な器官系の位置、構造を説明できる。
関連科目	解剖学Ⅱ 生理学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門人体解剖学 藤田恒夫 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (asami@paz. ac. jp) 。
国家試験出題基準	人体の構造と機能－Ⅰ, Ⅱ-1-A, C 3-A, B, C 4-A, B, C 5-A, B, C, D, E, F, G 6-A, B, C 7-A, B 8-A-a, b 9-A, B 10-A, B, C 11-A, B 13-A, B, C 15-C-a, b, c, d, e, f, g 16-A, B
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
浅見 知市郎			

授業形態	講義
授業計画	1. 発生学 受精から着床 発生の第2週・第3週 2. 発生学 発生の第4週～第8週 胎生第3月～出生 3. 細胞学 細胞内小器官の構造と機能 4. 組織学総論 上皮組織 5. 組織学総論 結合・支持組織 6. 組織学総論 筋組織 7. 組織学総論 神経組織 8. 組織学総論 神経細胞 神経線維 シナプス 9. 組織学総論 神経膠細胞 末梢神経の支持細胞 10. 循環系 血管 11. 循環系 血液 骨髄 12. 循環系 リンパ 13. 消化器系 口腔 歯 歯周組織 咽頭 食道 胃 14. 消化器系 小腸 大腸 肝・胆・膵 15. 呼吸器系 鼻腔と副鼻腔 喉頭 気管 主気管支 肺
科目の目的	看護学を学ぶ上で必要と考えられる、また医療技術者としての基本知識となる人体の組織学的構造、発生学を習得する。
到達目標	代表的な器官の組織を判別でき、その構造を説明できる。 人体の発生過程を説明でき、各臓器・器官の由来胚葉を知っている。
関連科目	解剖学Ⅰ 生理学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の講義予定の部分を理解しながら通読すると、概ね1時間かかるはずである。
教科書・参考書	教科書：入門組織学 牛木辰男 南江堂 参考書：特になし
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する (asami@paz.ac.jp)。
国家試験出題基準	人体の構造と機能Ⅰ, Ⅱ-1-A-a, b, c C-a, b, c, d 4-A-a, b
履修条件・履修上の注意	教科書は必ず持参のこと

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
浅見 知市郎			

授業形態	講義
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器系 骨格系、筋系の構造とその疾患 2. 循環器系 心臓と心疾患 大動脈とその疾患 3. 循環器系 静脈、リンパ系とその疾患 4. 内臓系 消化器系とその疾患 呼吸器系とその疾患 泌尿器系とその疾患 5. 内分泌系 内分泌器官とその疾患 6. 神経系 中枢神経系とその疾患 7. 神経系 末梢神経系とその疾患 8. 感覚器系 視覚器、聴覚器、皮膚とそれらの疾患
科目の目的	1年次に学習した解剖学を復習し、各種疾患との関係を学習する。
到達目標	各種疾患が解剖学的構造と、どのように関係しているか説明できる。
関連科目	専門科目群
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに沿って教科書の該当項目を熟読すると概ね1時間を要する。
教科書・参考書	教科書：特になし 参考書：新訂版 図解ワンポイント解剖学 渡辺皓 サイオ出版
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する（asami@paz.ac.jp）。
国家試験出題基準	人体の構造と機能- I, II-3-C-a, b, c, d, e, f 4-B-a, b, c, d, e C-a, b, c, d 5-A-b, d B-a, d, e C-a D-a E-a F-a G-a, b 6-A-a, b, c B-a, b, c, d, e, f C-a, b 10-A-a, c, d B-a, b C-a 11-A-a, b, c, d, e B-a, b, c, d, e, f, g, h 13-A-a, b, c B-a, b C a, b, c 15-C-a, b, c, d, e, f, g 16-A-a, b, c, f B-a, b, c
履修条件・履修上の注意	予習をして疑問点を明らかにしておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	1学年	2単位	必修
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 ガイダンス 生理学の基礎の基礎 生理学講義を受講するにあたって 細胞・組織・器官</p> <p>2、3 神経の基本的機能 神経細胞の形態、興奮伝導、興奮伝達</p> <p>4、5 筋肉の基本的機能 筋細胞の形態と興奮、骨格筋の収縮</p> <p>6～8 神経系の機能 末梢神経系(体性神経系、自律神経系)、中枢神経系、運動機能の調節</p> <p>9～12 感覚の生理学 様々な感覚の受容と知覚のメカニズム</p> <p>13～15 睡眠・記憶・情動 脳の高次機能</p> <p>16、17 内分泌系の機能 ホルモンの一般的特徴、内分泌器官の機能</p> <p>18～20 循環の生理学 心臓血管系の基本構造と機能、調節</p> <p>21、22 呼吸の生理学 呼吸器系基本構造と機能、調節</p> <p>23、24 尿の生成と排泄および体液とその調節 腎臓の構造と機能、調整、尿生成、蓄尿と排尿、体液の恒常性を維持する仕組み</p> <p>25、26 消化と吸収 消化管の基本構造と機能、調節</p> <p>27、28 血液の生理学 血液の組成とその機能</p> <p>29、30 体温とその調節 体温の意義とその調節メカニズム</p>
科目の目的	人体の各部分の構造と機能を学び、医療職に必要な基礎知識を身につける。
到達目標	人体各部の機能および、それを生み出す基本構造と仕組みを確認すること。 これらを発展させ疾患に対したときの機能の低下、不安定状態などをよみとる基礎能力を養うこと。
関連科目	解剖学、生化学
成績評価方法・基準	講義題目毎に小テストを行う。 前期小テストの平均点×0.7+前期期末試験の点数×0.3 で前期の最終的な評価を決定する。 後期小テストの平均点×0.7+後期期末試験の点数×0.3 で後期の最終的な評価を決定する。 前期の最終的な評価と後期の最終的な評価の平均点を 本科目の最終的な評価とする
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	授業内容および小テストや期末テストの内容は、指定した教科書に準ずる。 そのため、指定した教科書を中心とした予習・復習が単位認定のカギとなる。
教科書・参考書	教科書：「シンプル生理学 第7版」貴邑富久子、根木英雄（南江堂） 参考書：「標準生理学」（医学書院） 「人体の正常構造と機能」（日本医事新報社） 「トートラ 人体の構造と機能」（丸善） 他
オフィス・アワー	講義実施日の18：00～19：00 他、随時
国家試験出題基準	<p>《人体の構造と機能》-II-1-A-a, b, c</p> <p>《人体の構造と機能》-II-1-B-c</p> <p>《人体の構造と機能》-II-2-A-a, b</p> <p>《人体の構造と機能》-II-2-B-a, b</p> <p>《人体の構造と機能》-II-3-C-a, b</p> <p>《人体の構造と機能》-II-4-A-a</p> <p>《人体の構造と機能》-II-4-B-a, b, c, d, e, f, h, i</p> <p>《人体の構造と機能》-II-4-C-a, b, c, d</p> <p>《人体の構造と機能》-II-5-A-a, b, c, d</p> <p>《人体の構造と機能》-II-5-B-a, b, c, d, e 他</p>
履修条件・履修上の注意	公欠以外の欠席は、原則前期または後期の最終成績から1回につき10点減点する。30コマ講義なので、前後期計10回の欠席で履修放棄となるので注意。

講義科目名称：臨床生理学

授業コード：2N035

英文科目名称：Clinical Physiology

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
洞口 貴弘			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 神経と筋 神経と筋の基本的機能について再確認する</p> <p>2 神経系 神経系の機能について再確認する</p> <p>3 感覚、体温 感覚、体温の機能について再確認する</p> <p>4 内分泌系 内分泌系の機能について再確認する</p> <p>5 呼吸器系 呼吸器系の機能について再確認する</p> <p>6 血液・循環系 血液・循環系の機能について再確認する</p> <p>7 腎 腎の機能について再確認する</p> <p>8 消化器系 消化器系の機能について再確認する</p>
科目の目的	人体の構造と機能について再確認し、臨床現場に応用する。
到達目標	人体各部の構造と機能について復習し、疾患時の機能低下の理由を理解し、それを基に看護計画を立てられるようになる。
関連科目	生理学、解剖学、生化学
成績評価方法・基準	期末試験(100%) 公欠以外の欠席は、原則最終成績から10点減点する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	既に履修済みである、生理学の復習
教科書・参考書	教科書：特に無し 参考書：「シンプル生理学」(南江堂) 「標準生理学」(医学書院) 「人体の正常構造と機能」(日本医事新報社) 他
オフィス・アワー	講義実施日の18:00~19:00 他、随時
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	公欠以外の欠席は、原則最終成績から1回につき10点減点する。7.5コマ講義なので、3回の欠席で履修放棄となるので注意。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	選択
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 生化学入門～ 生体化学成分の基礎 ～ 生体を構成する主な化学成分について概説する。また細胞の基本構造および、それぞれの細胞小器官の役割について生化学的な視点から解説する。</p> <p>2, 3 生体成分の構造と機能 I～ 糖質と病態 ～ 三大栄養素の一つである糖質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、インスリンやグルカゴンのような糖質制御ホルモンと病態との関係を解説する。</p> <p>4, 5, 6 生体成分の構造と機能 II～ 脂質と病態 ～ 三大栄養素の一つである脂質について、①エネルギー源としての役割、②生体膜構成成分としての役割、③生理活性シグナル因子としての役割を中心に解説する。また、生体内における脂質の代謝異常と病態との関係を解説する。</p> <p>7, 8 生体成分の構造と機能 III～ タンパク質・アミノ酸と病態 ～ 三大栄養素の一つであるタンパク質について、その分類や代謝経路などを中心に解説する。また、タンパク質を構成するアミノ酸の分類、性質、病態との関連などについて解説する。</p> <p>9 生体成分の構造と機能 IV～ 遺伝子と病態 ～ RNAやDNAを構成する核酸の構造や性質を解説する。また、DNAの翻訳からタンパク質の生合成までのメカニズムを解説する。さらに、遺伝子の変異に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>10, 11 生体成分の構造と機能 V～ ビタミンの役割と病態 ～ 微量栄養素であるビタミンの分類と機能を解説する。また、脚気、懐血病などビタミン欠乏に伴い発症する病態について解説する。</p> <p>12, 13 生体成分の構造と機能 VI～ ミネラルの役割と病態 ～ 生体内で必要不可欠なミネラルの種類、欠乏症、過剰症について概説する。</p> <p>14 臓器の生化学 人体の各臓器（循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系）における生化学的な代謝機能および関連疾患を概説する。</p> <p>15 癌の生化学 生体を構成する細胞の周期と増殖機構を踏まえて、癌の発生メカニズムを解説する。また、現在汎用されている腫瘍マーカーについても概説する。</p>
科目の目的	生命現象の基本原則とそれに関連する病態を分子レベルで理解することで、化学的根拠に基づいた視点を有する看護師の育成を目指す。
到達目標	生体内の様々な化学物質による生命現象を理解したうえで、それらが各種病態においてどのように変化するのかを理解する。
関連科目	化学基礎、生物学基礎、生理学、栄養学、薬理学
成績評価方法・基準	定期試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	有機化学および生物学の基礎知識を必要とする。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：栄養科学シリーズ NEXT 生化学（講談社） 参考書：シンプル生化学（南江堂） イメージできる生化学・栄養学（MCメディカ出版）
オフィス・アワー	講義終了後 質問は E-mail (k-takahashi@paz.ac.jp) でも受け付ける
国家試験出題基準	1～3：人体の構造と機能12-B-c、4～6：人体の構造と機能12-B-d、7～8：人体の構造と機能12-B-e、9：人体の構造と機能12-B-f、10～11：人体の構造と機能12-B-g
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
門傳 剛			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 序論 病理学とは。病因論。内因、外因。公害病と医原病。疾病の分類。</p> <p>2 先天異常 奇形。奇形の種類。遺伝の関与。遺伝異常による疾患。遺伝性疾患の診断と治療。</p> <p>3 代謝異常1 細胞の障害と適応。変性。壊死とアポトーシス。細胞の適応。</p> <p>4 代謝異常2 物質沈着による細胞障害。脂質代謝異常と疾患。タンパク質代謝異常と疾患。</p> <p>5 代謝異常3 糖代謝異常と疾患。有機質、無機質代謝の異常と疾患。</p> <p>6 循環障害1 循環器系とは。循環血液量の異常。充血、うっ血、出血、虚血、ショック。</p> <p>7 循環障害2 閉塞性の循環障害。血栓症。播種性血管内凝固。塞栓症。側副循環とは。リンパ系の疾患。</p> <p>8 炎症と免疫、膠原病1 炎症。炎症の原因、経過、治療。創傷治癒。炎症の各型。</p> <p>9 炎症と免疫、膠原病2 免疫とアレルギー。自然免疫系と適応免疫系。免疫店頭細胞。抗体と補体。能動免疫と受動免疫。</p> <p>10 炎症と免疫、膠原病3 免疫不全。先天性免疫不全。エイズ。移植と自己免疫。主要組織適合複合体。膠原病。</p> <p>11 腫瘍1 腫瘍の定義と分類。異型度、分化度、悪性度。悪性腫瘍の転移と進行度。</p> <p>12 腫瘍2 腫瘍の発生病理。腫瘍の発生原因。がん発生の外因、内因。</p> <p>13 腫瘍3 悪性腫瘍の診断、治療、予防。</p> <p>14 老化と死 老化とは。ホメオスタシスの老化。組織、臓器の老化。アンチエイジング。死について。</p> <p>15 病理検査 病理検査の意義。細胞診、組織診。手術時の迅速診断。病理解剖。病理組織、細胞診の作製過程。</p>
科目の目的	病理学は病気の原因・経過および結果を追及し、病気における形態的、機能的変化を明らかにする学問である。本講義はその総論的な内容から、実際の臨床にどうかかわっていくかを学び、看護に必要な知識を得る。病因について学習し、その後先天異常、代謝異常、循環異常、炎症、腫瘍という病変の五大カテゴリーを学び、老化と死についても概略を学ぶ。
到達目標	病理学的な分野の基礎事項に関して、看護に必要な内容の理解と知識を得る。
関連科目	解剖学Ⅰ、Ⅱ。生理学
成績評価方法・基準	試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	毎回の講義内容をよく復習し、重要事項を頭に入れること。講義前に授業資料に目を通しておき、どのような流れの授業なのかを把握しておくこと。
教科書・参考書	特になし。
オフィス・アワー	講義日の昼休み。または講義した内容に質問があれば出席表を利用する。
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修問題》－Ⅰ－2－B－abc 《必修問題》－Ⅲ－11－A－a`x 《必修問題》－Ⅲ－11－B－abcd 《人体の構造と機能》－ⅠⅡ－9－A－abcd 《人体の構造と機能》－ⅠⅡ－9－B－abcde 《人体の構造と機能》－ⅠⅡ－16－D－ab 《疾病の成り立ちと回復の促進》－Ⅰ－1－A－ab</p>

	≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅰ-1-B-ab ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-2-A-abc ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-2-B-abc ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-2-C-abcdefg ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-2-D-abcde ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-3-A-a ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-3-B-abc ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-3-c-abcdefg ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-3-D-abcdefghi ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅱ-3-E-abcd
履修条件・履修上の注意	特になし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 循環器系 循環器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第2回 血液・造血器系 血液・造血器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第3回 呼吸器系 呼吸器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第4回 消化器系 消化器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第5回 腎・泌尿器・生殖器系 腎・泌尿器・生殖器系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第6回 内分泌系 内分泌系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第7回 脳・神経・筋肉系 脳・神経・筋肉系の主な疾病の成り立ちと回復の要点。</p> <p>第8回 その他 その他の疾病の成り立ちと回復の要点。</p>
科目の目的	病理学（疾病の成り立ちと回復の促進）について要点を再学習し、臨床的な問題に対処する力を高める。
到達目標	各領域の疾病の病態への理解を深め、看護の際に必要とされる臨床的な見通しを立てる事が出来る。
関連科目	看護学の各専門科目。
成績評価方法・基準	過去の国家試験に準じた問題形式で評価する（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の半分を復習にあてること。1コマあたり4時間の目安。
教科書・参考書	教科書：「疾病のなりたちと回復の促進[1] 病理学」（医学書院） 参考書：なし
オフィス・アワー	講義日の前後（原則）、夕まで可
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
高橋 克典			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 免疫学総論 免疫の概念、自己と非自己を認識するしくみ</p> <p>2 生体防御システム概論Ⅰ～自然免疫と獲得免疫～ 自然免疫と獲得免疫の違いおよびそのメカニズム</p> <p>3 生体防御システム概論Ⅱ～細胞性免疫と液性免疫～ 免疫細胞による細胞性免疫と液性免疫による生体防御機構の特徴や違い</p> <p>4 感染症学総論～感染経路と感染対策～ 感染症の定義、感染経路、院内感染対策法</p> <p>5 細菌感染症概論 細菌の分類や特徴、抗菌薬の種類、薬剤耐性メカニズム</p> <p>6 細菌感染症各論Ⅰ 食中毒の原因菌</p> <p>7 細菌感染症各論Ⅱ 院内感染および性感染の原因菌</p> <p>8 細菌感染症各論Ⅲ リケッチア・クラミジア・抗酸菌感染症</p> <p>9 真菌・寄生虫感染症 カンジダ症・マラリア・赤痢アメーバ</p> <p>10 ウイルス感染症概論 ウイルスの分類や特徴、抗ウイルス薬、風邪症候群</p> <p>11 ウイルス感染症各論 食中毒の原因菌、肝炎ウイルス、ウイルス性出血熱、H I V</p> <p>12 免疫異常Ⅰ 免疫不全症の分類と特徴、</p> <p>13 免疫異常Ⅱ アレルギーの分類・特徴と発生メカニズム</p> <p>14 免疫異常Ⅲ 免疫寛容と自己免疫疾患</p> <p>15 輸血と免疫 血液型と不適合輸血、輸血検査、輸血感染</p>
科目の目的	生体防御機構を中心とした免疫システムの基礎知識を習得し、免疫異常症の理解を深める。細菌・ウイルスを中心とした病原体による感染症の種類、感染経路、感染予防法など臨床現場で必要となる感染知識を身に付ける。
到達目標	1. 細胞性免疫と液性免疫を理解する。2. 自己免疫疾患と自己抗体の関係を理解する。3. アレルギーの種類と特徴を理解する。4. 感染症の特徴と感染対策法を理解する。5. 主な細菌感染症について理解する。6. 主なウイルス感染症について理解する。7. 輸血のリスクについて理解する。
関連科目	生理学・疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	復習を行い、各自知識整理を行うこと。準備学習に必要な学習時間の目安は概ね1時間程度。
教科書・参考書	教科書：「病気がみえる⑥ 免疫・膠原病・感染症」（メディックメディア） 参考書：「わかる 身につく 病原体・感染・免疫」（南山堂）
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個人別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	1～3：必須問題3-10-A-d、必須問題3-11-B-c、人体の構造と機能-9-A、人体の構造と機能-9-B-a～d 4,7：基礎看護-共通基礎技術-E、必須問題4-患者の安全と安楽を守る技術-c 11～12：成人看護学-14-D、成人看護学-14-E-a、疾病の成り立ちと回復の促進-8-c 13：成人看護学-14-E-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-B 14：成人看護学-14-A-b,c、成人看護学-14-B-b、疾病の成り立ちと回復の促進-8-A
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 薬理学とは 薬理学の基本知識。薬物治療に影響を与える因子。</p> <p>2 薬物動態 投与経路と薬の吸収。分布、代謝、排泄。</p> <p>3 麻酔薬と中枢興奮薬 全身麻酔薬。局所麻酔薬。中枢興奮薬。</p> <p>4 解熱鎮痛薬・抗炎症薬と麻薬 解熱鎮痛薬・抗炎症薬。麻薬性鎮痛薬・麻薬拮抗性鎮痛薬。</p> <p>5 向精神薬と抗痙攣薬 向精神薬。抗痙攣薬（抗てんかん薬）。 筋弛緩薬と抗パーキンソン薬</p> <p>6 自立神経薬 自律神経の基礎知識。 コリン作動薬とコリン作動性効果遮断薬。 アドレナリン作動薬とアドレナリン遮断薬。</p> <p>7 オータコイド オータコイドの種類とその作用。プロスタグランディンの臨床応用。</p> <p>8 強心薬 強心薬（ジギタリス）の投与方法。ジギタリスの副作用とその対策。 抗狭心症薬と抗不整脈薬</p> <p>9 利尿薬と降圧薬 利尿薬。利尿薬の臨床的応用。降圧薬。抗動脈硬化薬。</p> <p>10 消化器病薬と駆虫薬</p> <p>11 呼吸器病薬 呼吸器病薬。抗結核薬。</p> <p>12 内分泌薬 下垂体ホルモン・甲状腺ホルモン・糖尿病治療薬。 副腎皮質ホルモン・男性ホルモン・生殖系内分泌薬。</p> <p>13 血液病薬と抗癌薬 貧血の薬。止血薬。抗血栓療法薬。 抗癌薬の開発と化学療法。抗癌薬の副作用と組み合わせ。</p> <p>14 化学療法薬と免疫療法薬 化学療法薬。抗ウイルス剤。免疫について。免疫療法。</p> <p>15 消毒薬 滅菌・消毒法。消毒薬の濃度と殺菌速度。</p>
科目の目的	医療の中で投薬（服薬、注射、輸液、外用など）の役割は大きい。そこで、医療に携わる者は「薬物の種類とその作用に関する基本的知識」を持ち、しかもそれに「的確な理解」が伴っている必要がある。薬理学概論ではそれらを見通しよく学習する。具体的にはその内容は以下の通りである。1) 薬理学の役割、構成、新薬の開発、医薬品の歴史、など薬理学の基本的知識を学ぶ。2) 薬物治療に影響を与える因子として、生体側、薬物側の因子を学び、副作用に関しても学ぶ。3) 薬の生体内運命と薬効との関係を学ぶ。ここでは、投与経路と吸収、分布・代謝・排泄に関して学ぶ。4) 薬物の種類と作用メカニズムの概略を系統的に学ぶ。
到達目標	薬物動態に関する基本的知識を得ること、薬物の作用機序による分類を知ること、主要な薬剤の適用に関する基礎的知識を持つこと、禁忌に関して学ぶこと。以上に関して、理学療法に必要とされるレベルに到達することを目標とする。
関連科目	生理学Ⅰ・Ⅱ、生化学
成績評価方法・基準	試験（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	短期間の間に広範な内容を学ぶことになるので、毎回の講義で学んだことをよく復習することが望ましい。その際に、これまでに学んだ疾患に関する知識をよく思い出し、関連付けを明確にしておこう。それが次の内容を受け入れやすくなり、準備学習を兼ねることになる。復習時間は約1時間。

教科書・参考書	教科書：使用しない。 参考書：「新版看護学全書6 疾病の成り立ちと回復の促進薬理学」（メヂカルフレンド社）。
オフィス・アワー	火曜日の昼休み。
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-2-D-e 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-C-b 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-D-a~g 《必修問題-3》-III-12-Aa~l 《必修問題-3》-III-12-Ba~d
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
栗田 昌裕			

授業形態	講義。
授業計画	<p>1 薬理学の総論 1。 薬理学の総論の基本概念を復習する（1回目）：用量と薬理作用、受容体と作用、薬物動態、薬物に影響を与える因子、など。</p> <p>2 薬理学の総論 2。 薬理学の総論の基本概念を復習する（2回目）：ライフサイクルと薬物、薬物の働く仕組み、麻酔薬・睡眠薬の効く仕組み。薬物の相互作用、副作用・中毒、麻薬、毒薬、薬物の保管・管理、臨床検査、など。</p> <p>3 薬物治療の各論 1：①炎症、②腫瘍。 ① 副腎皮質ステロイド、細菌感染症、真菌症、ウイルス感染症、消毒薬、ワクチン、自己免疫疾患の治療、など。② 悪性腫瘍の治療、抗がん剤、ホルモン治療、など。</p> <p>4 薬物治療の各論 2：③代謝・内分泌疾患、④脳・神経疾患。 ③ 糖尿病、甲状腺機能異常症、脂質異常症、痛風、卵巣機能低下症、骨粗鬆症など。④ てんかん、頭痛、パーキンソン病、アルツハイマー病、脳血管障害など。</p> <p>5 薬物治療の各論 3：⑤精神疾患、⑥血液疾患 ⑤ 認知症、統合失調症、躁うつ病、不安神経症、など。⑥ 貧血、血栓症など。</p> <p>6 薬物治療の各論 4：⑦循環器疾患、⑧腎臓・泌尿器疾患。 ⑦ 高血圧、心不全、種々の不整脈、狭心症、など。⑧ 浮腫、蓄尿障害、排尿障害、前立腺肥大、など。</p> <p>7 薬物治療の各論 5：⑨消化器疾患、⑩呼吸器疾患。 ⑨ 胃・十二指腸潰瘍、胆石症、胆道疾患治療薬、など。⑩ 慢性閉塞性肺疾患、気管支喘息、アレルギー、など。</p> <p>8 薬物治療の各論 6 ⑪感覚器の疾患 ⑪ めまい、緑内障、皮膚疾患、など。</p>
科目の目的	薬理学の知識を臨床実践に活用する考え方を学ぶ。主要な傷病に対する薬物療法について、臨床症状と薬効、薬物の分布・代謝・排泄の関係、副作用の機序について説明でき、状況に応じて患者の安全、安楽を保持しながら薬物療法の効果を高める看護を考える力を養う。
到達目標	① 重要な疾患や重要な病態に対して、どのような薬物を用いるかが分かること。 ② 副作用や、相互作用、禁忌などの看護上で重要な知識を整理して明確に理解できること。
関連科目	薬理学、成人看護学。
成績評価方法・基準	典型的な過去の国家試験問題などによる試験（100％）。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習に関しては、特に必要はない。意欲的な人には教科書の該当する章を眺めて、問題意識を高めることが勧められる。また、毎回の講義に関して、1時間ほどの復習をすること。
教科書・参考書	教科書：「疾病の成り立ちと回復の促進薬理学」（医歯薬出版株式会社）。
オフィス・アワー	講義実施日の12：10～13：00。
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-2-D-e 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-C-b 《疾病の成り立ちと回復の促進》-II-3-D-a~g 《必修問題-3》-III-12-Aa~l 《必修問題-3》-III-12-Ba~d</p>
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより資料を事前配布します。配布期間は「授業前日から授業日まで」。持参方法は「各自印刷して授業に持参すること」。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
小河原 はつ江			

授業形態	講義形式
授業計画	<p>第1回 臨床検査とその役割、臨床検査の流れと看護師の役割 診断及び治療における臨床検査の重要性を述べる。臨床検査はどのようにして行われるか、また医療チームの役割や看護師の役割について解説する。</p> <p>第2回 一般検査（1） 検体の取り扱い方、尿および便検査について解説する。</p> <p>第3回 一般検査（2） 脳脊髄液検査、その他の体液（胸水、腹水など）検査について解説する。</p> <p>第4回 血液検査（1） 血沈（赤沈）、血球算定、血液像について解説する。</p> <p>第5回 血液検査（2） 出血・凝固検査、溶血性貧血の検査、骨髄穿刺検査について解説する。</p> <p>第6回 化学検査（1） 血清タンパク、酵素、糖代謝検査、脂質代謝検査について解説する。</p> <p>第7回 化学検査（2） 胆汁排泄関連物質検査、腎機能、水・電解質の検査、血液ガス分析について解説する。</p> <p>第8回 化学検査（3）および中間試験 鉄代謝、銅代謝検査、血中薬物濃度検査について解説した後、中間試験を行う。</p> <p>第9回 免疫血清検査（1） 炎症マーカー、液性免疫、細胞性免疫およびアレルギーの検査について解説する。</p> <p>第10回 免疫血清検査（2） 免疫グロブリン検査、腫瘍マーカー検査、輸血に関する検査について解説する。</p> <p>第11回 内分泌機能検査 下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン検査等について解説する。</p> <p>第12回 微生物検査・寄生虫検査 主な微生物および寄生虫の特徴と病気との関連について解説する。</p> <p>第13回 病理検査 細胞診断学的検査、病理組織検査について解説する。</p> <p>第14回 生理機能検査（1） 循環器機能検査、呼吸機能検査、神経機能検査、脳波検査について解説する。</p> <p>第15回 生理機能検査（2） 画像検査（超音波検査、MRI検査、サーモグラフィ等）について解説する。</p>
科目の目的	看護師として必要な臨床検査の基礎知識を学び、科学的根拠に基づいた看護ができることをめざす。
到達目標	国家試験の出題基準を参考に、各種疾病の診断・治療を行うための臨床検査の概略を把握する。
関連科目	解剖学（人体構造）、生理学（人体機能）を含む各臨床科目
成績評価方法・基準	中間試験と定期試験（筆記）の平均得点で評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	30分間、予習または復習をしっかりと行うこと。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 別巻 臨床検査」奈良信雄編 医学書院 2015 参考書1：「看護のための臨床検査」浅野嘉延著 南山堂 2015 参考書2：「臨床検査法提要 改訂第33版」金井正光監修 奥村伸生、他編 金原出版 2010
オフィス・アワー	講義の前後及び月曜日16:30～19:00
国家試験出題基準	【疾病の成り立ちと回復の促進】3. 疾病に対する医療 B. 疾病の診断 a～c
履修条件・履修上の注意	履修条件は特にないが、臨床検査のデータを活用し、看護ケアの実践に役立てられるよう、不明な点は積極的に質問をしてほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
斎藤 龍生			

授業形態	講義
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 緩和医療学総論（斎藤 龍生） 緩和医療の歴史と緩和医療の基本的考え方を講義すると共に、がん患者さんが抱えている問題点を提示します。その中で、「末期がんの患者さんと如何に話すか?」、「患者さんが人間らしく生きるために何が出来るか?」について、一緒に考えていく講義を予定しています。患者さんとのコミュニケーションスキルの向上を目指し、基本的な技術を紹介します。 緩和医学各論（小林 剛） 疼痛緩和 疼痛の考え方 鎮痛剤の使い方・副作用対策 緩和医学各論（小林 剛） 疼痛緩和 オピオイドローテーションについて 事例を提示し疼痛緩和について考える。 緩和ケアにおける看護①疼痛マネジメント、その他症状マネジメント（小和田 美由紀） 疼痛マネジメント・その他症状マネジメントにおける看護の役割について 効果的な疼痛マネジメント・その他症状マネジメントのためのアセスメントと援助方法について事例を提示し考える。 緩和ケアにおける看護②スピリチュアルケア、全人的苦痛の緩和（小和田 美由紀） 精神的苦痛と霊的苦痛（スピリチュアルペイン）のケアについて 緩和ケアにおける看護③看取りのケア、家族ケア、グリーフケア（小和田 美由紀） 終末期患者の家族ケアと遺族ケアの実際について 緩和的リハビリテーション、緩和医療におけるチームアプローチ（小和田 美由紀） 緩和ケア病棟における終末期患者のリハビリテーション 緩和ケア病棟におけるチーム医療 チームにおける看護の役割、多職種との役割と機能 緩和医療に関する振り返りと知識の確認試験（小和田 美由紀）
科目の目的	緩和医療（ケア）とは、終末期に限らず医療のさまざまな分野で必要であることが認識され、癌医療における早期導入、慢性疾患への対応など応用範囲が広がりつつある。がん患者への積極的な全人的医療として身体的・精神的・社会的・霊的苦痛の緩和、家族・遺族への支援についての理論や援助方法を学習する。また、チーム医療の必要性、緩和ケア・ホスピスケアの実際、チームにおける多職種の役割や機能について学習する。
到達目標	緩和医療（ケア）の歴史と緩和医療（ケア）の基本的考えを知る。 緩和医療を取り巻くシステムと問題点を知る。 緩和医療における治療理念と倫理的問題を含め治療方法および援助方法を理解する。 緩和医療（ケア）が患者・家族のQOL向上に大きな役割を果たすことを理解する。 終末期における家族ケア、遺族ケアの重要性を理解する。 緩和ケアにおけるチーム医療の必要性とチームにおける多職種の役割や機能について理解する。
関連科目	生命倫理・家族学・地域社会学・解剖学ⅠⅡ・生理学・疾病の成り立ち・薬理学・看護の学び入門・臨床心理学・栄養学・カウンセリング・社会福祉・地域サービス論・看護学概論・看護過程論・成人・老年看護学総論・在宅看護論
成績評価方法・基準	出席・試験で評価を行う 試験欠席及び追試はレポートで評価を行う
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義の中で、次回までに行うべき予習・復習について指示します。
教科書・参考書	教科書は使用しない 参考書として、 1. 「成人看護学⑦緩和ケア」メディカ出版 2. 「緩和・ターミナルケア看護論」鈴木志津枝／内布敦子（ヌーヴェルヒロカワ） 3. 「がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン 2010年度版」（金原出版株式会社）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》－Ⅱ－3－D－g 《成人看護学》－Ⅱ－6－E－abcde
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
後藤 香織			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 臨床栄養学とは 1) 食生活の変遷について戦前から平成の栄養学の考え方の移り変わりについて説明する 2) 栄養学の基礎の復習 3) 臨床調理の基本について簡単に紹介する</p> <p>2 栄養の評価法 1) 臨床栄養学が医学に応用され、適正な栄養管理がなされているかを判断するには栄養評価が必要である。生化学的、生理学的、人体計測などの評価法について講義する。 2) 栄養学に関する研究について</p> <p>3 疾病と栄養(1) 肥満とやせ、摂食障害について 肥満および肥満の合併症、治療法について解説する。一方、やせをしめす症状も増えてきている。これらの摂食障害について学ぶ。</p> <p>4 疾病と栄養(2) 糖尿病と栄養学 近年増加している糖尿病の病態とその診断、食事療法、薬物療法について講義する。</p> <p>5 疾病と栄養(3) 糖尿病食事療法のための食品交換表の使い方 食品成分表や食育の教材も合わせて紹介する</p> <p>6 疾病と栄養(4) 動脈硬化と高脂血症 食品中の脂質の種類とその消化、代謝過程を復習する。動脈硬化症は脳卒中、心筋梗塞などの成人病の原因因子として重要な症状である。その因子として高脂血症があり、その症状、食事療法について講義する。</p> <p>7 疾病と栄養(5) 高血圧、循環器疾患 高血圧症は、成人病のなかで20%を占める循環器疾患である。心疾患および高血圧症の成因、治療、病態、食事療法について講義する。</p> <p>8 疾病と栄養(6) 骨粗しょう症、ミネラル摂取異常 老人疾患に多い大腿骨頸部骨折は、骨粗しょう症が原因となりやすく、高齢者のQOLの観点からも重要な疾患である。骨粗しょう症の発症のメカニズム、食事療法、薬物療法について説明する。</p> <p>9 疾病と栄養(7) 消化器疾患その1 消化器では、栄養素の消化、吸収がおこなわれる重要な臓器である。この消化吸収のメカニズムを整理しなおし、消化器のそれぞれの病態と食事療法の基本を説明する。</p> <p>10 疾病と栄養(8) 消化器疾患その2 肝臓、胆嚢、膵臓における病態とその治療に関わる栄養法について説明する。</p> <p>11 疾病と栄養(9) 腎疾患と電解質 腎臓は有害な代謝物を排出し、有用なものは再吸収する臓器であり、体液成分、電解質、PHの調節もおこなっている。腎臓の機能と疾病との関係、食事療法について説明する。</p> <p>12 疾病と栄養(10) がん栄養 がんは食生活との関連があるのだろうか。発がんのメカニズムに食事はどのように関与しているのか。さらに、終末期のがん治療と栄養についても説明する。</p> <p>13 疾病と栄養(11) 1) 血液疾患、アレルギーと栄養 貧血は小児、成人、老人を問わず罹患率が高い疾患である。また、アレルギーは近年増加が顕著である。生活環境の変化と新しい抗原因子の増大、ストレスなどによる免疫適応機構の破綻が原因といわれる。それらの栄養学的対策について説明する。 2) 嚥下障害について</p> <p>14 疾病と栄養(12) 1) 小児、高齢者の栄養 成長過程にある小児に対してはその特殊性を理解した適切な栄養法が必要である。また加齢に伴い生理機能は低下し、栄養素の代謝機能も低下してくる。これらを理解することは栄養指導に必要なこととなる。 2) 栄養法の実際 経口栄養、経腸栄養、経静脈栄養法がある。最近の栄養補給方法の進歩はめざましい。これらの栄養法に最近の知見を加えて説明をする。また、検査前栄養法についても説明する。</p> <p>15 まとめ</p>

科目の目的	病態栄養学は栄養学の一分野で、特に疾病と栄養の関わりについて学ぶものである。栄養学が、健康な状態での栄養学であるのに対し、病態栄養学は、各種疾患に伴う内部環境の変化、これを媒介する血液循環、肝臓や腎臓における老廃物の処理、排泄等を理解し、疾患に対してどのような栄養学的な対策が必要か、またさらに健康維持し増進させるためには、どのような栄養学的な配慮が必要であるかまでに及ぶ。栄養学が基礎医学の上に成り立っているのに対し、病態栄養学は、栄養学の臨床医学への応用であり、講義の内容は医学医療的な内容と深くつながっている。栄養学の基礎から病態栄養学を中心にして、代表的疾患、病態を例に挙げて（糖尿病、高脂血症、肥満、循環器疾患、など）説明する。また、より生活に密接に栄養学がかかわっていることを実感してもらえよう、献立の立て方、調理の方法、食事指導、生活指導法についても触れる。
到達目標	基礎医学（解剖学、生理学）に基づいて栄養学の基礎を復習する。 代表的疾患、病態についての症状について理解し、それにあつた栄養学的対策を習得する。
関連科目	解剖学、生理学、生化学、栄養学、公衆衛生学
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	栄養学（含食品学）の単位を取得していること。 基本的な栄養学、生理学、解剖学を見直すことが予習になる。 ぜひとも授業前日には30分程度でよいので見直してほしい。
教科書・参考書	教科書 糖尿病食事療法のための食品交換表 日本糖尿病学会 参考書 スタンダード栄養・食物シリーズ 「臨床栄養学各論」（東京化学同人） 栄養科学イラストレイテッド「臨床栄養学 疾患別編」（羊土社） 疾病の成り立ちと栄養ケア「目でみる臨床栄養学 UPDATE」（医歯薬出版） 「エッセンシャル 臨床栄養学」佐藤和人他 著（医歯薬出版）
オフィス・アワー	授業後 授業前に質問ください
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》－Ⅲ－9－A－abcdefg 《成人看護学》－Ⅲ－12－D－d
履修条件・履修上の注意	特になし。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（14コマ）、演習（1コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。
授業計画	<p>第1回 発達心理学とは 発達心理学の概念の理解</p> <p>第2回 乳児期の発達と危機管理 気質という概念の理解と親子関係について</p> <p>第3回 幼児初期の発達と危機管理 1歳半から3歳半～4歳までの幼児の身体的・認知的発達と自我の発達について</p> <p>第4回 幼児期の発達と危機管理 就学前の子どもの発達の特徴と危機の種類とその管理について</p> <p>第5回 学童期の発達と危機管理 学童期の発達課題、社会的発達について</p> <p>第6回 思春期の発達と危機管理 思春期の身体的特徴と危機管理について</p> <p>第7回 青年期の発達と危機管理 青年期の発達の特徴、性に関する問題</p> <p>第8回 青年後期の発達と危機管理 青年後期の発達の特徴、特に自己概念形成（自分探し）に焦点を当てて考察する</p> <p>第9回 青年期の精神障害 不安症／不安症候群・摂食障害・スチューデントアパシー</p> <p>第10回 神経発達症／神経発達障害1 自閉症スペクトラム症／自閉スペクトラム障害、AD/HD・LDの特徴と支援について</p> <p>第11回 神経発達症／神経発達障害2 知的能力障害（知的発達症／知的発達障害）や関連障害の特徴と支援について</p> <p>第12回 若い大人の発達課題と危機管理 発達課題の考え方と性差における社会的役割など</p> <p>第13回 壮年期の発達課題と危機管理 壮年期の心理的变化の特徴、家族との関わり、仕事との関わりの変化について</p> <p>第14回 高齢期の発達課題と危機管理 心身の変化、死のとらえ方等</p> <p>第15回 生涯発達 発達心理学を人間の誕生から死までを通して総括する</p>
科目の目的	人間の成長発達を理解する基礎として、各発達段階における知的、心理的、社会的発達、人格の発達を理解することを目的とする。
到達目標	各発達段階の知覚、感情と情動の発達、認知の発達、パーソナリティと自我形成、行動の発達の变化について習得する。
関連科目	<p>【教養科目】教育学、心理学、生命倫理、教育心理学、健康スポーツ理論、大学の学び入門、ジェンダー論</p> <p>【専門基礎科目】臨床心理学、カウンセリング</p> <p>【専門科目】成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ、小児看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論、災害看護論</p>
成績評価方法・基準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等の評価（20％）を加味して評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	【教科書】 岡堂哲雄編（2003）「ナースのための心理学3 パーソナリティ発達論」 金子書房
オフィス・アワー	月・水・金の昼休み（305研究室）
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－C－d</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－C－e</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－a</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－b</p> <p>≪必修問題≫－Ⅱ－7－E－c</p>

	≪必修問題≫-Ⅱ-7-E-d ≪必修問題≫-Ⅱ-7-G-d
履修条件・履修上の注意	講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	講義（13コマ）、演習（2コマ）。講義中、随時10分程度のワーク（個別・グループ）も取り入れる。
授業計画	<p>第1回 臨床心理学とは何か 臨床心理学の歴史や構造について学ぶ</p> <p>第2回 無意識の心理学1 精神分析（フロイト）</p> <p>第3回 無意識の心理学2 分析心理学（ユング）</p> <p>第4回 カウンセリング 来談者中心療法（ロジャース）</p> <p>第5回 臨床心理アセスメント 臨床心理アセスメントとは何か</p> <p>第6回 精神疾患1 不安症／不安障害について</p> <p>第7回 精神疾患2 身体症状症と解離性同一症／解離性同一性障害について</p> <p>第8回 精神疾患3 摂食障害（神経性やせ症／神経性無職欲症、神経性過食症／神経性大食症）について</p> <p>第9回 精神疾患4 性別違和について</p> <p>第10回 精神疾患5 パーソナリティ障害について</p> <p>第11回 精神疾患6 双極性障害、うつ病／大うつ病性障害について</p> <p>第12回 精神疾患7 統合失調症について</p> <p>第13回 ワーク1 性格検査の体験</p> <p>第14回 ワーク2 描画法（風景構成法の体験）</p> <p>第15回 総括 自らの専門に、どのように臨床心理学の知見を活かすか</p>
科目の目的	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。
到達目標	臨床心理学の基礎について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、看護場面・治療場面における患者の心理と患者とのコミュニケーションの方法についても理解を深めることを目指す。
関連科目	<p>【教養科目】教育学、心理学、生命倫理、教育心理学、健康スポーツ理論、大学の学び入門、ジェンダー論</p> <p>【専門基礎科目】発達心理学、カウンセリング</p> <p>【専門科目】成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ、小児看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論、災害看護論</p>
成績評価方法・基準	定期試験（80％）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等の評価（20％）を加味して評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	<p>【教科書】 下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房</p> <p>山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房</p> <p>※ 必修科目「心理学」の教科書</p>
オフィス・アワー	月・水・金の昼休み（305研究室）
国家試験出題基準	

履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語，スマートフォン・携帯電話の使用，講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や，それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ，その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p> <p>2年生後期開講の選択科目「カウンセリング」の受講を希望する際は，本講義を履修してください。「カウンセリング」の講義は本講義の内容を理解していることを前提として行います。</p>
-------------	---

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	2単位	必修
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 公衆衛生の理解 健康の概念の変遷、公衆衛生の概念</p> <p>2 人口と公衆衛生 世界人口の動向、日本の少子高齢化の進行 年齢3区分別人口の割合</p> <p>3 環境と公衆衛生 人間と生活環境、環境行政のあゆみ、地球環境問題</p> <p>4 同 上 大気汚染の状況、公害健康被害補償、環境基準</p> <p>5 食と公衆衛生 食中毒の発生状況、食中毒の種類</p> <p>6 国民の健康と保健統計 健康指標、20世紀100年の変化</p> <p>7 同 上 年齢調整死亡率の意義</p> <p>8 疫病の疫学と予防 疫学概念、疫学調査方法、因果関係推論、 スクリーニング</p> <p>9 同 上 感染症の疫学、新感染症予防法</p> <p>10 同 上 結核対策、HIV対策</p> <p>11 生活習慣病対策 がんの予防、その他生活習慣病予防</p> <p>12 生活習慣病対策 精神保健対策、介護保険制度</p> <p>13 同 上 母子保健、老人保健、歯科保健、難病対策</p> <p>14 保健・医療行政 地域保健法、医療法改正の動き、地域医療連携 社会保障制度、国民医療費</p> <p>15 課題研究発表 指定課題による研究発表</p>
科目の目的	健康及び公衆衛生の基本的概念を学習する。タテ系である各種疾患対策、環境対策とヨコ系である統計、疫学、健康教育、試験検査などが織りなす総合科学であり、活動であることを理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 生活者の健康の保持・増進を目的とする公衆衛生活動を理解する。 公衆衛生活動は、政治、経済、社会の動向と密接に関連していることを理解し、広い視野を養う。 公衆衛生活動の基礎的技法として、集団からアプローチする疫学、保健統計、地域組織活動等を理解する。
関連科目	生命倫理、環境学、健康管理論、疫学、保健統計、地域社会学、情報処理、免疫・感染症学
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。 講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。 準備学習に必要な学習時間の目安 75時間
教科書・参考書	<p>【教科書】 「新体系看護学7 公衆衛生学」小野寺伸夫著（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向 2015/2016版」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p> <p>【参考書】 特になし</p>
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫ - I - 1 - A - abcdefghi, B - abcdef ≪必修問題≫ - I - 2 - B - abc ≪健康支援と社会保障制度≫ - III - 8 - A - abcde, B - abc, C - abc</p>

	≪健康支援と社会保障制度≫－Ⅲ－9－A－abcdefgh, B－abcdefghi ≪健康支援と社会保障制度≫－Ⅲ－10－A－abcdef, B－abc, C－abc, D－ab 【保健師】 ≪公衆衛生看護学概論≫－ⅠⅡ－3－A－ab, B－ab
履修条件・履修上の注意	保健統計の簡単な計算（例、罹患率、年齢調整死亡率）に習熟するために電算機を持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
石館 敬三			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 疫学概念・歴史 疫学の目的、対象、方法、歴史的考察</p> <p>2 疫学の要因 疫学の三要因、二元論の疫学</p> <p>3 健康指標、頻度と曝露 疾病頻度の指標、相対危険度、寄与危険度</p> <p>4 疫学研究方法 記述疫学と分析疫学、5WBridge</p> <p>5 疫学調査方法 後向き調査と前向き調査、疫学的因果推論</p> <p>6 疫学調査方法 バイアスと交絡、マッチング、疫学の倫理</p> <p>7 スクリーニング 敏感度、特異度、陽性反応適中率</p> <p>8 感染症の疫学 感染の基礎概念、発生三要因と予防の原則</p> <p>9 同 上 わが国の感染症対策の沿革、新興再興感染症</p> <p>10 同 上 食中毒の疫学調査、細菌性食中毒</p> <p>11 同 上 防疫活動要領、予防接種、1類感染症</p> <p>12 同 上 結核の動向と対策、HIV・STDの動向と対策</p> <p>13 非感染症の疫学 悪性新生物、自殺、母子</p> <p>14 同 上 生活習慣病</p> <p>15 同 上 環境保健</p>
科目の目的	人間の健康に関する諸現象を集団の立場からとらえ、健康に関する問題の解決をはかる学問である。集団の健康問題に関する基礎的方法であり、公衆衛生にとって必須の技法でもある。
到達目標	<p>1. 疫学研究方法の基本及び疫学指標を理解する。</p> <p>2. 感染症をはじめ、集団におけるさまざまな健康現象について疫学的手法を応用する力を養う。</p>
関連科目	生命倫理、情報処理、公衆衛生学、地域社会学、免疫・感染症学、環境学、健康管理論
成績評価方法・基準	試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>「国民衛生の動向」は公衆衛生の現実社会を写している鏡である。</p> <p>講義前に該当する事項に眼を通しておくことが望ましい。</p> <p>準備学習に必要な時間の目安 30時間</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 「標準保健師講座別巻2 疫学・保健統計学」 牧本清子著（医学書院）</p> <p>【参考書】 「国民衛生の動向」（一般財団法人 厚生労働統計協会）</p>
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫－Ⅰ－1－A－abcdefghi, B－abcdef ≪必修問題≫－Ⅰ－2－A－abcdefghi ≪健康支援と社会保障制度≫－Ⅲ－8－C－a ≪健康支援と社会保障制度≫－Ⅲ－9－B－abcdefghi</p> <p>【保健師】 ≪健康危機管理≫－Ⅰ－2－A－abcd ≪疫学≫－1－A－abc, B－abc, C－abc, D－a</p>

	≪疫学≫-2-A-a, B-abcd, C-ab ≪疫学≫-3-A-abcd, B-abcd ≪疫学≫-4-A-abc, B-abcde, C-ab, D-ab, E-abcde ≪疫学≫-5-A-ab, B-abc ≪疫学≫-6-A-abc ≪疫学≫-7-ABCDEFGHJKLM-ab ≪疫学≫-8-A-ab, B-ab, C-ab
履修条件・履修上の注意	保健統計の及び疫学の基礎的な計算に習熟するため電算機を持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
森岡 典子			

授業形態	主に講義形式をとるが、適宜演習として、個人ワークやグループワークを実施する。
授業計画	<p>第1回 データの種類</p> <p>第2回 データの分布と代表値</p> <p>第3回 データの表し方（図表とヒストグラム）</p> <p>第4回 正規分布の特徴と標準化</p> <p>第5回 母集団と標本抽出</p> <p>第6回 母集団の点推定と区間推定</p> <p>第7回 第6回までのまとめ／検定の考え方</p> <p>第8回 2群間の平均値の差の検定（t検定）</p> <p>第9回 2群間の割合の差の検定（カイ二乗検定）</p> <p>第10回 データ間の関連性（相関）／さらに進んだ解析方法の紹介</p> <p>第11、12回 ケーススタディ 演習（グループワーク）</p> <p>第13、14回 既存の保健統計調査と利用方法 演習（グループワーク）</p> <p>第15回 保健統計の利活用</p>
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基礎知識および簡単な推定法・検定法を習得し、既存研究の内容等を統計学の視点から理解することが出来ることを目指す。 ・また、看護・保健活動に必要な情報を、既存保健統計調査から入手し、適切な手法で利活用することができることを目指す。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・統計学の基礎知識を習得し、既存の研究内容などを理解することが出来る。 ・データに適した推定・検定を理解し、実際に行うことができる。 ・代表的な保健統計調査を知り、利活用することができる。
関連科目	疫学
成績評価方法・基準	<p>ケーススタディの発表：20%</p> <p>個人レポート：30%</p> <p>期末テスト：50%</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業内容が次回以降の講義の基礎となっていくため、復習を行い、理解を深めておくことが望ましい ・特に、授業中に提示される例題については、必ず復習し理解しておくこと <p>授業外学習：30時間程度</p>
教科書・参考書	<p><教科書> 指定しない</p> <p><参考書></p> <p>浅野 嘉. 看護学生のための疫学・保健統計：楽しく学べる. 改訂2版 ed. 東京：南山堂；2013. →国家試験対策用に便利、疫学も含めた内容を広く浅く網羅的におえている。</p> <p>高木 廣. ナースのための統計学. 第2版 ed. 東京：医学書院；2009. →今回授業で扱う内容に加え、中級の内容も含まれている。</p> <p>Pagano M, 1945, Gauvreau K, 1963, 竹内 正. 生物統計学入門：ハーバード大学講義テキスト. 東京：丸善；2003. →ハーバード大学公衆衛生大学院のテキスト、練習問題を丁寧にこなすことで世界レベルの内容が網羅できる。</p>
オフィス・アワー	授業前後

<p>国家試験出題基準</p>	<p>【看護師】 ≪必修問題≫-I-1-A-abcdefghi, B-abcdef ≪必修問題≫-I-2-A-abcdefghi ≪健康支援と社会保障制度≫-Ⅲ-8-C-abc, ≪健康支援と社会保障制度≫-Ⅲ-9-A-abcdefgh, B-abcdefghi</p> <p>【保健師】 ≪保健統計≫-1-A-abcd, B-abc, C-ab, D-abcdef, E-abc, F-abcdef, G-ab ≪保健統計≫-2-A-abc, B-abc, C-ab, D-abc ≪保健統計≫-3-A-abcdefg, B-abcde, C-ab, D-ab</p>
<p>履修条件・履修上の注意</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業が基礎となっていくため、欠席した場合は必ず前回の資料を読み、内容を把握しておくこと。 ・レポート課題は全部で4回、いずれも2-3問の演習問題を予定している。課題提示の次の回の冒頭で、発表と解答を行う。 ・第2回目以降、必ず電卓を持参すること（計算機能付きの携帯でも可） ・第13、14回時にはノートパソコンを持参すること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
一場 美根子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 社会保障制度と社会福祉 社会保障制度、社会福祉の概念、行財政の仕組み（矢島）</p> <p>2 社会福祉の歴史 我が国における社会保障制度、社会福祉の歴史的変遷（矢島）</p> <p>3 現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向 戦後の我が国の社会保障制度の展開と課題（矢島）</p> <p>4 医療保障と所得保障1 看護対象者の医療保障・所得保障の課題と支援方法（一場） ・医療保険制度、後期高齢者医療制度 ・年金保険制度 ・労働保険制度（雇用保険・労働災害補償保険）と労働法（労働基準法、育児・介護休業法など）</p> <p>5 医療保障と所得保障2 看護対象者の医療保障・所得保障の課題と支援方法（一場） ・医療保険制度、後期高齢者医療制度 ・年金保険制度 ・労働保険制度（雇用保険・労働災害補償保険）と労働法（労働基準法、育児・介護休業法など）</p> <p>6 医療保障と所得保障3 看護対象者の医療保障・所得保障の課題と支援方法（一場） ・医療保険制度、後期高齢者医療制度 ・年金保険制度 ・労働保険制度（雇用保険・労働災害補償保険）と労働法（労働基準法、育児・介護休業法など）</p> <p>7 公的扶助 公的扶助に関する法令・制度、看護対象者の公的扶助の課題と支援方法（一場）</p> <p>8 高齢者福祉1 高齢者福祉の課題（矢島）</p> <p>9 高齢者福祉2 高齢者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策の仕組み（矢島）</p> <p>10 介護保障1 介護保障の理念、介護保険法、介護保険制度、看護対象者の介護保障の課題と支援方法（一場）</p> <p>11 介護保障2 介護保障の理念、介護保険法、介護保険制度、看護対象者の介護保障の課題と支援方法（一場）</p> <p>12 介護保障3 介護保障の理念、関係法令・制度、看護対象者の介護保障の課題と支援方法（一場）</p> <p>13 障害者福祉1 知的・身体障害者福祉に関する法令・制度、高齢者福祉施策（矢島）</p> <p>14 障害者福祉2 発達障害・難病の福祉に関する法令・制度、発達障害者・難病の支援施策（矢島）</p> <p>15 児童・家庭福祉 児童・家庭福祉に関する法令・制度、児童・家庭福祉施策（矢島）</p>
科目の目的	看護師・保健師・助産師の業務と関連の深い社会福祉、社会保障の法令、制度を理解し、変化する社会情勢の中で人々の健康と生活を支援するため社会資源の公平な利用と配分を促進する方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度、社会福祉の理念と歴史的変遷を説明できる。 2. 医療保障、所得保障、介護保障、公的扶助、障害者福祉に関する主な法令、諸制度の概要を説明できる。 3. 社会資源の公平な利用と配分を促進する看護職の役割を考えることができる。
関連科目	法学、地域社会学、経済学、地域保健行政、地域福祉・地域サービス論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ
成績評価方法・基準	試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき120分程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門基礎 社会福祉 健康支援と社会保障制度③」（医学書院）

	2. 「国民衛生の動向2015/2016」 (厚生統計協会) 参考書 1. 「医療六法」 (中央法規) 2. 「福祉省六法」 (中央法規)
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00 一場美根子：講義の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 <保健医療福祉行政論> 1-B-c 3-A D E F 看護師国家試験出題基準 <必修問題> I-3-A, B <健康支援と社会保障制度> II-4-A 5-A, B, C, D, E 6-A, B, C, D, E, F 7-A, B, C, D
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
一場 美根子	大竹 洋子		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 保健医療福祉行政の目指すもの 保健医療福祉行政の根拠、理念、保健医療福祉行政に関わる諸定義、理論（矢島）</p> <p>2 保健医療行政に関する法律－保助看法と関連法規－ 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の推進に関する法律および関連職種に関する法規（一場）</p> <p>3 保健医療行政に関する法律－保助看法と関連法規－ 保健師助産師看護師法、看護師等の人材確保の推進に関する法律および関連職種に関する法規（一場）</p> <p>4 保健医療行政に関する法律－医療法－ 医療法、医師法および関連職種に関する法規（一場）</p> <p>5 保健医療行政の仕組みと機能 保健医療行政の体系、地域保健活動と地方自治、地域保健に関する公的機関（矢島）</p> <p>6 保健医療行政の仕組みと機能 地方公共団体の行財政の仕組み（矢島）</p> <p>7 我が国の保健医療制度の変遷 公衆衛生の基盤形成（矢島）</p> <p>8 我が国の保健医療制度の変遷 戦後の公衆衛生行政・施策の整備（矢島）</p> <p>9 我が国の保健医療制度の変遷 近年の公衆衛生行政・施策の展開（矢島）</p> <p>10 保健所の役割と機能強化 地域保健法と保健所機能（一場）</p> <p>11 保健所の役割と機能強化 保健所機能の歴史的変遷（関係する法律と保健活動の実際）（一場） ・母子保健対策、成人および高齢者対策 ・精神保健福祉対策、難病対策 ・感染症対策、健康危機管理と医療安全対策</p> <p>12 保健所の役割と機能強化 保健所機能の歴史的変遷（関係する法律と保健活動の実際）（一場） ・母子保健対策、成人および高齢者対策 ・精神保健福祉対策、難病対策 ・感染症対策、健康危機管理と医療安全対策</p> <p>13 市町村保健センターの役割 市町村保健センターの役割（大竹）</p> <p>14 保健医療福祉計画と評価 保健医療福祉計画とは、保健医療福祉計画の策定プロセス（矢島）</p> <p>15 保健医療福祉計画と評価 保健医療福祉計画の推進と評価、保健医療福祉計画に関わる保健師の役割（矢島）</p>
科目の目的	地域保健活動の根拠となる法律、制度、政策についての理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療行政の理念と仕組みを説明できる。 2. 社会情勢の変化に伴う保健医療行政の考え方の変遷を説明できる。 3. 現代の我が国における保健医療行政の実際と保健師活動の関わりを説明できる。 4. 保健医療福祉計画とは何か、保健医療福祉計画策定・遂行・評価と保健師の役割を説明できる。
関連科目	公衆衛生学、健康管理論、社会福祉・社会保障制度論、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅳ
成績評価方法・基準	試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	<p>教科書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論」（医学書院） 2. 「国民衛生の動向2015/2016」（厚生統計協会） <p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「医療六法」（中央法規） 2. 「福祉小六法」（中央法規）

オフィス・アワー	矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00 一場美根子、大竹洋子：講義の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 ≪保健医療福祉行政論≫ 1-A B-a, b 2-a, b 3-b, c 4-a, b, c ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ≫ 4-A 看護師国家試験出題基準 ≪必修問題≫ Ⅱ-9-B, C ≪健康支援と社会保障制度≫ Ⅱ-6-C-e Ⅲ-11-A, B, C, Ⅳ-12-B, D-c
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
後藤 香織			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 栄養学の目的 1 食と私たち 食育の必要性</p> <p>2 栄養素の種類と体内での主たる役割 一日のエネルギーを求める</p> <p>3 栄養素の科学 1 糖質の消化</p> <p>4 栄養素の科学 2 糖質の代謝</p> <p>5 栄養素の科学 3 タンパク質の構造、消化、代謝</p> <p>6 栄養素の科学 4 脂質の構造と種類</p> <p>7 栄養素の科学 5 脂質の消化と代謝</p> <p>8 栄養素の科学 6 電解質とビタミン</p> <p>9 栄養素の科学 7 核酸の消化吸収代謝</p> <p>10 おいしさの科学 1 嗅覚と食品</p> <p>11 おいしさの科学 2 色と味</p> <p>12 おいしさの科学 3 咀嚼とテクスチャー</p> <p>13 献立とは 日本料理と西洋料理の献立 食品成分の計算</p> <p>14 献立と病態栄養学 病気と献立、食品の選び方</p> <p>15 まとめ</p>
科目の目的	人体が必要とする栄養素を学び、各栄養素が人体に消化吸収される過程を学ぶ。また、栄養素を含む食品と人体が食べ物を欲する科学的過程を学び、医療従事者として必要な栄養学、食品学の基本知識を養成する事を目的とする。
到達目標	基礎医学（解剖学、生理学、生化学）に関連した栄養学の基礎を学ぶ。また日々の食品摂取の判断ができるようにする。
関連科目	①解剖学Ⅰ・Ⅱ ②生化学 ③生理学 ④疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	高校の生物学および、解剖学、生理学とを見直しておく。 成分表の後半のページを読んでおく。20分予習する。
教科書・参考書	教科書：新選 食品成分表（実教出版） 参考書：新体系看護学 人体の構造と機能2 栄養生化学（メジカルフレンド社） 看護栄養学（医歯薬出版）
オフィス・アワー	授業の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-Ⅰ-2-C-b 《人体の構造と機能》-ⅠⅡ-12-A-ab 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅲ-9-A-abcdefg 《成人看護学》-Ⅲ-11-A-c
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
豊泉 修			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 オリエンテーション 授業の進め方、歯科分野に対する質問等</p> <p>2 歯 歯・歯周組織の機能、構造</p> <p>3 歯 歯・歯周組織の組織学</p> <p>4 口腔とその周囲の解剖生理 口唇・頬・口蓋・舌・唾液腺</p> <p>5 口腔とその周囲の解剖生理 上顎骨・下顎骨・咀嚼筋・顔面筋・顎関節</p> <p>6 う蝕 う蝕の原因・病理・病態・治療法・予防法</p> <p>7 歯周病 歯周病の原因・病理・病態・治療法・予防法</p> <p>8 顎関節症 顎関節症の原因・病理・病態・治療法・予防法</p> <p>9 その他の歯科疾患 口腔粘膜疾患・顎骨の骨折・炎症</p> <p>10 母子歯科保健 乳幼児歯科検診について</p> <p>11 学校歯科保健 学校歯科健診について</p> <p>12 地域歯科保健 市町村での歯科保健のとりくみ</p> <p>13 成人歯科保健 成人における歯科疾患の疫学</p> <p>14 老人歯科保健 高齢者の口腔ケア</p> <p>15 口腔ケア 口腔ケア実技</p>
科目の目的	看護師として活動する上で必要と考えられる歯科保健の知識を習得せしむる。
到達目標	歯科の基本知識を持っている。 歯科医師や歯科衛生士と専門的な会話ができる。
関連科目	看護学
成績評価方法・基準	課題、レポート50%、試験50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	シラバスに従い、教科書、配布資料を読んできて下さい。
教科書・参考書	「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 15 歯・口腔」 小島愛子ほか (医学書院)
オフィス・アワー	講義の前後10分程度
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》-Ⅲ-9-B-abc
履修条件・履修上の注意	配布資料はしっかりと保管して下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
藤田 清貴			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 インTRODクシヨン・チム医療総論 INTRODUCTION (授業の進め方), チム医療とは何か?</p> <p>2 チム医療におけるNSTへの関わり方</p> <p>3 インシデント・ヒヤリハットについて</p> <p>4 チム医療におけるコミュニケーション</p> <p>5 チム医療の展開例 心臓リハビリテーション</p> <p>6 遺伝子検査領域の専門性とチム医療 (1)</p> <p>7 看護師の専門性とチム医療 (1)</p> <p>8 看護師の専門性とチム医療 (2)</p> <p>9 遺伝子検査領域の専門性とチム医療 (2)</p> <p>10 臓器移植領域の専門性とチム医療</p> <p>11 生殖医療分野の専門性とチム医療</p> <p>12 微生物と感染症領域の専門性とチム医療 (1)</p> <p>13 微生物と感染症領域の専門性とチム医療 (2)</p> <p>14 理学療法士の専門性とチム医療 (1)</p> <p>15 理学療法士の専門性とチム医療 (2)</p>
科目の目的	これから医療人を目指すにあたり、医療連携のための共通認識事柄を学び、それぞれ医療専門職の職務内容や役割などについて理解し、自身の目指す医療職と他職種との関係を学ぶ。また、実際の医療現場でチムを構成するその他の医療スタッフについても学び、どのような専門職があるか、なぜチム医療の必要性が強く求められるようになったのかなど、医療の現状とともにその重要性を理解し、「卒業後に臨床現場に臨み、相互の連関を見極め協働する多職種連携の構築能力」の育成を図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床検査技師の専門性とチム医療における役割について説明できる。 2. 看護師の専門性とチム医療における役割について説明できる。 3. 理学療法士の専門性とチム医療における役割について説明できる。 4. 各医療スタッフのチム医療における役割について説明できる。
関連科目	生命倫理, 大学の学び入門
成績評価方法・基準	レポート50%, 授業への取り組み30%, 受講態度20%により成績を評価する。採点の基準は100点満点のうち60点以上を合格とする。また、授業回数の3分の1以上の欠席がある場合には試験成績は無効とみなす。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の授業内容について1～2時間程度の予習・復習を行い理解しておくこと。
教科書・参考書	教科書は特に必要としない。必要に応じて資料を配布する。
オフィス・アワー	講義終了後に質問を受け付ける。個別の相談は事前の連絡によって随時対応する。
国家試験出題基準	《必修問題》II-9-E-a, b, c
履修条件・履修上の注意	授業中は携帯電話の電源を切ること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	選択
担当教員			
松澤 正			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 リハビリテーションとは リハビリテーションの定義、理念、歴史</p> <p>2 障害論 障害論、ICIDH、ICF</p> <p>3 障害者心理 障害者の心理、障害受容</p> <p>4 リハビリテーションの構成 リハビリテーションの構成</p> <p>5 医学的リハビリテーション 医学的リハビリテーション</p> <p>6 チーム医療 チーム医療とリハビリテーション医療の進め方</p> <p>7 地域リハビリテーション 地域リハビリテーション</p> <p>8 社会的リハビリテーション 社会的リハビリテーション、社会保障、社会保険、社会福祉</p>
科目の目的	リハビリテーションにおける医学的、教育的、職業的、社会的リハビリテーション領域の目的、対象、方法を通して、リハビリテーションの中での理学療法士や看護師の位置付けや役割を理解させる。
到達目標	リハビリテーション医療の中での理学療法士や看護師の役割を理解し、実践できるようになることを目標にする。
関連科目	特になし
成績評価方法・基準	筆記試験やレポート等を総合して評価する。 試験80%、授業態度・出欠状況20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 障害や福祉に関する用語を調べ、学習する。 2. できれば障害福祉施設でのボランティア活動をする。
教科書・参考書	教科書：使用しない（プリント教材を資料する） 参考書1：「入門リハビリテーション概論」中村隆一（医歯薬出版） 参考書2：「現代リハビリテーション医学」千野直一（金原出版）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《疾病の成り立ちと回復の促進》Ⅱ-3-C-e 《成人看護学》 Ⅱ-5-A-a. b. c、Ⅱ-5-B-a. b. c. d. e. f. g、Ⅱ-5-C-a. b
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
北林 司			
小池菜穂子	藤巻郁朗		

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>1 ガイダンス（小池） 我が国の救急医療体制、1次救命・2次救命処置について解説する。</p> <p>2 呼吸器の解剖と生理（小池） 呼吸器の構造と機能について解説する。</p> <p>3 心血管系の解剖と生理（小池） 心血管系の構造と機能、急性冠症候群、急性心筋梗塞について解説する。</p> <p>4 脳血管系の解剖と生理（小池） 脳血管の構造と機能、虚血性脳血管障害、出血性脳血管障害について解説する。</p> <p>5 反応のない傷病者への対応（小池・藤巻） 反応のない傷病者への対応、胸骨圧迫心臓マッサージについて解説する。</p> <p>6 気道確保法と人工呼吸法・AEDの取り扱い（小池・藤巻） 頭部後屈顎先挙上法、AEDの取り扱いについて解説する。</p> <p>7 骨折疑い傷病者への固定法・出血している傷病者への止血法（藤巻・小池） 骨折部の固定法、全脊柱固定法、ログロール、止血法について解説する。</p> <p>8 創傷のある傷病者への創傷ケア（藤巻・小池） 創傷のある傷病者への対応方法、処置方法について解説する。</p> <p>9 BLSHCP実技1（小池・藤巻） 一連のBLSHCPを演習する。</p> <p>10 筆記試験／BLSHCP実技2（小池・藤巻） 一連のBLSHCPを演習する。／筆記試験実施</p> <p>11 高度な気道確保（北林・小池・藤巻） 気管内挿管、ラリングマスク、ラリングチューブを用いた高度な気道確保を演習する。</p> <p>12 BLSHCP実技3（北林・小池・藤巻） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>13 BLSHCP実技4（北林・小池・藤巻） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>14 BLSHCP実技5（北林・小池・藤巻） 一連のBLSHCP+AEDを演習する。</p> <p>15 BLSHCP実技／実技試験（北林・小池・藤巻） 一連のBLSHCPのスキルをチェックする。／実技試験実施</p>
科目の目的	呼吸器系・心血管系・脳血管系の解剖生理と主要な疾患を理解し、心停止・呼吸停止・気道異物といった生命が危険にさらされた人を救命する方法を理解する。さらに意識の確認・胸骨圧迫・気道確保・人工呼吸・AEDによる除細動などの一連の一次救命処置(BLSHCP)が実践できるようになることを目的とし、在学中にアメリカ心臓協会(AHA)の医療従事者向けBLSライセンス取得を目指す。また、高度な気道確保である気管内挿管の介助ができ、臨時応急処置の場合は自らも挿管できるよう技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 急激に生命が危険にさらされる呼吸障害・心血管障害・脳血管障害が説明できる。 2. 救命の連鎖について説明できる。 3. 一次救命処置(BLS)について説明できる。 4. 気道異物(FBAO)の治療手順を説明できる。 5. AEDを含む医療従事者向け一次救命処置(BLSHCP)が実践できる。 6. 気管内挿管の介助ができる。 7. 外傷のある傷病者の対応方法がわかる。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・災害看護論
成績評価方法・基準	筆記試験50%・実技試験50%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	AHAのBLSHCP受講は、現役の医師・看護師らとともに臨むこととなる。関連科目を30～60分、予習・復習した上で本科目を受講し、全員がライセンスを取得してもらいたい。また、各講義終了後は、講義中に配布された資料を見て復習をすること。
教科書・参考書	<p>教科書 1. 系統看護学講座 成人看護学【2】呼吸器 【3】循環器 【7】脳・神経, 医学書院</p> <p>2. 早わかり臨床用語・略語BOOK: 北林 司, 藤原健一, 北方新社</p> <p>参考書 1. AHA BLSヘルスプロバイダー2010, へるす出版</p>
オフィス・アワー	北林 司: 集中講義期間中9時～18時 小池菜穂子 (研究室308): 講義開講日の12:10～13:00

	藤巻郁朗（研究室301）：講義開講日の12:10～13:00
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-IV-16-H-a, b, c, d, e, f, g 《成人看護学》-II-3-B-b
履修条件・履修上の注意	1. 第11～15回講義は5コマ集中講義とする。 2. ポケットマスク購入要

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	選択
担当教員			
今福 裕司			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 健康の捉え方</p> <p>2 健康の指標と現状</p> <p>3 健康増進</p> <p>4 生活習慣（1） 栄養・運動・休養</p> <p>5 生活習慣（2） 喫煙、飲酒、環境、歯科</p> <p>6 疾病予防（1） 生活習慣病、がん、循環器</p> <p>7 疾病予防（2） 代謝、骨・関節、歯科</p> <p>8 疾病予防（3） 感染症・精神疾患</p> <p>9 健康管理の進め方（1）</p> <p>10 健康管理の進め方（2） 精神疾患（統合失調症、うつ病）</p> <p>11 健康管理の実際（1） 地域、母子</p> <p>12 健康管理の実際（2） 学校、職場</p> <p>13 健康管理の実際（3） 高齢者</p> <p>14 健康情報</p> <p>15 まとめ</p>
科目の目的	21世紀において、さまざまな健康問題が地球規模で広がりをみせており、全世代にとって必要な健康で文化的な生活とは何かを学ぶ。あわせて国家試験に役立つ基礎的知識を学ぶ。
到達目標	健康で文化的な生活のための公衆衛生、社会保障上必要なものは何かを理解する。保健師活動を理解する。あわせて国家試験に役立つ、疾病予防の基礎理解を深める
関連科目	地域社会学、成人看護学、老年看護学、精神看護学、公衆衛生学、疾病の成り立ち、健康スポーツ理論
成績評価方法・基準	試験80%と授業態度20%で評価
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	将来の医療人として幅広い知識を修得するように日頃から新聞・雑誌等に目を通しておく
教科書・参考書	教科書「学生のための健康管理学」 木村康一 熊澤幸子 近藤陽一 著（南山堂） 参考書「シンプル公衆衛生学」 鈴木庄亮 著（南江堂）
オフィス・アワー	講義の前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修問題》-2-A-abcdefghi 《成人看護学》-4-A-abcd
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
榎本 光邦			

授業形態	授業のはじめの30分程度講義を行い、残りの時間は講義で取り上げた内容についてワーク（個別・グループ）を行う。
授業計画	<p>第1回 自分自身に対する自分の態度 問題の本質をつかみとる力や人を尊重する力などを向上させる練習をワーク形式で行う</p> <p>第2回 心理療法1 行動療法（講義・演習）</p> <p>第3回 心理療法2 認知行動療法（講義・演習）</p> <p>第4回 ストレス・マネージメント リラクゼーション・自律訓練法体験</p> <p>第5回 心理療法3 生活分析的カウンセリング（演習）</p> <p>第6回 心理療法4 交流分析について（TEG-II（性格検査）の体験）</p> <p>第7回 心理療法5 描画法（星と波テストの体験）</p> <p>第8回 心理療法6 ブリーフセラピー（講義・演習）</p>
科目の目的	さまざまな疾病・障害を持っている患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得する。
到達目標	特に精神科系統の疾患・障害をもつ患者やその家族の心理について理解し、保健医療領域におけるサービスに必要な知識と基礎的な技術を習得することが目標である。また、病気になる、障害を負うということ考えることで、看護師・保健師として必要な援助的態度を身につける。
関連科目	<p>【教養科目】教育学、心理学、生命倫理、教育心理学、健康スポーツ理論、大学の学び入門、ジェンダー論</p> <p>【専門基礎科目】発達心理学、臨床心理学（履修しておくことが望ましい）</p> <p>【専門科目】成人看護学総論、老年看護学総論、小児看護学総論、母性看護学総論、精神看護学総論、小児看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、母性看護学Ⅰ・Ⅱ、精神看護学Ⅰ・Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ・Ⅳ、小児看護学特論、母性看護学特論、精神看護学特論、災害看護論</p>
成績評価方法・基準	定期試験（レポート形式・80%）に受講時の意見文・感想文やレポート課題等の評価（20%）を加味して評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。各単元について、1時間程度の予習・復習を行うことを目安とする。
教科書・参考書	<p>【教科書】 なし（必要に応じて資料を配布）</p> <p>【参考書】 山祐嗣・山口素子・小林知博編著（2009）「基礎から学ぶ心理学・臨床心理学」 北大路書房 ※ 必修科目「心理学」の教科書</p> <p>下山晴彦編著（2009）「よくわかる臨床心理学」 ミネルヴァ書房 ※ 選択科目「臨床心理学」の教科書</p>
オフィス・アワー	月・水・金の昼休み（305研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	<p>講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止します。注意しても止めない場合や、それらの行為が頻回に見られる場合は退室を命じ、その回の講義の出席を認めない場合もあります。</p> <p>本講義の受講を希望する際は、2年生前期開講の選択科目「臨床心理学」を受講してください。本講義は「臨床心理学」で学習した内容を理解していることを前提として、講義・演習を行います。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	選択
担当教員			
一場 美根子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1. 2. 社会保障制度と社会福祉 自分達の生活とあわせて考えてみましょう。 社会保障制度・社会福祉の概念、行財政の仕組み</p> <p>3. 社会福祉の法制度と歴史 社会福祉制度の歴史と関連する法律等</p> <p>4. 5. 保健・医療と社会福祉 ・地域保健サービスの主な内容と実施機関・関係職種 ・医療（医療法を含めて）と医療保険制度</p> <p>6. 7. 所得保障と労働保険制度 ・年金保険制度 ・生活保護制度 ・労働災害補償保険と雇用保険</p> <p>8. 9. 当事者と語る 車椅子で生活しながら社会で活躍する当事者を迎え、誰もがいつ巡り会うか分からない「障害を負う」ということ、また、1市民として或いは医療従事者として障害を持つ人々と関わり、共に生きていくことについて語り合い、考えを深める。</p> <p>10. 児童・家庭福祉 児童家庭福祉のしくみと施策、児童福祉法等</p> <p>11. 障害保健福祉 身体障害・知的障害・精神障害（児）者福祉、障害者総合支援法等</p> <p>12. 介護保険制度成立の意義と現状・課題 介護保険制度成立の意義、我が国の高齢者介護に関わる現状と課題を理解する。</p> <p>13. 14 介護保険法 介護保険法の内容について理解し、医療の場とのつながりを考える。</p> <p>15. まとめ</p>
科目の目的	福祉制度が存在する意義を確認し、専門職として基礎的な知識を持つことを目的とする。
到達目標	<p>1. 福祉制度全般と、日本の社会で確立されている福祉サービスの実際を知る。</p> <p>2. 社会保障・社会福祉の制度が、ライフサイクルとどのように関連しているのか説明できる。</p>
関連科目	社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	筆記試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	日頃から家族や身近な人から情報を得ること、及び配付資料を読んでおくこと。
教科書・参考書	なし
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	講義（6回）演習（2回）
授業計画	<p>1 看護とは（1） 看護の定義と役割を学ぶ。専門職としての看護師について学ぶ。</p> <p>2 看護とは（2） ナイチンゲールの「看護覚え書き」をもとに、看護の機能や役割を考察する。また、看護の歴史と今後の課題から学ぶ。（課題レポート提出）</p> <p>3 看護とは（3） 看護とは何かについて、実践科学としての看護、看護教育制度、看護組織について学ぶ。</p> <p>4 健康とは 健康の概念を学ぶ。健康観、健康増進に対する関わりについて学ぶ。</p> <p>5 看護とは（4） 看護サービス提供の場と療養環境について学ぶ。（課題レポート提出）</p> <p>6 療養生活を支える仕組み 保健・医療・福祉の概念と看護体制について学ぶ。</p> <p>7 看護の実践に必要な知識・能力（1） 看護援助を行ううえで必要な要素を考察する。</p> <p>8 看護の実践に必要な知識・能力（2） グループワークを行い、看護実践に必要な知識・能力について発表する。（課題レポート提出）</p>
科目の目的	看護とは何かについて、多角的な面から考察することにより、看護学への関心を深める。また、看護学の礎を築いたナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を熟読し、看護学の目指すものについての考察を行う。さらに看護の歴史について概観する。
到達目標	<p>1. 看護とは何かについて、多角的に学習し自己の考えを深める。</p> <p>2. 健康とは何かについて、身近な経験を通して自己の考えを深める。</p> <p>3. 保健・医療・福祉システムの中における看護職の職業に関する理解を深める。</p>
関連科目	看護学概論Ⅱ、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる
成績評価方法・基準	筆記試験（40%）、課題レポートおよび講義に対する意見・感想（60%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。ナイチンゲールの代表著作「看護覚え書き」を読むこと。 1コマあたり約120分の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	教科書1:『看護覚え書き』フロレンス・ナイチンゲール著（日本看護協会出版会） 教科書2:『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①-看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書:特になし
オフィス・アワー	月曜・水曜：12：10～12：50(上星研究室)
国家試験出題基準	<p>《必修問題》-Ⅰ-2-A-a～i、4-B、5-A、B、Ⅱ-6-A、B、9-A～E、</p> <p>《健康支援と社会保障制度》-Ⅱ-5-B、C</p> <p>《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、Ⅲ-6-A-E</p>
履修条件・履修上の注意	予習、復習し、主体的に授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1学年	1単位	必修
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	講義（10回）、演習（5回）
授業計画	<p>1 看護活動の実際 基礎看護学実習Ⅰの体験から、医療のシステム、役割および看護活動の実際について考察する。療養生活を支える看護活動として、環境整備を学ぶ。</p> <p>2 看護の対象（1） 健康障害を持つ対象について、環境および療養生活に影響する身体的・心理的・社会的側面から学ぶ。</p> <p>3 看護の対象（2） ライフサイクルと健康のかかわりについて学ぶ。 様々な文化的背景を持つ対象者の理解や健康上の問題や課題について理解する。</p> <p>4 看護援助の基本的役割 看護援助の基本役割について、コミュニケーション、教育者およびカウンセラーとしての役割を学ぶ。（課題レポート提出）</p> <p>5 看護援助の方法（1） 看護援助の方法について看護過程の展開の側面から学ぶ。</p> <p>6 看護援助の方法（2） 看護援助の方法について理論の活用の側面から学ぶ。</p> <p>7 看護理論（1） 看護理論とは何か、看護理論の分類と変遷について学ぶ。</p> <p>8 看護理論（2） 看護理論家と理論の特徴について学ぶ。</p> <p>9 看護理論（3） 看護理論家と理論の特徴について発表する。</p> <p>10 看護理論（4） 看護理論家と理論の特徴について発表する。</p> <p>11 看護職を取り巻く倫理的側面（1） 看護倫理とは何か、看護における倫理の必要性を学ぶ</p> <p>12 看護職を取り巻く倫理的側面（2） 医療現場における道徳的ジレンマ、看護における倫理的意思決定について学ぶ。（課題レポート提出）</p> <p>13 看護職を取り巻く法的側面（1） 看護実践と法律の関係、保健師助産師看護師法及び主な関連法規を学ぶ。</p> <p>14 看護職を取り巻く法的側面（2）医療安全 医療安全の観点から医療事故における法的責任について考察する。</p> <p>15 第1回～14回までの総括 看護における基本的役割・機能と課題に関する事項を整理して理解する。</p>
科目の目的	看護学概論Ⅰおよび基礎看護学実習Ⅰの学習を踏まえ、看護学に関する以下の事項を概観する。看護を取り巻く社会の変化、法律・制度の変化、倫理上の課題、医療事故の問題等について考察し、現実の課題について関心をもつ。同時に医療・看護の受け手である人間に関する理解を深め、看護の役割と機能について考える。
到達目標	<p>1. 看護実践のための理論的根拠を学び、看護援助の基本的役割と看護方法について理解する。</p> <p>2. 看護の対象である人間に関する洞察を深める。</p> <p>3. 看護を取り巻く法的側面と倫理的側面等を学び、社会における看護の役割を考察する。</p>
関連科目	看護学概論Ⅰ、基礎看護学実習Ⅰを踏まえており、看護過程論、看護援助学をはじめとする看護学全般の基盤となる。
成績評価方法・基準	筆記試験（50%）、課題レポートおよび演習参加状況（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に沿って、教科書の該当ページを読み、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと 1コマあたり約1時間の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	教科書1：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学①－看護学概論』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 教科書2：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学③－基礎看護技術』志自岐康子他（編）（メディカ出版） 参考書：特になし
オフィス・アワー	月曜・水曜：12：10～12：50（上星研究室）
国家試験出題基準	<p>《必修問題》-Ⅰ-2-A-a～i、4-B、5-A、B、Ⅱ-6-A、B、9-A～E、Ⅳ-13-A</p> <p>《健康支援と社会保障制度》-Ⅳ-12-A、C、D</p> <p>《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A-a、3-F-a、4-A-a、Ⅲ-6-A-E</p>

履修条件・履修上の注意	予習・復習し、主体的に授業に臨むこと。
-------------	---------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			
上星 浩子	馬醫 世志子		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 対象者に適した看護援助、衛生的手洗い、環境整備 対象者に適した看護援助について、看護援助の本質および看護援助における人間関係の必要性を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメントの意義と看護師の役割を学ぶ。 看護援助の基本となる衛生的手洗いについて学ぶ。 看護援助の基本となる環境整備について学ぶ。 【馬醫】</p> <p>第2回 生活環境、ボディメカニクス 健康的な生活環境および対象者の生活環境について学ぶ。 生活環境の一部である寝床環境を整える方法(シーツ交換)および援助を行う際の動作の基本となるボディメカニクスについて学ぶ。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第3回 フィジカルアセスメント① 一般状態 フィジカルアセスメントの基本的視点と生命徴候(バイタルサイン)を含む一般状態をアセスメントする方法を学ぶ。 看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション理論と技術について学ぶ。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第4回 活動と運動、休息と睡眠 活動と運動に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の活動と運動に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。 休息と睡眠に関する基本知識とその意義を学ぶ。対象者の休息と睡眠に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法を学ぶ。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第5回 フィジカルアセスメント② 呼吸器系 呼吸器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。 【上星】</p> <p>第6回 フィジカルアセスメント③ 循環器系、腹部 循環器系、消化器系のフィジカルアセスメントの視点と対象者の状態を適切に理解するための基本知識を学ぶ。 【上星】</p> <p>第7-8回 清潔保持と衣生活 清潔保持に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の清潔に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(清拭、部分浴、洗髪、口腔ケア、寝衣交換)を学ぶ。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第9回 まとめ① 第1-8回の復習 第1-8回の復習を行い、知識を整理する。 【佐藤】</p> <p>第10-11回 食生活と栄養 食生活と栄養に関する基本的知識とその意義を学ぶ。対象者の食事に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(食事介助、経管栄養法)を学ぶ。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第12回 感染予防 医療者が守るべき基本的な感染予防に関する事項を学ぶ。 【馬醫】</p> <p>第13回 排泄 排泄に関する生理的メカニズムを学ぶ。対象者の排泄に関するニーズについて学び、ニーズにあった援助方法(床上排泄、導尿、浣腸)を学ぶ。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第14回 安全・安楽、電法 対象者の安全・安楽の重要性と医療者が対象者の安全と安楽を確保する方法について学ぶ。 対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じて安楽を提供する援助方法(電法)について学ぶ。 【上星】</p> <p>第15回 まとめ② 第10-14回の復習 第10-14回の復習を行い、知識を整理する。 【佐藤】</p>
科目の目的	対象者と看護師の援助の人間関係の基本を学ぶ。対象者に適した看護援助を提供するためのフィジカルアセスメント技術を理解し、日常生活援助技術の根拠を理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者との良好な援助関係を構築するための理論と方法を学習する。 2. フィジカルアセスメントの意義と対象者の状態を理解するためのフィジカルアセスメント技術の基本を学習する。 3. 対象者の安全と安楽を守り、健康の保持増進および回復を促すための日常生活援助技術について、根拠に基づいて理解する。

関連科目	関連する教養科目－心理学、環境学 関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ、解剖学Ⅱ、生理学、発達心理学、栄養学 関連する専門科目－看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ
成績評価方法・基準	筆記試験(80%)、課題およびミニッツペーパーの提出(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、理解できない内容を明確にして授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 1コマ当たり、30分の予習と90分の復習。
教科書・参考書	教科書1:「ナーシング・グラフィカ基礎看護学③－基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版) 教科書2:「ナーシング・グラフィカ基礎看護学②－ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版) 参考書1:「写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に!」吉田みつ子他監修(インターメディカ) 参考書2:「写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に!」本庄恵子他監修(インターメディカ) 参考書3:「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント－生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好他監修(インターメディカ)
オフィス・アワー	【佐藤】授業の前後および水曜12:10～12:50(佐藤研究室) 【馬醫】担当授業の前後(馬醫研究室) 【上星】担当授業の前後(上星研究室)
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-Ⅰ-2-A-a, b, c ≪必修問題≫-Ⅲ-11-A ≪必修問題≫-Ⅳ-13-B ≪必修問題≫-Ⅳ-14, 15, 16-E ≪基礎看護学≫-Ⅱ-3-A, B, C, D, E, F, G ≪基礎看護学≫-Ⅱ-4
履修条件・履修上の注意	Active Academyにて提出課題を配布する。提出課題を各自で印刷をして放課後に取り組み、提示された期日までに提出すること。(配布期間:授業当日から次回授業日まで)

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
馬醫 世志子			
上星 浩子	佐藤 晶子		

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 看護記録と報告、患者指導 看護援助の実施および評価に伴う看護記録と報告について学ぶ。 患者指導の方法について学ぶ。(馬醫)</p> <p>第2回 検査時の援助、生体検査①画像検査 検査における看護師の役割について学ぶ。 検査の分類と各検査の注意事項について学ぶ。 画像検査の概要と看護のポイントについて学ぶ。(馬醫)</p> <p>第3回 検体検査①尿/便/喀痰検査、検体検査②穿刺検査 尿/便/喀痰検査、穿刺検査の概要と看護のポイントについて学ぶ。(馬醫)</p> <p>第4回 検体検査③血液検査 血液検査の目的と種類について学ぶ。 採血の手順と留意点について学ぶ。(馬醫)</p> <p>第5回 呼吸管理①呼吸機能の評価 呼吸機能の評価方法と呼吸調整法の概要について学ぶ。(馬醫)</p> <p>第6回 呼吸管理②呼吸調整法 呼吸調整法(吸引、吸入、体位等)について学ぶ。(馬醫)</p> <p>第7回 まとめ① 第1回～第6回までの復習を行う。(馬醫)</p> <p>第8回 予薬管理①薬剤の影響と取扱い方法 与薬に関する法律、安全管理、薬物動態、投与方法について学ぶ。(佐藤)</p> <p>第9回 予薬管理②経口与薬、与薬管理③筋肉内/皮下/皮内注射 経口与薬の手順と根拠について学ぶ。 筋肉内/皮下/皮内注射の手順と根拠について学ぶ。(佐藤)</p> <p>第10回 与薬管理④静脈内注射、与薬管理⑤輸液ポンプ、シリンジポンプ 静脈内注射の手順と根拠について学ぶ。 輸液ポンプ/シリンジポンプの取り扱いについて学ぶ。(佐藤)</p> <p>第11回 与薬管理⑥外用薬、与薬管理⑦輸血 外用薬の種類、手順と根拠について学ぶ。 輸血の分類と手順、根拠について学ぶ。(佐藤)</p> <p>第12回 終末時のケア 終末時のケアの概要について学ぶ。(上星)</p> <p>第13回 フィジカルアセスメント④筋骨格系、フィジカルアセスメント⑤神経系 筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントの方法と根拠について学ぶ。(佐藤)</p> <p>第14回 フィジカルアセスメント⑥頭頸部・脳神経系 頭頸部・神経系のフィジカルアセスメントの方法と根拠について学ぶ。(佐藤)</p> <p>第15回 まとめ② 第8回～第14回までの復習を行う。(馬醫)</p>
科目の目的	対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の方法とその根拠を理解する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う看護援助の方法とその根拠を説明することができる。 2. フィジカルアセスメントの手順とその根拠を説明することができる。 3. 治療・検査を受ける人の心理を推察することができる。
関連科目	<p>関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学</p> <p>関連する専門基礎科目－主に解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学</p> <p>関連する専門科目－看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、その他各看護学総論</p>
成績評価方法・基準	筆記試験(90%)、課題およびミニッツペーパーの提出(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1コマ当たり30分の事前学習と90分の復習が必要。 準備学習の内容： 教科書の該当単元を熟読する。 事前学習課題に取り組む。
教科書・参考書	<p>教科書1：「ナーシング・グラフィカ・⑱基礎看護学・基礎看護技術」志自岐康子他編(メディカ出版)</p> <p>教科書2：「ナーシング・グラフィカ・⑰基礎看護学・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編(メディカ出版)</p> <p>参考書1：「写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修(インターメディカ)</p>

	<p>参考書2：「写真でわかる臨床看護技術②－呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修 (インターメディカ)</p> <p>参考書3：「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント－生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好監修 (インターメディカ)</p>
オフィス・アワー	<p>【馬醫】 授業の前後および水曜12：10～12：50(馬醫研究室)</p> <p>【佐藤】 担当授業の前後(佐藤研究室)</p> <p>【上星】 担当授業の前後(上星研究室)</p>
国家試験出題基準	<p>《必修問題》-Ⅲ-10-C-b</p> <p>《必修問題》-Ⅲ-11-A</p> <p>《必修問題》-Ⅳ-13-B-e</p> <p>《必修問題》-Ⅳ-16-B～D, F, G, I</p> <p>《基礎看護学》-Ⅱ-3-H</p> <p>《基礎看護学》-Ⅱ-5-A～C, E</p>
履修条件・履修上の注意	<p>・Active Academyから事前学習課題をダウンロード・印刷し、期日までに解答・提出すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			
上星 浩子	馬醫 世志子	八木智子	

授業形態	演習
授業計画	<p>第1-2回 衛生的手洗い、環境整備、リネンのたたみ方 衛生的手洗いの方法を習得する。 看護援助の基本となる環境整備を理解し、健康的な生活環境を整えるための援助方法を習得する。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第3-4回 シーツ交換、ボディメカニクス ベッドメイキングの方法を習得する。 就床患者のシーツ交換の方法を習得する。 ボディメカニクスの原理を体現する。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第5-6回 フィジカルアセスメント① 一般状態 生命の徴候(バイタルサイン)を正確に測定する方法を習得する。 看護援助における人間関係を構築するためのコミュニケーション技術を体現する。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第7-8回 体位変換、移動・移送、安楽な体位 様々な状況の対象者の安全・安楽を考慮した体位変換方法を習得する。 床上移動、ベッドから車椅子・移送車への移動方法について習得する。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第9-12回 フィジカルアセスメント②③ 呼吸器系・循環器系・腹部 系統別にフィジカルアセスメントについて学び、基本的なフィジカルアセスメント技術(呼吸器系、循環器系、腹部)を習得する。 (提出課題あり)【上星】</p> <p>第13-14回 まとめ① 第1-12回の復習 第1-12回を振り返り、バイタルサイン測定とフィジカルアセスメント(呼吸器系・循環器系・腹部)の実践を通して臨床での応用を考える。 【馬醫】</p> <p>第15-18回 清拭、洗髪、部分浴、寝衣交換 全身清拭、足浴、洗髪、寝衣交換の援助方法を習得する。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第19-20回 食事介助、経管栄養、口腔ケア 食事の援助方法を習得する。 健康状態に応じた栄養法を習得する。 口腔ケアの援助方法を習得する。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第21-22回 感染予防用具の使用法、無菌操作 ガウンテクニックを習得する。 基本的な無菌操作(滅菌手袋・滅菌物の取り扱い)を習得する。 (提出課題あり)【馬醫】</p> <p>第23-24回 床上排泄、陰部洗浄 床上排泄(便器・尿器使用)の援助方法を習得する。 陰部洗浄の援助方法を習得する。 (提出課題あり)【佐藤、八木】</p> <p>第25-26回 導尿、浣腸 導尿法(一時的導尿法、持続的導尿法)を習得する。 浣腸法を習得する。 (提出課題あり)【八木、佐藤】</p> <p>第27-28回 褥法、清拭・寝衣交換の復習 対象者の呼吸・循環・体温のニーズに応じた援助方法(褥法)を習得する。 全身清拭・寝衣交換について安全・安楽をふまえた援助方法を考え実践する。 (提出課題あり)【佐藤】</p> <p>第29-30回 まとめ② 第1-28回の復習 第1-28回を振り返り、日常生活援助技術の実践を通して知識の整理と臨床での応用を考える。 【佐藤】</p>
科目の目的	看護援助学 I における学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた日常生活援助に伴う看護援助の基本的技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。 2. 日常生活を援助する基本的技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 3. 日常生活援助を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。
関連科目	<p>関連する教養科目－心理学</p> <p>関連する専門基礎科目－解剖学 I、解剖学 II、生理学、発達心理学、栄養学</p> <p>関連する専門科目－看護の学び入門、看護学概論 I、看護学概論 II、看護援助学 I</p>

成績評価方法・基準	実技試験(80%)、課題提出(20%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>【準備学習の内容】 演習内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、演習内容を把握して授業に臨むこと。 看護援助学Ⅰでの学習内容の復習をしておくこと。 提出課題に取り組むこと。</p> <p>【準備学習に必要な学習時間の目安】 2コマあたり、30分の予習と30分の復習。</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：「ナースング・グラフィカ・基礎看護学③・基礎看護技術」志自岐康子他編（メディカ出版） 教科書2：「ナースング・グラフィカ・基礎看護学②・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編（メディカ出版） 教科書3：「写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に！」吉田みつ子他監修（インターメディカ） 教科書4：「写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修（インターメディカ） 教科書5：「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメント－生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好他監修（インターメディカ）</p>
オフィス・アワー	<p>【佐藤】 授業の前後および水曜12：10～12：50（佐藤研究室） 【馬醫】 担当授業の前後（馬醫研究室） 【上星】 担当授業の前後（上星研究室） 【八木】 担当授業の前後（八木研究室）</p>
国家試験出題基準	<p>【看護師】 《必修》-Ⅳ-14, 15, 16-E 《基礎看護学》-Ⅱ-3-A, B, C, D, E, F, G 《基礎看護学》-Ⅱ-4</p>
履修条件・履修上の注意	<p>実習用ユニフォーム（ナースウェア、ナースシューズ、名札）を着用して臨むこと。 提出課題を放課後に取り組み、提示された期日までに提出すること。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
馬醫 世志子			
上星 浩子	佐藤 晶子	八木 智子	

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>第1-2回 【講義】生体検査：心電図検査、内視鏡検査、呼吸機能検査 心電図検査、内視鏡検査、呼吸機能検査の概要と看護のポイントについて学ぶ。（馬醫）</p> <p>第3-4回 【演習】心電図検査、呼吸機能検査、尿検査 心電図検査、呼吸機能検査、尿検査における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（馬醫）</p> <p>第5-6回 【演習】採血 採血における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（馬醫）</p> <p>第7-8回 【演習】呼吸管理 吸引、吸入（酸素、ネブライザー）、体位ドレナージにおける看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（馬醫）</p> <p>第9回 【講義】創傷管理 創傷管理の方法と根拠について学ぶ。（八木）</p> <p>第10回 【演習】包帯法 包帯法における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（八木）</p> <p>第11-12回 【演習】筋肉内注射、皮下注射 筋肉内注射、皮下注射における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（佐藤）</p> <p>第13-14回 【演習】静脈内注射（翼状針）、輸液ポンプ、シリンジポンプ 翼状針を用いた静脈内注射における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。 輸液ポンプ、シリンジポンプの操作法について理解し、援助技術を習得する。（八木）</p> <p>第15-16回 【演習】静脈内注射（留置針） 留置針を用いた静脈内注射における看護師の役割について理解し、援助技術を習得する。（八木）</p> <p>第17-18回 まとめ① 第1-16回の復習 第1-16回を振り返り、検査・呼吸管理・創傷管理・与薬に関する知識を整理する。 注射法に関する実技試験実施。（佐藤）</p> <p>第19-20回 【演習】フィジカルアセスメント④筋骨格系、フィジカルアセスメント⑤神経系 筋骨格系、神経系のフィジカルアセスメントについて理解し、 基本的なフィジカルアセスメント技術（筋骨格系、神経系）を習得する。（八木）</p> <p>第21-22回 【演習】フィジカルアセスメント⑥頭頸部・脳神経系 頭頸部・脳神経系のフィジカルアセスメントについて理解し、 基本的なフィジカルアセスメント技術（頭頸部・脳神経系）を習得する。（八木）</p> <p>第23-28回 【演習】統合演習 設定された看護援助場面で、安全安楽な看護援助を検討し、 看護援助学演習Ⅰ・Ⅱで得た知識と技術を統合する。（馬醫）</p> <p>第29-30回 まとめ② 看護援助学演習Ⅱ全体を振り返り、診療に伴う看護技術に関する知識を整理する。 診療に伴う看護技術に関する実技試験実施。（馬醫）</p>
科目の目的	看護援助学Ⅱにおける学習を踏まえ、対象者のニーズに応じた診療に伴う看護援助の基本的技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う基本的な援助技術の根拠を理解し、正確に実施できる。 2. 治療・検査を受ける人の心理を理解する姿勢を持つことができる。 3. 対象者の身体状況を正確に把握するためのフィジカルアセスメント技術を習得する。
関連科目	<p>関連する教養科目－心理学、生命倫理、家族学、環境学</p> <p>関連する専門基礎科目－解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、生化学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、栄養学、病態栄養学、臨床心理学</p> <p>関連する専門科目－看護の学び入門、看護学概論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰ、看護援助学Ⅱ、その他各看護学総論</p>
成績評価方法・基準	実技試験（70%）、課題提出（30%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>2コマ当たり30分の準備学習と30分の復習が必要。</p> <p>準備学習の内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助学Ⅱでの学習の復習 2. 該当単元の演習内容のイメージトレーニング
教科書・参考書	<p>「ナーシング・グラフィカ・⑩基礎看護学・基礎看護技術」志自岐康子他編（メディカ出版）</p> <p>「ナーシング・グラフィカ・⑪基礎看護学・ヘルスアセスメント」松尾ミヨ子他編（メディカ出版）</p> <p>「写真でわかる基礎看護技術－基礎的な看護技術を中心に！」吉田みつ子他監修（インターメディカ）</p> <p>「写真でわかる臨床看護技術①－注射・検査に関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修（インターメディカ）</p> <p>「写真でわかる臨床看護技術②－呼吸・循環、創傷ケアに関する看護技術を中心に！」本庄恵子他監修</p>

	(インターメディカ) 「写真でわかる看護のためのフィジカルアセスメントー生活者の視点から学ぶ身体診察法」村上美好監修 (インターメディカ)
オフィス・アワー	【馬醫】 授業の前後および水曜12:10~12:50(馬醫研究室) 【佐藤】 担当授業の前後(佐藤研究室) 【上星】 担当授業の前後(上星研究室)
国家試験出題基準	《必修問題》-IV-16-B, C, D, F, G, I 《基礎看護学》-II-3-A, B, D, F 《基礎看護学》-II-5-A-a, b, d, e, g 《基礎看護学》-II-5-B, C 《基礎看護学》-II-5-E-a, b, c, e 《成人看護学》-III-8-C-d 《成人看護学》-III-9-C-c
履修条件・履修上の注意	演習では半袖Tシャツ、スパッツ、ナースウェア、ナースシューズ、名札を着用すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2学年	2単位	必修
担当教員			
佐藤 晶子			

授業形態	講義(12回)、演習(8回)		
授業計画	第1回	看護過程の概要 看護の役割と機能について振り返り、看護実践の基礎となる看護過程の概念、看護上の問題を解決するための思考について学ぶ。 【佐藤】	
	第2-3回	ヘルスヒストリー、アセスメント① ヘルスヒストリーの意義と構成要素について学ぶ。 情報収集と情報収集の枠組み、ゴードンの機能面からみた11の健康パターンにそった情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ。 【佐藤】	
	第4-5回	アセスメント②、看護面接 ゴードンの機能面からみた11の健康パターンにそった情報の整理と1次アセスメントについて学ぶ。 看護面接の基本技術について学ぶ。 【佐藤】	
	第6回	看護診断 看護診断の定義、構成要素、診断名の種類、表記方法、また看護診断の優先順位の考え方について学ぶ。 【佐藤】	
	第7-8回	情報の整理と解釈、事例展開①(演習) 得られた情報の整理、解釈する方法について学ぶ。 看護診断を導くまでの一連の過程を事例にて考える。 【佐藤】	
	第9-10回	関連図、問題リスト 収集した情報を整理し、根拠に基づいたアセスメントを行い、患者の全体像を捉え、関連図を作成する方法について学ぶ。 【佐藤】	
	第11回	看護計画、評価 計画立案における目標の条件、長期目標・短期目標、看護診断から援助方法(目標設定・計画立案)を導き出す。 立案した看護計画の評価について、評価基準、評価の時期、評価の方法について学ぶ。 【佐藤】	
	第12回	看護記録、カンファレンス 看護の実施についてPOS方式等による看護記録の書き方を学ぶ。 効果的なカンファレンスの方法について学ぶ。 【佐藤】	
	第13回	知識の整理と確認 看護過程の知識を整理と確認をし、次回からの事例展開②(演習)につなげる。 【佐藤】	
	第14-16回	事例展開②(演習) 対象をホリスティックに捉えるために必要な情報について考える。 紙上患者事例Aを用いて、情報を分類・整理し、それらの意味を解釈し、全体像を捉え、看護診断・期待される結果・計画をグループワークにて導く。 【佐藤】	
	第17-18回	プレゼンテーション① 紙上患者事例Aの看護診断を導いた根拠、期待される結果を達成するためのケアプランについて発表する。 【佐藤】	
	第19-20回	まとめ① 看護過程展開における知識を確認し、基礎看護学実習Ⅱに向けて自己の課題を明確にする。 (提出課題あり)【佐藤】	
	第21回	第1-20回の講義および基礎看護学実習Ⅱにおける看護過程の振り返り 第1-20回の講義や基礎看護学実習Ⅱにおける学び、看護過程展開の特徴を振り返る。 【佐藤】	
	第22-23回	受け持ち事例の振り返り 基礎看護学実習Ⅱで受け持った事例を振り返り、看護過程展開の妥当性を検討する。 【佐藤】	
	第24-27回	事例展開③(演習) 紙上患者事例Bの看護過程を個人ワークにて展開し、情報からアセスメント、看護診断を導く。 個人ワークにて抽出した看護診断をグループワークにて検討し、期待される結果と計画の立案をする。 【佐藤】	
	第28-29回	プレゼンテーション②	

	紙上患者事例Bの看護診断、期待される結果、計画について発表し、個別性のある看護過程展開の共有化・明確化を図る。 【佐藤】 第30回 まとめ② 看護過程が看護ケアの質を保障し向上させるための、系統的な思考の枠組みであることを確認し、今後の課題を明確にする。 (提出課題あり)【佐藤】
科目の目的	看護過程は、看護を实践するものが独自の知識体系に基づき、看護により解決できる問題を効果的に取り上げ、解決していくために系統的、組織的に行う活動である。ここでは講義・演習を繰り返しながら科学的思考、問題解決思考をもとに看護過程における思考の方法を学習し、対象者のニーズに応じた看護援助を意図的、科学的に行っていく技術を習得する。 また理論的枠組みを活用した対象者の情報の整理・記録の方法を習得する。
到達目標	1. 看護過程の構成要素および関連する用語の定義が説明できる 2. ゴードンの11の機能的健康パターンに沿った情報収集と一次アセスメントができる 3. 紙上事例の情報の整理を行い、得られた事実に関するアセスメント(解釈・判断)ができる 4. 紙上事例のアセスメント結果から適切な看護診断を導き、優先順位が設定できる 5. 紙上事例の患者目標を設定し、個別性のある看護計画が立案できる 6. 評価・修正ができる 7. 効果的なカンファレンスができる
関連科目	専門基礎科目群：解剖学、生理学、薬理学、疾病の成り立ち、臨床検査学 専門科目群：看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、看護援助学Ⅰ、看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ、看護援助学演習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験(40%)、課題(看護過程展開/個人ワーク・グループワーク)およびミニッツペーパーの提出(60%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	【準備学習の内容】 講義内容に沿った教科書の該当ページを熟読し、各回で提示される事前課題(予習)に取り組み、主体的に授業に臨むこと。 提出課題に取り組むこと。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 1コマあたり90分の予習と30分の復習
教科書・参考書	教科書1：「ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断」江川隆子編(ヌーヴェルヒロカワ) 教科書2：「看護診断ハンドブック」Carpenito-Moyet, L.J. 著、新道幸恵監訳(医学書院) 参考書1：「看護過程に沿った対象看護 病態生理と看護のポイント」高木永子監修(学研) その他、必要に応じて随時紹介する。
オフィス・アワー	授業の前後および水曜12：10～12：50(佐藤研究室)
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫-IV-13-A-b, c ≪必修問題≫-IV-13-C ≪基礎看護学≫-Ⅰ-2 ≪基礎看護学≫-Ⅱ-C
履修条件・履修上の注意	各回で提示される事前課題および提出課題を放課後に取り組み、主体的に授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	講義（3回）、演習（5回）
授業計画	<p>1 看護の現状と課題 看護学に関する現状と課題について学ぶ。</p> <p>2 看護の専門性（1） 対象を理解する方法としてフィジカルアセスメント技術を取り上げ、医療チームにおける看護の専門性を考察する。</p> <p>3 看護の専門性（2） 看護技術のエビデンスについて理解を深める。</p> <p>4 看護の課題と展望（1） 看護援助、看護技術に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>5 看護の課題と展望（2） 看護援助、看護技術に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>6 看護の課題と展望（3） 看護援助、看護技術に関する課題について、文献をもとにグループで考察し、発表・討議する。</p> <p>7 看護の課題と展望（4） 医療情報技術と看護について理解を深める。</p> <p>8 看護の課題と展望（5） 看護における倫理的課題について、グループで分析し、課題解決策を考察する（授業後、課題レポートを提出する）</p>
科目の目的	基礎看護学の視点から看護学の専門性、現状、展望について、先行研究や演習での自己の学びから考察する。
到達目標	<p>1. 看護技術のエビデンスや倫理的課題について、文献等を用いて情報収集ができる。</p> <p>2. 文献等で得られた情報に基づき、看護に関する課題と展望について考えることができる。</p> <p>3. 看護の専門性について、演習での学びに基づいて考えることができる。</p>
関連科目	看護の学び入門、看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論をはじめとする看護学全般の科目
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容（70%）、課題レポート（30%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当となった課題に関するプレゼンテーション準備（文献検索、発表資料作成） 1コマにあたり約120分の事前学習と復習が必要。
教科書・参考書	教科書：『ナーシング・グラフィカ基礎看護学②ーヘルスアセスメント』松尾ミヨ子他（編）（メディカ出版） 参考書：特になし
オフィス・アワー	月曜・水曜：12：10～12：50（上星研究室）
国家試験出題基準	《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A～G Ⅲ-6-A,D
履修条件・履修上の注意	フィジカルアセスメント・ヘルスアセスメントの演習は実習室で行うため、ナースシューズを持参すること、また聴診器を持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1・2学年	1単位	必修
担当教員			
牛込 三和子			
鈴木 珠水	萩原 英子	金子 吉美	

授業形態	講義を中心に、随時ワーク（個別・グループ）も取り入れる。
授業計画	<p>第1回 成人看護学の概要（牛込） 成人看護学を学ぶ意義及び成人看護学総論の授業の進め方、授業の目的などの紹介</p> <p>第2回 成人の健康障害と看護1（Guest Speaker 桑畑裕子氏）N1, N2合同授業 @PAZ Hall（牛込） 疾患や障害を持ちながら自分らしく生きる人の講義を受けて、成人看護学の課題を考える。</p> <p>第3回 成人の健康障害と看護2（Guest Speaker 荻野晃一氏）N1, N2合同授業 @PAZ Hall（鈴木） 疾患や障害を持ちながら自分らしく生きる人の講義を受けて、成人看護学の課題を考える。</p> <p>第4回 成人の健康障害と看護3（Guest Speaker 弥勒寺雪氏）N1, N2合同授業 @PAZ Hall（牛込） 疾患や障害を持ちながら自分らしく生きる人の講義を受けて、成人看護学の課題を考える。</p> <p>第5回 成人の健康障害と看護4（Guest Speaker 牛久保結紀氏）N1, N2合同授業 @PAZ Hall（牛込） 疾患や障害を持ちながら自分らしく生きる人の講義を受けて、成人看護学の課題を考える。</p> <p>第6回 成人の健康障害と看護5（Guest Speaker 角田美佐江氏）N1, N2合同授業 @PAZ Hall（牛込） 疾患や障害を持ちながら自分らしく生きる人の講義を受けて、成人看護学の課題を考える。</p> <p>第7回 成人の健康障害と看護6 N1, N2合同授業 @PAZ Hall（萩原） 急性期にある人の看護を理解する。</p> <p>第8回 成人の健康障害と看護 N1, N2合同授業 @PAZ Hall（鈴木／萩原） 慢性期にある人の看護、終末期にある人の看護を裡埋する。</p> <p>第9回 成人各期の特徴と保健問題（牛込） ライフサイクルと成人期、青年期、壮年期、向老期の問題および成人期の看護問題とその把握ができる。</p> <p>第10回 成人保健1—生活習慣病全般（牛込） 生活習慣病対策：糖尿病、高血圧、脂質異常症、肥満などの健康問題を理解する。</p> <p>第11回 成人保健2—生活習慣病の予防1（牛込） 糖尿病を中心に…患者の体験を理解する。</p> <p>第12回 成人保健3—生活習慣病の予防2（牛込） がんを中心に…患者の体験を理解する。</p> <p>第13回 成人保健4—難病（牛込） 難病を中心に…患者の体験を理解する。</p> <p>第14回 成人保健5—セクシュアリティ、労働者（牛込） 成人保健と性、成人保健と労働について理解する。</p> <p>第15回 成人保健6—環境保健（牛込） 環境と健康問題について理解する。</p>
科目の目的	ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解し、成人期にある人々の健康問題の特徴、保健および看護の機能・特性を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける成人期の特徴を理解する。 2. 成人期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 成人期における健康障害のある人々の看護について病期に応じた特性を理解する。 4. 成人期にある人々の健康問題を支援する制度、システムについて理解する。
関連科目	履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法・基準	筆記試験(90%)、レポート(10%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容については前回の講義時に指示をする。 授業後（ゲストスピーカーの講義以外の授業）は、配布された資料などに目を通し復習を最低60分すること。
教科書・参考書	<p>「新体系看護学全書 成人看護学1 成人看護学概論 成人保健」黒江ゆり子編集（メヂカルフレンド社） 「国民衛生の動向 厚生指針 2015/2016年版」（厚生統計協会）</p> <p>参考書は随時紹介する。</p>
オフィス・アワー	講義前後、昼休み ゲストスピーカーは授業の後の20分とする。
国家試験出題基準	成人看護学Ⅰ-1.～2.、Ⅱ-4.～5.、7.A-b.c. 在宅看護論Ⅱ-7.D-b. 基礎看護学Ⅱ-3.H 健康支援と社会保障制度Ⅲ-11.E.a.

	健康支援と社会保障制度Ⅳ-12. C. a～d. 必修問題Ⅱ-7. F. ～G.、Ⅲ-10. C. c.、Ⅲ-11. B. a. b. c.
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。 ゲストスピーカーの方に対しての礼節を忘れずに授業に臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義 スライド供覧
授業計画	<p>第1回 概論 1 診断学 身体所見 特に大切</p> <p>第2回 概論 2 臨床検査 治療法の原則 特に大切</p> <p>第3回 消化器疾患 1 主な（よく見る）消化器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第4回 消化器疾患 2 主な（よく見る）消化器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第5回 消化器疾患 3 主な（よく見る）消化器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第6回 消化器疾患 4 主な（よく見る）消化器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第7-9回 呼吸器疾患 1-4 主な（よく見る）呼吸器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第10回 循環器疾患 1 主な（よく見る）循環器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第11回 循環器疾患 2 主な（よく見る）循環器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第12回 循環器疾患 3 主な（よく見る）循環器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第13回 循環器疾患 4 主な（よく見る）循環器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第14回 血液造血器 1 主な（よく見る）血液造血器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第15回 血液造血器 2 主な（よく見る）血液造血器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p>
科目の目的	成人の罹患する（罹患：かかる）代表的な疾患（疾病、病気）について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学ぶ。
到達目標	消化器疾患（消化管：食道・胃・小腸・大腸、肝臓、胆のう、膵臓など）、呼吸器疾患（肺炎、気管支ぜんそく、気胸、肺気腫、肺がん など）、循環器疾患（心臓・大血管・末梢動脈・静脈疾患など）、血液・造血器疾患（貧血、白血病など）の概要について理解し、説明が出来る（患者さん、患者家族への説明を想定しています）。
関連科目	これまでに履修習得した、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。
成績評価方法・基準	筆記試験 100% （実技を含む場合がある。）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の1/3程度の時間を準備学習に当てることが望ましい。
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学 2（呼吸器） 3（循環器） 4（血液・造血器） 5（消化器）
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み、在室時はanytime
国家試験出題基準	≪必修問題≫-Ⅲ-11-B-abcd ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫-Ⅲ-5-A-abcdef, Ⅲ-6-A-abcdef, Ⅲ-6-B-abcde, Ⅲ-7-A-abcd ≪成人看護学≫-Ⅱ-3-C-abcdefghijklmn Ⅲ-8-A-abcd, Ⅲ-8-B-abc, Ⅲ-8-C-abcde, Ⅲ-8-D-abcde, Ⅲ-8-E-abcd Ⅲ-9-A-abcd, Ⅲ-9-B-abc, Ⅲ-9-C-abc, Ⅲ-9-D-abcdefg, Ⅲ-9-E-abcd Ⅲ-10-A-abcde, Ⅲ-10-B-abcd, Ⅲ-10-C-abcdefg, Ⅲ-10-D-abcdefghij, Ⅲ-10-E-abcdefg Ⅲ-11-A-abc, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-ab, Ⅲ-11-D-abcdef, Ⅲ-11-E-abc

履修条件・履修上の注意	
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
尾林 徹			

授業形態	講義 スライド供覧
授業計画	<p>第1回 内分泌代謝1 主な（よく見る）内分泌代謝疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第2回 内分泌代謝2 主な（よく見る）内分泌代謝疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第3回 脳・神経1 主な（よく見る）脳・神経疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第4回 脳・神経2 主な（よく見る）脳・神経疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第5回 脳・神経3 主な（よく見る）脳・神経疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第6回 腎・泌尿器1 主な（よく見る）腎・泌尿器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第7回 腎・泌尿器2 主な（よく見る）腎・泌尿器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第8回 膠原病など1 主なアレルギー・膠原病・感染症疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ 立つ</p> <p>第9回 膠原病など2 主なアレルギー・膠原病・感染症疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第10回 運動器1 主な運動器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第11回 運動器2 主な運動器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第12回 皮膚疾患1 主な皮膚疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第13回 眼疾患 主な眼疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第14回 耳鼻咽喉 主な耳鼻咽喉疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p> <p>第15回 女性生殖器 主な女性生殖器疾患の要点 とても大切 実地で役に立つ</p>
科目の目的	成人の罹患する（罹患：かかる）代表的な疾患（疾病、病気）について、その自覚症状、身体所見、臨床検査所見、診断、病態、成因、治療方法などの概要を学ぶ。
到達目標	内分泌代謝疾患（糖尿病、甲状腺疾患バセドウ病、クッシング病、副腎疾患など）、脳神経疾患（脳梗塞、脳出血、脳腫瘍、神経変性疾患など）、腎泌尿器疾患（腎不全、尿路感染症、膀胱炎、急性腎炎、慢性腎炎、腎がん、膀胱癌など）、アレルギー・膠原病・感染性疾患（アナフィラキシーショック、薬剤性肝障害、慢性関節リウマチ、SLE、不明熱、結核、コレラ、マラリアなど）、運動器疾患、皮膚疾患、眼疾患、耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患 の概要について理解し、説明が出来る（患者さん、患者家族への説明を想定しています）。
関連科目	これまでに履修習得した、基礎科目、専門科目、看護学専門科目。
成績評価方法・基準	筆記試験 100% （実技を含む場合がある。）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義時間の1/3程度の時間を準備学習に当てることが望ましい。範囲が広いので30分程度の復習が効果的です。
教科書・参考書	系統看護学講座 成人看護学 6（内分泌代謝） 7（脳神経疾患） 8（腎泌尿器） 9（女性生殖器） 10（運動器） 11（アレルギー・膠原病・感染症） 12（皮膚疾患） 13（眼疾患） 14（耳鼻咽喉

	疾患) 医学書院 参考書は随時紹介予定
オフィス・アワー	講義前後、講義日の昼休み、在室時はanytime
国家試験出題基準	<<必修問題>>-Ⅲ-11-B-abcd <<疾病の成り立ちと回復の促進>>-Ⅲ-4-A-abcdefghijkl, Ⅲ-4-B-abc, Ⅲ-4-C-abcd Ⅲ-8-A-abc, Ⅲ-8-B-abc, Ⅲ-8-C-a Ⅲ-9-A-abcdefg, Ⅲ-9-B-abc, Ⅲ-9-C-abcd, Ⅲ-9-D-abcde Ⅲ-10-A-abcdef, Ⅲ-10-B-ab Ⅲ-11-A-abcde, Ⅲ-11-B-ab, Ⅲ-11-C-a Ⅲ-12-A-abcdefg, Ⅲ-12-B-a Ⅲ-13-A-abcd <<成人看護学>>-Ⅱ-3-C-abcdefghijklmn Ⅲ-12-A-abcdef, Ⅲ-12-B-abcde, Ⅲ-12-C-abcde, Ⅲ-12-D-abcdefgh, Ⅲ-12-E-abcdefgh Ⅲ-13-A-abcd, Ⅲ-13-B-abc, Ⅲ-13-C-ab, Ⅲ-13-D-ab, Ⅲ-13-E-ab Ⅲ-14-A-abc, Ⅲ-14-B-ab, Ⅲ-14-C-abc, Ⅲ-14-D-abc, Ⅲ-14-E-abcd Ⅲ-15-A-abcdef, Ⅲ-15-B-abcde, Ⅲ-15-C-abcd, Ⅲ-15-D-abcdef, Ⅲ-15-E-abcde Ⅲ-16-A-abcde, Ⅲ-16-B-abcd, Ⅲ-16-C-abc, Ⅲ-16-D-abcdefg, Ⅲ-16-E-abcdefg Ⅲ-17-A-abcd, Ⅲ-17-B-abcd, Ⅲ-17-C-abc, Ⅲ-17-D-abcd, Ⅲ-17-E-abcdef Ⅲ-18-A-ab, Ⅲ-18-B-a, Ⅲ-18-C-ab, Ⅲ-18-D-abc, Ⅲ-18-E-ab Ⅲ-19-A-abcdefg, Ⅲ-19-B-abc, Ⅲ-19-C-abcdefghi, Ⅲ-19-D-abcdefgh, Ⅲ-19-E-abc
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 珠水			
牛込 三和子	荒木 伸生	及川 洋	

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 臨床看護学総論 (牛込) 成人看護学Ⅰ～Ⅴの関連性、成人看護学の考え方</p> <p>第2回 循環器疾患患者の看護1 (荒木) 虚血性心疾患の病態・治療・看護について学ぶ。</p> <p>第3回 循環器疾患患者の看護2 (荒木) 心不全の病態・治療・看護について学ぶ。</p> <p>第4回 循環器疾患患者の看護3 (荒木) 不整脈の病態・治療・看護について学ぶ。</p> <p>第5回 消化管疾患患者の看護1 (鈴木) 消化管(食道・胃・十二指腸)の機能と働き、病態・治療・看護について学ぶ</p> <p>第6回 消化管疾患患者の看護2 (鈴木) 消化管(小腸・大腸・直腸・肛門)の機能と働き、病態・治療・看護について学ぶ</p> <p>第7回 肝疾患患者の看護 (鈴木) 肝臓の機能と働き、肝疾患の病態・治療・看護について学ぶ</p> <p>第8回 肝臓・胆嚢・膵臓疾患患者の看護 (鈴木) 肝臓・胆嚢・膵臓の機能と働き、肝・胆・膵疾患の病態・治療・看護について学ぶ</p> <p>第9回 消化器疾患の看護 (鈴木) + 第2～第8回までの確認 (鈴木) 循環器疾患、消化器疾患の看護についての復習と確認</p> <p>第10回 呼吸器疾患患者の看護1 (鈴木) 呼吸機能、呼吸器について学ぶ</p> <p>第11回 呼吸器疾患患者の看護2 (鈴木) 肺がんの病態・治療・看護について学ぶ。</p> <p>第12回 呼吸器疾患患者の看護3 (鈴木) 肺がん患者の事例の展開について学ぶ。気管支鏡検査の看護について学ぶ。</p> <p>第13回 呼吸器疾患患者の看護4 (鈴木) 結核の病態・治療・看護について学ぶ。</p> <p>第14回 呼吸器疾患患者の看護5 (鈴木) 胸腔ドレーンや人工呼吸器の適応、目的、看護について学ぶ。</p> <p>第15回 感覚器疾患患者の看護 (及川) 感覚器疾患の患者の観察とアセスメント、検査・治療と看護、症状・障害と看護、主な疾患と看護について学ぶ。</p>
科目の目的	<p>1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。</p> <p>2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。</p>
到達目標	<p>1. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。</p> <p>2. 消化器疾患、呼吸器疾患、循環器疾患、感覚器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。</p>
関連科目	<p>ここまでに履修したすべての専門科目。 解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ 特に、成人・老年看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅱ</p>
成績評価方法・基準	筆記試験100%：中間試験50%、期末試験50%で合算した結果で可否を判定する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>授業後の復習は1時間以上は必ずすること。 成人看護学Ⅰ、Ⅱで学習した内容の復習及び事前に指定教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。 授業前に、成人看護学Ⅰで学んだ内容の復習を60分行うこと。授業後は、60分の復習をすること。</p>
教科書・参考書	<p>教科書 系統看護学講座 成人看護学【2】・【3】・【5】・【14】(医学書院) 「周手術期看護論」雄西 智恵美、秋元 典子 編集 ニューヴェルヒロカワ 参考書 解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト</p>
オフィス・アワー	<p>講義前後、昼休み 外部講師の場合は、授業後20分</p>
国家試験出題基準	<p>成人看護学 Ⅱ-3C、Ⅱ-4、Ⅱ-6、Ⅲ-8, 9, 10, 11、Ⅲ-15A～E</p>

	基礎看護学 Ⅱ-5. E 必修問題 Ⅲ-11B. a, b, c
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 珠水			
牛込 三和子	萩原 英子	大谷 忠広	

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 臨床看護学総論1～慢性疾患患者の看護 (鈴木) 慢性期疾患患者の看護で用いられる概念や看護支援の方法を学ぶ。</p> <p>第2回 内分泌代謝疾患患者の看護1 (鈴木) 糖尿病の疫学、病態について学ぶ。</p> <p>第3回 内分泌代謝疾患患者の看護2 (鈴木) 糖尿病の治療(食事療法・運動療法)と看護を学ぶ。</p> <p>第4回 内分泌代謝疾患患者の看護3 (鈴木) 糖尿病の治療(薬物療法)と看護を学ぶ。</p> <p>第5回 内分泌代謝疾患患者の看護3 (鈴木) 糖尿病の神経障害とフットケアについて学ぶ。</p> <p>第6回 腎・泌尿器疾患患者の看護1 (鈴木) 主な腎臓の機能と腎疾患の看護について学ぶ。</p> <p>第7回 腎・泌尿器疾患患者の看護2 (鈴木) 泌尿器の機能と尿管・膀胱・尿道疾患の看護について学ぶ。</p> <p>第8回 腎・泌尿器疾患患者の看護3 + 第1～7回までの確認 (鈴木) 膀胱全摘を行った後の再建術とストーマケアについて学ぶ。</p> <p>第9回 神経系疾患患者の看護1 (牛込) 脳神経系の構造と機能、検査と治療について学ぶ。</p> <p>第10回 神経系疾患患者の看護2 (大谷) 神経系難病疾患(神経筋疾患:ALS)の症状と看護について学ぶ。</p> <p>第11回 神経系疾患患者の看護3 (牛込) 神経系難病疾患(脱髄・変性疾患:パーキンソン病、SCD、多系統萎縮症)の症状と看護について学ぶ。</p> <p>第12回 膠原病患者の看護 (牛込) アレルギー・膠原病の症状と治療・看護について学ぶ。</p> <p>第13回 血液・造血器疾患患者の看護1 (萩原) 血液・造血器疾患の主要症状を有する患者の看護について学ぶ。</p> <p>第14回 血液・造血器疾患患者の看護2 (萩原) 血液・造血器疾患で治療を受ける患者の看護について学ぶ。 貧血、白血球減少、出血傾向、輸血、移植療法</p> <p>第15回 臨床看護学総論2～がん患者の看護 (萩原) がん看護で用いられる概念や看護支援の方法を学ぶ。 がん、化学療法、放射線療法、緩和ケア、全人的苦痛 貧血、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、特発性血小板減少性紫斑病</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人々に発症する疾病について、その病因、病態生理、症状、診断、検査、治療の概要について学ぶ。 2. 疾患をもつ成人期にある人々の看護の方法について学ぶ。 3. 回復期、慢性期などの病期ごとに異なる特徴を持つ療養者の課題や、看護支援について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病などの代謝性疾患、腎泌尿器疾患の病態生理、症状、診断、検査、治療を理解できる。 2. 血液造血器疾患、神経系疾患、膠原病、糖尿病などの代謝性疾患、腎泌尿器疾患をもつ成人期にある人々の看護方法を理解できる。
関連科目	<p>ここまでに履修したすべての専門科目。 解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ 特に、成人・老年看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ</p>
成績評価方法・基準	筆記試験100%：中間試験50%、期末試験50%で合算した結果で可否を判定する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>授業後の復習は1時間以上は必ずすること。 成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学習した内容の復習及び事前に指定教科書の講義題目に該当する部分を読んでおくこと。 授業前に、成人看護学Ⅱで学んだ内容の復習を60分行うこと。授業後は、60分の復習をすること。</p>
教科書・参考書	<p>教科書 系統看護学講座 成人看護学【4】、【6】、【7】、【8】、【9】、【11】 医学書院 参考書 解剖学、生理学、薬理学、病態生理学、疾病の理解等において使用したテキスト</p>

オフィス・アワー	講義前後、昼休み 外部講師の場合は、授業後20分
国家試験出題基準	成人看護学 I-2A、II-3C、II-4, 5, 6, 7、III-12, 13, 14, 16, 18, 19 在宅看護学 I-3A、II-7Cb, D 健康支援と社会保障制度 III-11Ea, f, a 必修問題 III-11Ba, b, c
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
萩原 英子			

授業形態	講義(15回)
授業計画	<p>1 周手術期看護総論 〈担当：萩原〉 周手術期にある患者とその家族の特徴と看護の役割について学習する。 [キーワード] 手術、意思決定、身体侵襲、不安、健康管理能力</p> <p>2 クリティカルケア看護総論 〈担当：萩原〉 クリティカル期にある患者とその家族の特徴と看護に役割について学習する。 [キーワード] 緊急性と重症度のアセスメント、危機的状態への精神的支援、代理意思決定支援</p> <p>3 救急看護総論 〈担当：萩原・藤巻〉 救急看護の概念と主要な病態に対する救急処置について学習する。 [キーワード] プレホスピタルケア、法と倫理、心肺停止/急性中毒/熱傷/熱中症/食中毒</p> <p>4 術前・術中看護 〈担当：小池〉 術前準備と術中管理について学習する。また、手術侵襲や麻酔によって起こる生体反応とその看護について学ぶ。 [キーワード] 術前オリエンテーション、術前指導、麻酔、手術体位、手術室看護</p> <p>5 術後看護1 (術後アセスメント) 〈担当：小池〉 術後患者のアセスメントとその看護について学習する。 [キーワード] 術後モニタリング、ドレーン管理、術後疼痛管理、術後合併症</p> <p>6 術後看護2 (術後合併症) 〈担当：及川〉 主要な術後合併症とその予防について学習する。 [キーワード] MOF、術後肺合併症、循環不全、イレウス、感染、DIC</p> <p>7 周手術期看護各論1 (消化器) 〈担当：萩原〉 胃や食道の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。 [キーワード] 胃がん、食道がん、開腹術、生活の再構築</p> <p>8 周手術期看護各論2 (消化器) 〈担当：萩原〉 大腸や肝臓の手術によって起こる生体機能の変化に対する看護について学習する。 [キーワード] 大腸がん、肝臓がん、開腹術、ストーマ造設、ボディイメージ、セルフケア</p> <p>9 周手術期看護各論3 (消化器) 〈担当：萩原〉 内視鏡下手術及び日帰り手術を受ける患者の看護について学習する。 [キーワード] 胆嚢結石症、痔核、内視鏡手術、日帰り手術、患者指導</p> <p>10 中間試験 / 周手術期看護各論4 (女性生殖器) 〈担当：萩原〉 子宮頸がんで手術を受ける患者に対する看護について学習する。 [キーワード] 子宮頸がん/子宮体がん、生殖機能の喪失、リンパ浮腫</p> <p>11 周手術期看護各論5 (女性生殖器) 〈担当：萩原〉 乳がんで手術を受ける患者の看護について学習する。 [キーワード] 乳がん、ボディイメージ、リンパ浮腫、患者会、社会復帰支援</p> <p>12 周手術期看護各論6 (脳神経) 〈担当：小池〉 くも膜下出血で開頭術を受ける患者の看護について学習する。 [キーワード] くも膜下出血、開頭術、クリッピング術、頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア</p> <p>13 周手術期看護各論7 (循環器) 〈担当：小池〉 急性心筋梗塞で開心術を受ける患者の看護について学習する。 [キーワード] 心筋梗塞、開心術、肝動脈バイパス術、心臓リハビリテーション</p> <p>14 周手術期看護各論8 (運動器) 〈担当：藤巻〉 運動機能障害の種類や特徴とそのアセスメントについて学習する。 [キーワード] 骨折、脱臼、外傷、機能障害、日常生活動作</p> <p>15 周手術期看護各論9 (運動器) 〈担当：藤巻〉 運動機能障害のある患者の治療期及び回復期における看護について学習する。 [キーワード] 大腿骨頸部骨折、脊髄損傷、保存療法、人工関節置換、リハビリテーション、補助具</p>
科目の目的	急性期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解するとともに、その状況に応じたアセスメ

	ント方法及び看護支援方法を修得する。
到達目標	1. 周手術期看護、クリティカルケア看護、救急看護の特徴について説明することができる。 2. 急性期にある患者とその家族の身体的・精神的・社会的特徴を説明することができる。 3. 術前・術中・術後・回復期に必要な看護支援について説明することができる。 4. 術式に応じた特徴的な看護支援について説明することができる。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、成人看護学実習Ⅱ
成績評価方法・基準	筆記試験100% [中間試験(50%)、定期試験(50%)]
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習及び復習に必要な学習時間は30～60分である。授業計画を参照し、教科書の講義内容に関連する部分を読み、予習をしてから講義に参加すること。また、各講義終了後には、教科書や講義中に配布された資料を見ながら、確実に理解できたか確認すること。
教科書・参考書	教科書： 「周手術期看護論」 雄西智恵美、秋元典子編著(ヌーヴェルヒロカワ) 「系統看護学講座 成人看護学③循環器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑤消化器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑦脳神経」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑨女性生殖器」(医学書院) 「系統看護学講座 成人看護学⑩運動器」(医学書院)
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：講義開講日の12:10～13:00 小池菜穂子(研究室308)：講義開講日の12:10～13:00 藤巻郁朗(研究室307)：講義開講日の12:10～13:00 及川洋(非常勤講師)：担当講義終了後の10分間
国家試験出題基準	【看護師】 《成人看護学》 Ⅱ-3-A, B, C、Ⅱ-6-A、Ⅲ-9-B, C, D, E、Ⅲ-10-C, D、Ⅲ-10-E-a, b, c, d, e、Ⅲ-11-D-f、Ⅲ-16-D、Ⅲ-16-E-a, f、Ⅲ-17-B, C, D、Ⅲ-19-A-e, g、Ⅲ-19-C-b, f, g, h, i、Ⅲ-19-D, E
履修条件・履修上の注意	関連する専門基礎科目(解剖学、生理学、疾病の成り立ち)の理解が必須のため、必ず準備学習を行った上で講義に参加すること。尚、講義において必要な資料は当日配布する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
鈴木 珠水			

授業形態	講義、グループワーク、演習
授業計画	<p>第1～2回 慢性期の事例を用いた看護過程の展開—看護問題・看護目標の抽出（鈴木、金子） 慢性期にある患者さんの看護問題の抽出方法や、記載方法を学ぶ。PESやPRで記載するときのEtiologyや、Riskの書き方、SymptomのS-dataやO-dataの記載方法の実際について学ぶ。</p> <p>第3～4回 急性期の事例を用いた看護過程の展開—看護問題・看護目標の抽出（萩原、小池、藤巻） 急性期にある患者さんの看護問題の抽出方法や、記載方法を学ぶ。共同問題のとらえかたや、PESやPRで記載するときのEtiologyや、Riskの書き方、SymptomのS-dataやO-dataの記載方法の実際について学ぶ。</p> <p>第5～6回 事例を用いた看護展開（グループ演習）（鈴木、萩原） 2つの事例が提示されるので、1～8グループはAの事例を授業時間内で展開・発表し、Bの事例は成績評価対象となる課題提出とする。9～16Gは事例Bを授業時間内で展開・発表を行い、Aの事例は成績評価対象となる課題提出とする。</p> <p>第7～8回 看護技術演習1（鈴木、萩原、金子） 循環管理：患者監視装置、輸液ポンプ・シリンジポンプ ストーマケア</p> <p>第9～10回 看護技術演習2（鈴木、萩原） 呼吸管理：気管内吸引、低圧持続吸引、NPPV、HOT 創傷ドレーン管理</p> <p>第11～12回 看護後術演習3（萩原、小池、藤巻） 手術後帰宅時の全身管理</p> <p>第13～15回 看護後術演習 確認（鈴木、萩原、小池） 第7～12回で行った看護後術の習得状況の確認、各自の課題をフィードバックする。</p>
科目の目的	<ol style="list-style-type: none"> 2年次に学習した看護過程の知識に基づき、健康問題を有する成人の事例を用いて、自身の看護過程展開能力を向上させ、成人看護学実習で活用できる。 成人看護学領域に必要な看護技術を修習できる。
到達目標	<p>【看護過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人看護学の対象である患者の急性期や慢性期の事例を通して、与えられた情報についてアセスメントできる。 事例に関するアセスメントを用いて、看護問題の優先順位が考えられ、看護問題や患者目標の立案、看護支援計画を具体的に提案することができる。 <p>【看護後術演習】</p> <ol style="list-style-type: none"> 創部処置、ストーマケアの方法を理解し実践できる。 呼吸管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 循環管理に用いる器具の種類と使用法が理解できる。 手術直後の帰宅時の患者の観察とアセスメントができ、看護支援が理解できる。
関連科目	看護援助学Ⅰ・Ⅱ、看護援助学演習Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、成人看護学Ⅰ～Ⅴ
成績評価方法・基準	<ol style="list-style-type: none"> 看護技術実技試験40% 看護技術に関する筆記試験30% 看護過程の提出物30% <p>1.～3.それぞれが6割未満の場合、各々で再チェックや再提出となる。 最終的に1.～3.を合算した点数で6割未満の場合は教務課の発表により、再試験手続きを行い 1.～3.のうち、点数が足りなかった内容に関しての再試験・再提出を行う。</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>次の授業の課題を、前の授業の時に提示するので、それに従い事前学習をすすめること。</p> <p>看護過程の場合は、疾患や治療の学習及び検査データ項目や正常値の確認を行い、授業当日にスムーズに看護過程の展開ができるように準備すること。 看護後術演習の場合は、事前に配布した資料及び教科書を用いた予習を最低1時間は行い、目的や手順を覚えておくこと。</p>
教科書・参考書	<p>【教科書】 系統看護学講座 成人看護学【2】-【15】 医学書院 写真でわかる基礎看護技術 インターメディカ、写真でわかる臨床看護技術1, 2 インターメディカ 看護診断ハンドブック 第10版 医学書院</p> <p>【参考書】 ビジュアル 臨床看護技術ガイド 照林社、カルペニート 看護過程・看護診断入門—概念マップと看護計画の作成 医学書院 ゴードンの機能的健康パターンに基づく看護過程と看護診断 スーヴェルヒロカワ パーフェクト臨床実習ガイド 成人看護実習ガイドⅠ・Ⅱ 照林社</p>
オフィス・アワー	講義前後、昼休み
国家試験出題基準	成人看護学Ⅲ、Ⅳ、Ⅴの国家試験出題基準に準ずる

	在宅看護論目標Ⅱ—6. B. f. 在宅看護論目標Ⅱ—8. B. C. 必修問題目標Ⅳ—15. B. b. c. 必修問題目標Ⅳ—15. C. c. d. 必修問題目標Ⅳ—16. F. f., G. b., I. b.
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。 また、成人看護学演習に関する予習復習を、他の授業で行わないこと。 予習・復習をし、授業時間内は主体的に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
牛込 三和子			
鈴木 珠水			
萩原 英子			

授業形態	講義
授業計画	<p>第1回 がん患者のQOLと看護（萩原） がん患者の療養問題、病気の進行と療養者のQOL、意思決定支援と看護の課題を理解する。</p> <p>第2回 神経難病療養者のQOLと看護（牛込） 神経難病療養者の療養問題、病気の進行と療養者のQOL、意思決定支援と看護の課題を理解する。</p> <p>第3回 環境保健と環境看護（鈴木） 環境が人間にもたらす影響と、その環境に対して不耐状態の患者が増加している意味を考え、看護の課題を理解する。</p> <p>第4回 専門看護の実践1（外部講師：がん化学療法認定看護師、緩和ケア認定看護師） 特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。</p> <p>第5回 専門看護の実践2（外部講師：集中ケア認定看護師） 特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。</p> <p>第6回 専門看護の実践3（外部講師：感染管理認定看護師） 特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。</p> <p>第7回 専門看護の実践4（外部講師：糖尿病認定看護師） 特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。</p> <p>第8回 専門看護の実践5（外部講師：エイズ治療・研究開発センター 看護支援調整官） 特定の専門性を持って現場で働く看護師の実践活動を通して、成人看護の在り方について学びを深める。</p>
科目の目的	疾患をもつ成人期にある人々の看護課題について理解を深め、また、現場の実践活動から看護支援方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者のQOLの視点から看護の課題を理解する。 2. 専門性を持って働く看護師の活動を理解する。 3. 自分の看護観を明確にし、将来の自分のキャリアプランが構築できる。
関連科目	成人看護学総論、成人看護学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ、臨床看護管理学
成績評価方法・基準	レポート100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	講義内容に関連した内容の予習・復習を講義前後に各30分ずつ行うこと。
教科書・参考書	使用しない（必要に応じて資料を配布する）
オフィス・アワー	講義の前後、昼休み 外部講師の場合は、講義後の20分とする。
国家試験出題基準	成人看護学Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ、Ⅱに同じ 在宅看護論Ⅰ-2.C.a.
履修条件・履修上の注意	講義中の私語、スマートフォン・携帯電話の使用、講義と関係のない作業（他の科目の学習等）は禁止する。 外部講師の方に対しての礼節を忘れずに授業に臨むこと。 第一回目の講義の時に、授業計画を配布するので、それにしたがって授業に参加すること。 補講を行うかもしれないので、AAをよく確認すること。 レポートに関しては、心に残った講義テーマ一つを選び、それに関してまとめるので、授業ではそれを意識して臨むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 ライフサイクルの中の老年期 老いるということ、ライフサイクルにおける老年期</p> <p>2 高齢社会と高齢者の生活 統計からみる高齢社会、高齢者の暮らし</p> <p>3 加齢とからだ、こころ 加齢による身体的変化、心理・社会的変化</p> <p>4 老化疑似体験① 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解</p> <p>5 老化疑似体験② 実際の老化疑似体験を通しての高齢者の理解</p> <p>6 高齢者の健康を支援する制度・システム 高齢者と家族の保健・医療・福祉システム、高齢社会における権利擁護</p> <p>7 老年看護の役割 老年看護の発展過程、老年看護活動の場と看護の機能・役割</p> <p>8 高齢者のライフヒストリー 実際のライフヒストリーインタビューを通しての高齢者の理解</p>
科目の目的	ライフサイクルにおける老年期の特徴を理解し、老年期にある人々の健康問題の特徴、保健及び看護の機能・特性を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフサイクルにおける老年期の特性を理解する。 2. 老年期における健康問題の特性、保健活動の特徴を理解する。 3. 老年期にある人々の健康の段階に応じた看護の特性を理解する。 4. 老年期にある人々の健康を支援する制度、システムについて理解する。
関連科目	1年次に履修した専門基礎科目、基礎看護学科目
成績評価方法・基準	期末試験（60％）、レポート（20％）、平常点（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子、医学書院 参考書：「国民衛生の動向2015/2016」（厚生統計協会）
オフィス・アワー	講義実施曜日の9-17時
国家試験出題基準	老年看護学 Ⅰ - 1-A, B, C, D 2-A, B 3-A, B Ⅱ - 4-A, B, C 9-A, B 10-A, B
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 高齢者の生理的特徴 老化と寿命、身体機能の加齢変化（認知・知覚、呼吸・循環、代謝・排泄、免疫、運動、性機能）</p> <p>2 高齢者の症候① 不眠、難聴、視力障害</p> <p>3 高齢者の症候② 廃用症候群、便秘・下痢、脱水症</p> <p>4 高齢者の疾患① 認知症</p> <p>5 高齢者の疾患② 精神・神経疾患（せん妄、うつ病）</p> <p>6 高齢者の疾患③ 精神・神経疾患（脳血管障害、パーキンソン病）</p> <p>7 高齢者の疾患④ 循環器疾患（虚血性心疾患、心不全）</p> <p>8 高齢者の疾患⑤ 呼吸器疾患（肺炎、閉塞性肺疾患、結核）</p> <p>9 高齢者の疾患⑥ 腎・泌尿器疾患（腎不全、前立腺肥大症）</p> <p>10 高齢者の疾患⑦ 運動器疾患（大腿骨頸部骨折、変形性膝関節症、骨粗鬆）</p> <p>11 高齢者の疾患⑧ 皮膚・感覚器疾患（皮膚掻痒症、疥癬、白内障）</p> <p>12 高齢者の疾患⑨ 感染症（インフルエンザ、食中毒）</p> <p>13 高齢者と治療① 高齢者と薬物療法</p> <p>14 高齢者と治療② 高齢者と手術療法</p> <p>15 高齢者と治療③ 高齢者とリハビリテーション</p>
科目の目的	加齢による機能の変化と高齢者の疾患の特徴を理解し、高齢者の主な疾患、治療を受ける高齢者の看護、治療の場における具体的援助方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の生理的特徴、加齢による身体・精神機能の変化を理解する。 2. 老年期の主要な症候、起こりやすい健康問題を理解する。 3. 高齢者に特徴的な疾患とその看護を理解する。 4. 高齢者における、手術、薬物療法、リハビリテーションの特徴と看護を理解する。
関連科目	老年看護学総論、解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学、リハビリテーション概論
成績評価方法・基準	期末試験（60%）、レポート（25%）、平常点（15%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。
教科書・参考書	教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院） 教科書2：「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」、佐々木英忠（医学書院）
オフィス・アワー	講義実施曜日の9-17時
国家試験出題基準	老年看護学 II-6-A~Q 7-A, B, C
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 健康の維持・増進活動① 食生活、排泄、清潔</p> <p>2 健康の維持・増進活動② 歩行・移動、活動と休息</p> <p>3 健康の維持・増進活動③ 生きがいと社会活動、メンタルヘルス、セクシャリティ</p> <p>4 老年期の看護問題① 転倒</p> <p>5 老年期の看護問題② 摂食・嚥下障害</p> <p>6 老年期の看護問題③ 排尿・排便障害</p> <p>7 老年期の看護問題④ 褥瘡</p> <p>8 老年期の看護問題⑤ 認知症高齢者のケア、成年後見制度</p> <p>9 老年期の看護問題⑥ 事故予防と救急時の対応</p> <p>10 老年期の看護問題⑦ 高齢者の医療安全と災害看護</p> <p>11 エンド・オブ・ライフケア① 終末期にある高齢者と家族のケア</p> <p>12 エンド・オブ・ライフケア② 死後の処置</p> <p>13 高齢者のアセスメント技術① 高齢者とのコミュニケーション技術、健康歴の聴取</p> <p>14 高齢者のアセスメント技術② 身体機能の評価</p> <p>15 高齢者のアセスメント技術③ 高齢者のフィジカルアセスメント</p>
科目の目的	高齢者の健康の維持・増進における問題、老年期に特徴的な看護問題を取り上げ、アセスメント、具体的援助方法を学習する。また、老年期に発生しやすい事故、救急問題の理解と対応、終末期にある高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアの考え方と看取りへの援助について学習する。さらに、高齢者のアセスメント方法を学習する
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者の健康の維持・増進のための支援・教育の内容と方法を理解する。 2. 老年期に特徴的な看護問題のアセスメントと援助方法、事故、救急問題への対応方法を理解する。 3. 高齢者と家族のエンド・オブ・ライフケアにおける看護師の役割と看取りの看護について理解する。 4. 高齢者の特徴に応じたアセスメント方法の理解と、具体的な展開技術を理解する。 5. 高齢者を介護する家族への看護について理解する。
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、基礎看護学領域各科目、成人看護学
成績評価方法・基準	期末試験（55％）、レポート（30％）、平常点（15％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	2回目以降、授業の最初に前回の授業内容の確認テスト（5点満点）を行うので、「本日のゴール」にそって復習しておくこと。
教科書・参考書	教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院） 教科書2：「系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論」、佐々木英忠（医学書院）
オフィス・アワー	講義実施曜日の9-17時
国家試験出題基準	老年看護学 Ⅱ-5-A～I 8-A, B
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	演習、講義
授業計画	<p>1 老年期に特徴的な疾患と看護 認知症・脳梗塞・大腿骨頸部骨折の基本的知識と看護の確認</p> <p>2 看護過程の展開① 事例の概要、グループワーク①（事例内容の確認）</p> <p>3 看護過程の展開② グループワーク②（情報整理）</p> <p>4 看護過程の展開③ グループワーク③（アセスメント、関連図作成）</p> <p>5 看護過程の展開④ グループワーク④（計画立案）</p> <p>6 看護過程の展開⑤ グループワーク⑤（まとめ、発表準備）</p> <p>7 看護過程の展開⑥ 発表、討議</p> <p>8 高齢者への援助技術① 食事</p> <p>9 高齢者への援助技術② 経管栄養（胃ろう）</p> <p>10 高齢者への援助技術③ 口腔ケア</p> <p>11 高齢者への援助技術④ 移乗・活動</p> <p>12 高齢者への援助技術⑤ 体位・褥瘡予防</p> <p>13 高齢者への援助技術⑥ 排泄ケア</p> <p>14 高齢者への援助技術⑦ 技術の復習</p> <p>15 高齢者への援助技術⑧ 技術テスト</p>
科目の目的	健康な高齢者を対象としたアセスメントの経験をもとに、老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の看護過程の展開方法を学習する。また、演習を通して高齢者への援助技術を学習する。
到達目標	<p>1. 老年期に特徴的な疾患をもつ高齢者の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、計画立案ができる。</p> <p>2. 事例で設定された個別性、条件をふまえ、援助計画に基づいた看護技術を実施できる。</p>
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、基礎看護学領域各科目
成績評価方法・基準	期末試験（50%）、グループワーク（15%）レポート・平常点（35%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	老年看護学Ⅰ・Ⅱの既習内容を復習して授業に臨むこと。
教科書・参考書	<p>教科書1：「系統看護学講座 老年看護学」、北川公子（医学書院）</p> <p>教科書2：「写真でわかる高齢者ケア」、東京都健康長寿医療センター看護部（インターメディカ）</p> <p>参考書1：「生活機能からみた老年看護過程」、山田律子（医学書院）</p> <p>参考書2：「根拠と事故防止からみた老年看護技術」亀井智子（医学書院）</p>
オフィス・アワー	講義実施日の9-17時
国家試験出題基準	老年看護学 Ⅱ-5-B, C, D, E 6-L, O
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 コースガイダンス 高齢者と健康、老年看護学に求められる今日的課題</p> <p>2 高齢者の健康段階と看護のかかわり 高齢者の健康段階と看護学的課題の提示</p> <p>3 課題の提示と討議① 健康寿命とヘルスプロモーション</p> <p>4 課題の提示と討議② 入院・手術を受ける高齢者とせん妄の問題</p> <p>5 課題の提示と討議③ 高齢者の医療・ケアにおける身体拘束の問題</p> <p>6 課題の提示と討議④ 高齢者虐待の問題</p> <p>7 課題の提示と討議⑤ 高齢者の摂食障害と胃瘻の問題</p> <p>8 まとめ 高齢者ケアにおける看護職の役割と責務</p>
科目の目的	さまざまな健康段階にある高齢者に応じた看護学的課題の現状と問題解決のための方向性を幅広い視点から学習する。また課題についての文献学習・事例検討・討議をとおして、看護職が果たす役割と今後の課題を考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康寿命の概念と高齢者におけるヘルスプロモーションのあり方について理解する。 2. 治療を受ける高齢者の早期回復のための支援のあり方について学習する。 3. 認知症高齢者と家族の支援のあり方について学習する。 4. 高齢者ケアにおける倫理的課題について考えることができる。
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習、老年看護学実習
成績評価方法・基準	演習における発表・討議内容(70%)、レポート(30%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	担当部分のプレゼンテーション、配付資料準備
教科書・参考書	教科書：使用しない 参考書：随時紹介する
オフィス・アワー	講義実施日の9-17時
国家試験出題基準	老年看護学 Ⅱ-4-A, B, C 6-C, L, N
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
二宮 恵美			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 小児看護の特徴 小児看護の対象、小児看護の目標・役割、小児看護の変遷</p> <p>2 子どもの成長発達、新生児期の成長発達と看護 成長発達の原則、成長発達に影響する要因 新生児期の特徴、新生児期の形態的成長発達・機能的発達</p> <p>3 乳児期の成長発達と看護 乳児期の特徴と発達課題、乳児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達 乳児期のセルフケアの発達、乳児期の健康問題</p> <p>4 幼児期の成長発達と看護① 幼児期の特徴と発達課題、幼児期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達</p> <p>5 幼児期の成長発達と看護② 幼児期のセルフケアの発達、幼児期の健康問題</p> <p>6 学童期の成長発達と看護 学童期の特徴と発達課題、学童期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達 学童期のセルフケアの発達、学童期の健康問題</p> <p>7 思春期の成長発達と看護、子どもと家族の生活 思春期の特徴と発達課題、思春期の形態的成長発達・機能的発達・心理社会的発達 思春期のセルフケアの発達、思春期の健康問題 子どもを養育する家族の現状、課題と支援</p> <p>8 子どもを育む環境 母子保健の現状、母子保健施策の動向、現代の子どもを取り巻く環境</p>
科目の目的	成長発達過程にある子どもと家族の特徴を理解し、次世代を担う子どもと家族の健康問題解決のための方略について考察することを目的とする。
到達目標	<p>1. 子どもの成長発達が理解できる。</p> <p>2. 子どもと家族の生活が理解できる。</p> <p>3. 子どもを育む環境が理解できる。</p> <p>4. 子どもと家族の健康生活のための方略について理解することができる。</p>
関連科目	小児看護学（小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論）
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医学書院）2016.
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修》－Ⅱ－7－B－a, b, c, d, e, f 《必修》－Ⅱ－7－C－a, b, c, d, e, f 《必修》－Ⅱ－7－D－a, b, c 《必修》－Ⅱ－7－E－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－1－A－a, b, c 《小児看護学》－Ⅰ－1－B－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－1－C－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－2－A－a, b, c 《小児看護学》－Ⅰ－2－B－a, b 《小児看護学》－Ⅰ－2－C－a, b, c, d, e, f 《小児看護学》－Ⅰ－2－D－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅰ－3－A－a, b, c 《小児看護学》－Ⅰ－3－B－a, b 《小児看護学》－Ⅰ－4－A－a, b, c, d, e, f 《小児看護学》－Ⅰ－4－B－a, b 《小児看護学》－Ⅰ－5－A－a, b, c, d, e, f 《小児看護学》－Ⅰ－5－B－a, b, c 《小児看護学》－Ⅰ－6－A－a, b, c, d, e, f, g</p>

	《小児看護学》 - I - 6 - B - a, b, c 《小児看護学》 - I - 7 - A - a, b, c, d, e, f 《小児看護学》 - I - 7 - B - a, b, c, d
履修条件・履修上の注意	—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
二宮 恵美			
井埜 利博	秋元 かつみ	小林 敏宏	

授業形態	講義
授業計画	<p>1 染色体異常の特徴と治療、低出生体重児の特徴と治療 (秋元) 染色体異常、低出生体重児の疾患、倫理的課題</p> <p>2 代謝疾患の特徴と治療、内分泌疾患の特徴と治療 (秋元) 新生児マススクリーニングテスト、先天性代謝異常症、内分泌疾患</p> <p>3 免疫・アレルギー疾患の特徴と治療、膠原病の特徴と治療 (秋元) アレルギーの発生機序、アレルギー性疾患、膠原病</p> <p>4 感染症の特徴と治療 (秋元) 感染症の特徴、病気別特徴(潜伏期・急性期・回復期など)、ウイルス感染症、細菌性感染症</p> <p>5 呼吸器系疾患の特徴と治療 (秋元) 上気道の炎症、気管支・肺・胸膜疾患</p> <p>6 腎・泌尿器系疾患の特徴と治療 (秋元) 腎疾患、生殖器疾患</p> <p>7 循環器系疾患の特徴と治療 (小林) 先天性心疾患、後天性心疾患</p> <p>8 消化器系疾患の特徴と治療 (小林) 口腔疾患、横隔膜・食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、小腸・大腸の疾患、腹膜・腹壁・肝臓・胆道の疾患</p> <p>9 血液疾患の特徴と治療 (井埜) 血液疾患</p> <p>10 小児がんの特徴と治療 (井埜) 発生頻度と予後、検査と治療</p> <p>11 神経疾患の特徴と治療、運動器系疾患の特徴と治療 (井埜) 神経系の疾患、運動器疾患</p> <p>12 眼疾患の特徴と治療、耳鼻咽喉疾患の特徴と治療 (井埜) 眼疾患、耳鼻咽喉疾患</p> <p>13 精神疾患の特徴と治療 (井埜) 発達障害、不登校、摂食障害</p> <p>14 子どもの事故・外傷、虐待 (井埜) 子どもの事故・外傷、救急処置、虐待の特徴・早期発見</p> <p>15 循環器・消化器系疾患のまとめ (二宮) 循環器疾患、消化器疾患</p>
科目の目的	小児期に多く見られる健康障害の特徴と治療法を理解し、成長発達過程に健康障害を受けることによる生涯にわたる影響について学ぶことを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもに起こりやすい健康障害の病理学的メカニズムが理解できる。 2. 子どもに起こりやすい健康障害の症状と治療が理解できる。 3. キャリーオーバーや成人医療について理解できる。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論)
成績評価方法・基準	試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学)を復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著(医学書院)2016.
オフィス・アワー	二宮：講義前後 井埜：講義前後 秋元：講義前後 小林：講義前後
国家試験出題基準	【看護師】 《必修》-Ⅲ-11-B-f

	《小児看護学》 - II-9-A-a 《小児看護学》 - II-9-B-a 《小児看護学》 - II-9-D-a 《小児看護学》 - II-11-A-a, b 《小児看護学》 - II-11-B-a, b, c, d 《小児看護学》 - II-11-C-a, b, c, d, e
履修条件・履修上の注意	-

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
二宮 恵美			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 小児看護の理念① 子どもの人権、子どもの最善の利益、小児看護における倫理、アドボカシー、インフォームドコンセント・インフォームドアセント</p> <p>2 小児看護の理念② 子どもの病気の理解、プレパレーションとは、プレパレーションの実際</p> <p>3 プレパレーション演習① 課題に合わせたプレパレーションツールを作成して、発表準備を行う</p> <p>4 プレパレーション演習②</p> <p>5 プレパレーション演習③</p> <p>6 プレパレーション演習発表① 作成したプレパレーションツールを利用して、プレパレーションを行う</p> <p>7 プレパレーション演習発表②</p> <p>8 健康障害や入院が子どもや家族に及ぼす影響 子どもの病気・治療に伴うストレス、子どものストレスに対する支援、子どもの病気・障害に対する家族の支援</p> <p>9 外来における子どもと家族の看護 小児外来の種類、外来における看護、外来の環境</p> <p>10 急性期にある子どもと家族の看護① 急性期にある子どもと家族の看護、発熱時のアセスメントと看護</p> <p>11 急性期にある子どもと家族の看護② 脱水時のアセスメントと看護、けいれん時のアセスメントと看護、呼吸困難時のアセスメントと看護</p> <p>12 救急処置が必要な子どもと家族の看護 小児救急の現状、トリアージ、子どもの事故・外傷の特徴、救急を必要とするおもな状況と処置</p> <p>13 慢性期にある子どもと家族の看護 慢性疾患の特徴、病気による子どもと家族の生活の変化、慢性期にある子どもと家族の看護</p> <p>14 周手術期にある子どもと家族の看護 子どもの手術の特徴、手術を受ける子どもの特徴、手術を受ける子どもと家族の反応、手術前後の看護</p> <p>15 終末期にある子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の看護、新生児集中治療と看護 終末期の特徴、終末期にある子どもと家族の看護、災害時の子どもと家族の看護、低出生体重児と家族の看護</p>
科目の目的	成長発達過程にある子どもが、健康障害やそれに付随した環境の変化によって及ぼされる影響を理解し、子どもに起りやすい健康障害に対する有効な介入方法について学ぶことを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの権利と小児看護の理念について理解できる。 2. 健康障害が子どもと家族に与える影響について理解できる。 3. 健康障害を抱えた子どもと家族の状況、生活の変化に即した看護介入について理解できる。
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、公衆衛生看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論）
成績評価方法・基準	試験（70%）、演習の課題・発表内容（30%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	教科書 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医学書院）2016。 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著（医学書院）2016。
オフィス・アワー	講義前後

国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《小児看護学》－Ⅱ－8－A－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－8－B－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－8－C－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－9－A－b, c, d, e, f, g 《小児看護学》－Ⅱ－9－B－b, c, d, e, f, g, j 《小児看護学》－Ⅱ－9－C－a, b, c, d, e, f, h, i 《小児看護学》－Ⅱ－9－D－b, c, d, e, f, g, h 《小児看護学》－Ⅱ－9－E－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－10－A－a, b, c, d, e 《小児看護学》－Ⅱ－10－B－a 《小児看護学》－Ⅱ－10－E－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－10－F－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－10－G－a, b 《小児看護学》－Ⅱ－11－A－c</p>
履修条件・履修上の注意	－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
二宮 恵美			
柴崎 由佳			

授業形態	講義（8コマ）、演習（7コマ）		
授業計画	1	小児看護技術①（柴崎） コミュニケーション、環境調整	
	2	小児看護技術②（柴崎） 事故防止、感染防止	
	3	小児看護技術③（柴崎） 抱っこ、食事援助、口腔ケア	
	4	小児看護技術④（柴崎） 排泄援助、清潔援助、衣生活援助	
	5	小児看護技術⑤（柴崎） バイタルサイン測定と評価、身体計測と評価、精神発達の評価	
	6	小児看護技術⑥（柴崎） 検体採取	
	7	小児看護技術⑦（柴崎） 骨髄穿刺、腰椎穿刺、与薬	
	8	小児看護技術⑧（柴崎） 輸液管理、酸素療法、吸引、吸入、罨法	
	9	小児看護過程演習①（柴崎） 「急性疾患」「慢性疾患」「先天性疾患」「悪性疾患」などのPaper Patientを用いて看護過程を展開する	
	10	小児看護過程演習②（二宮） 「急性疾患」「慢性疾患」「先天性疾患」「悪性疾患」などのPaper Patientを用いて看護過程を展開する	
	11	小児看護過程演習③（二宮） 「急性疾患」「慢性疾患」「先天性疾患」「悪性疾患」などのPaper Patientを用いて看護過程を展開する	
	12	小児看護技術演習①（二宮） 「ベッド柵の取り扱い」「抱っこ」「バイタルサインの測定」「身体計測」「授乳」「おむつ交換」「着脱」「清拭」の技術演習を行う	
	13	小児看護技術演習②（二宮） 「ベッド柵の取り扱い」「抱っこ」「バイタルサインの測定」「身体計測」「授乳」「おむつ交換」「着脱」「清拭」の技術演習を行う	
	14	小児看護過程演習④（二宮） グループに分かれてPaper Patientを用いて看護過程の展開をまとめ、発表する	
	15	小児看護過程演習⑤（二宮） グループに分かれてPaper Patientを用いて看護過程の展開をまとめ、発表する	
科目の目的	さまざまな病気や障害などの健康問題を抱えた子どもの看護過程の展開方法と看護援助技術について学ぶことを目的とする。		
到達目標	1. 小児期に特徴的な健康障害を持つ子どもと家族の事例を用いて、情報の整理、アセスメント、看護診断、ケアプランの作成ができる。 2. 成長発達過程にある子どもと家族に応じた看護技術が実施できる。		
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学特論、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）		
成績評価方法・基準	試験（70%）、課題提出（30%）		
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前に、教科書・配布資料を精読して下さい。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。		
教科書・参考書	教科書 1. 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」中野綾美編（メディカ出版）. 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著（医学書院）. 3. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著（医学書院）.		

オフィス・アワー	二宮：講義前後 柴崎：講義前後
国家試験出題基準	【看護師】 《小児看護学》－Ⅱ－9－B－h, i 《小児看護学》－Ⅱ－9－C－g 《小児看護学》－Ⅱ－10－B－b, c, d, e, f, g, h, i, j, k 《小児看護学》－Ⅱ－10－C－a, b, c, d 《小児看護学》－Ⅱ－10－D－a, b, c, d
履修条件・履修上の注意	－

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
二宮 恵美			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 小児看護の現状 VTRなどを用いて小児看護の現状と課題を検討する</p> <p>2 小児看護の問題についての討議① 1) 周産期の問題－延命治療について 2) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 3) 乳児期・幼児期の問題②－ワクチンについて 4) 学童期の問題－食育について 5) 思春期の問題－ストレスについて 6) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>3 小児看護の問題についての討議②</p> <p>4 小児看護の問題についての討議③</p> <p>5 小児看護の問題についての討議④</p> <p>6 課題発表① 1) 周産期の問題－延命治療について 2) 乳児期・幼児期の問題①－小児救急医療体制について 3) 乳児期・幼児期の問題②－ワクチンについて 4) 学童期の問題－食育について 5) 思春期の問題－ストレスについて 6) 障害児の問題－発達障害について</p> <p>7 課題発表②</p> <p>8 小児看護の役割 課題発表の内容などから小児看護の役割を検討する</p>
科目の目的	近年の小児保健や小児看護に関連するトピックスを取り上げ、その背景にある社会情勢や医療・保健・福祉の動向を理解し、今後の小児看護について展望することを目的とする。
到達目標	1. 近年の子どもの健康問題について子どもの権利擁護について考察することができる。 2. 子どもの未来のために看護師として果たしうる可能性について考察することができる。
関連科目	小児看護学（小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学実習）、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群（心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境学など）、専門基礎臨床科目群（解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか）、専門基礎地域科目群（公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか）
成績評価方法・基準	演習における発表・討議（50%）、レポート（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。 小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲを復習する。 1コマにつき、120分程度の準備時間を求めます。
教科書・参考書	必要時提示する
オフィス・アワー	講義前後
国家試験出題基準	—
履修条件・履修上の注意	—

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
中島 久美子			
早川 有子	上村 るり子		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 母性看護の概念 性と性行動 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性(女性)とは、リプロダクティブヘルツ/ライツ、ヘルスプロモーション、セクシュアリティの概念 ・母性看護学総論オリエンテーション(学習の範囲、学習の視点、基本的知識) <p>2 母性看護の機能と役割 母子保健の現状と動向 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 母性の健康と社会 母子保健統計からみた母性の健康 <p>3 母性看護の変遷と諸施策 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母性看護の歴史と役割、母性看護の変遷、女性をめぐる諸施策・母子保健施策(法律) <p>4 性と生殖器の構造・機能・発生、生殖周期とホルモン (上村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生殖器、男性生殖器、 ・生殖器の発生とその異常、生殖器系の異常(遺伝子・精子・卵子)女性生殖器の機能 ・月経周期、調節機序、卵巣・子宮内膜の周期的変化 ・生殖周期に関わるホルモン 受胎のメカニズム 人の発生と遺伝的要因、性周期とホルモン <p>5 女性のライフサイクル各期(思春期・成熟期・更年期・老年期)における主な疾患、生殖器の感染症 (上村)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期の疾患(月経異常 性器奇形 子宮頸がんの予防等) ・成熟期疾患(子宮内膜症 生殖器の疾患 感染症等) ・更年期疾患(月経異常 更年期障害 更年期うつ病等) ・老年期疾患(萎縮性膀胱 排尿障害 骨盤臓器脱等) ・性感染症STI(性器ヘルペス 尖圭コンジローマ AIDS クラミジア感染他)その他の感染症 <p>6 性と生殖に関する健康問題と援助1:【思春期女性への支援】 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・思春期のセクシュアリティ発達支援(二次性徴の早発・遅発ケースへの対応と支援、性障害と性同一性障害) ・子宮頸がん予防、DV予防と支援、性感染症(STD)予防(予防に関する啓発) 人工妊娠中絶の予防と支援 <p>7 性と生殖に関する健康問題と援助2:【成熟期・更年期・老年期女性への支援】 (早川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不定愁訴・閉経への指導、乳がん・子宮頸がん検診、DV予防と支援 <p>8 母性看護の課題と展望 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性のライフサイクルの変化 高齢化・少子化 ・多様化する女性のライフスタイル 高学歴化及び晩婚化・労働力率 ・在日外国人の母子保健など ・現代社会における母性の健康と課題(子ども虐待の背景、親子関係、子育て支援)
科目の目的	国内外の母性看護の歴史の変遷と母性看護の現状について学ぶ。 ライフサイクルを通して母性看護の諸施策と役割を学ぶ。性と生殖に関する理解をする。
到達目標	母性看護の対象となる人々の置かれた状況を理解する。 母性看護の基盤となる知識を理解する。 女性の性の周期性の変化について口頭で説明ができる。
関連科目	教養科目群：生命倫理 家族学 専門基礎科目群：解剖学Ⅰ 解剖学Ⅱ 生理学 栄養学 免疫・感染症学 疾病の成り立ち
成績評価方法・基準	定期試験(100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性関連の解剖生理について復習して講義に臨むこと。 ライフサイクル各期の健康問題を身近な人を例に考え、自分の意見として述べられること。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：「母性看護学Ⅰ、母性看護学概論」森恵美他(医学書院) 参考書：授業にて提示
オフィス・アワー	開講日の昼休み
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《必修》Ⅰ-2-B-d, Ⅱ-9-A-c, 《人体の構造と機能》Ⅰ・Ⅱ-16-A-a, b, c, d, e, f, Ⅰ・Ⅱ-16-B-a, b, c, Ⅰ・Ⅱ-16-C-a, b, Ⅰ・Ⅱ-16-D-a, b, 《健康支援と社会保障制度》Ⅳ-12-C-g, 《母性看護学》Ⅰ-1-A-a, b, c, Ⅰ-1-B-a, b, c, d, e, f, g, h, Ⅰ-1-C-a, b, c, d, Ⅰ-2-A-a, b, c, Ⅰ-2-B-a, b, c, Ⅱ-3-A-a, b, c, d, Ⅱ-3-B-a, b, c, d, Ⅱ-3-C-a, b, Ⅱ-3-D-a, b,</p> <p>【助産師】</p> <p>《基礎助産学Ⅰ》Ⅰ-2-A-a, Ⅱ-6-A-a, b, c, Ⅱ-6-B-a, b, c, Ⅱ-8-A-a, b, c, d, e, f, g, Ⅱ-8-B-a, b, c, Ⅱ-8-C-a, b, c, Ⅱ-8-D-a, b, c, d, Ⅱ-8-E-a, b, c, d, e, f, Ⅱ-11-A-a, b, c, d, Ⅱ-11-B-a, b, c, d, Ⅱ-11-C-a, b, c, d, e, f, Ⅱ-11-D-a, b, c, d, e, f, Ⅱ-11-E-a, b, c, d, e, f, Ⅱ-12-A-a, b, c, d, e, f, g, Ⅱ-12-B-a, b, c, d, e, f, g, 《助産診断技術学Ⅰ》4-A-a, b, c, d, e, f, 4-B-h, i, 4-c-a, b, c, d, e, f, 4-D-a, b, 《地域母子保健》2-A-a, b, c, d, e, f, g, h, 3-D-a, b, c,</p>

履修条件・履修上の注意	助産師課程資格取得のための要件科目
-------------	-------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
早川 有子			
山本 伊佐夫			

授業形態	講義 演習
授業計画	<p>1 母子保健の現況 (早川) 母子保健の諸統計と現況</p> <p>2-4 母子保健と環境 (演習) (早川) 母子保健に影響を与える因子 ・精神的要因：家族、サポートシステムなど ・社会的要因：職場環境 友人関係 親族関係、核家族など ・環境的要因：自然環境 人為的環境 インターネットなど ・身体的要因：栄養 喫煙 飲酒など ・生活環境要因：夫婦関係 家族関係 社会支援 子育て支援施策など</p> <p>5 母子と感染症 (早川) 妊娠・分娩・産褥期に認められる感染症と母子のリスク(性感染症含む)</p> <p>6-10 母子と健康問題 (早川) 妊・産・褥婦によくみられる健康問題 (便秘 痔 貧血 体重管理 乳房)</p> <p>11 母乳育児支援 (山本) 舌癒着症のある児の母乳育児支援</p> <p>12-14 母子と健康問題 (早川) 課題学習</p> <p>15 性と生殖 (早川) 性をめぐる最近の話題 ・性暴力 DV ・性同一性障害について (ゲスト)</p>
科目の目的	母子の健康支援について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の現況について理解する。 ・母子の健康に影響を与える因子について理解する。 ・母子の健康問題とその看護について理解する。 ・性と生殖に関わる問題と看護師の役割について理解する。
関連科目	<p>教養科目群：生命倫理 家族学 環境学 ジェンダー論</p> <p>専門基礎科目群：母性看護学総論 免疫感染症学 発達心理学 地域保健行政 栄養学 健康管理論</p> <p>専門科目群：小児看護学 公衆衛生看護学</p>
成績評価方法・基準	定期試験 (100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護学総論の復習して講義に臨むこと 授業計画にあげた内容について、課題を持って授業に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：1時間</p>
教科書・参考書	<p>教科書：妊・産・褥婦のよくあるトラブル 早川有子他 (医学書院)</p> <p>参考書：特になし</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後
国家試験出題基準	<p>《母性看護学》-I-B</p> <p>《母性看護学》-II-3-A II-3-B.</p> <p>《母性看護学》-III-4-C III-5-A</p>
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前配布する、各自印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	中島 久美子	池田 申之	横田 佳昌

授業形態	講義 (19コマ) 演習 (11コマ)
授業計画	<p>1-2 妊娠の始まりと胎児の成長、妊娠経過とその看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠の成立、胎児の発育と発達について ・妊娠の経過 (妊婦のからだと心の変化) と胎児の発育 ・妊娠期の看護 <p>3-4 妊婦の心理社会的側面と看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の心理社会的側面のアセスメント ・妊婦の看護 (日常生活における健康管理・保健指導)、パースプラン作成とそれに対する支援 ・出産・育児の準備 <p>5-6 妊娠期の健康問題とその看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク妊娠とその看護 <ul style="list-style-type: none"> ・流産・早産・妊娠高血圧症候群・前置胎盤・常位胎盤早期剥離 ・多胎妊娠・感染症・妊娠糖尿病 など <p>7-8 分娩の生理と経過、産婦の看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正常分娩の生理と経過 (胎児の健康状態含む) ・産婦の看護 (分娩経過に伴う看護、産痛緩和、産婦とその家族) ・正常分娩の生理と経過 (胎児の健康状態含む) ・産婦の看護 (分娩経過に伴う看護、産痛緩和、産婦とその家族) <p>9-10 異常分娩、産婦の心理社会的側面と看護 (池田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帝王切開術・産科出血・吸引・鉗子分娩・無痛分娩・胎児機能不全 ・分娩監視装置 (装着と判定) ・産婦の心理社会的側面のアセスメント <p>11-12 妊婦・産婦の技術 (実技演習①) (臼井、早川、中島)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① レオポルド触診、腹囲・子宮底測定 ② 分娩監視装置 (NST) の取り扱いと判定 ③ 産婦の看護：産痛緩和法、補助動作など <p>13-14 産褥経過、産婦の心理社会的側面と看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既出事項のまとめ (中間試験1回目) ・産褥の経過 (からだと心の変化) ・産婦の心理社会的側面のアセスメント、出産体験の振り返り ・産褥期にある女性とその家族への日常生活の支援 ・家族計画 <p>15 新生児経過と新生児の看護 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児の経過と特徴、看護 <p>16 新生児のフィジカルアセスメント (早川)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児のフィジカルアセスメント <p>17 新生児期の健康問題 (池田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新生児仮死、低出生体重児、呼吸障害、低血糖、黄疸、先天性異常など ・健康障害のある新生児の看護 <p>18-19 母乳育児支援 (臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳汁分泌のメカニズム、母乳育児支援 ・親子の絆とアタッチメント <p>20-22 産婦・新生児の特徴 (技術演習②) (臼井、早川、中島)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 新生児のフィジカルアセスメント ② 沐浴 ③ 子宮復古状態 (子宮収縮、外陰部観察)、乳房の観察、授乳介助 <p>23-24 人間の性と生殖とその看護 (横田、臼井)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不妊治療の実際 ・不妊治療と看護 (生殖をめぐる倫理含む) ・出生前診断 <p>25-26 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習①) (臼井、早川、中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既出事項のまとめ (中間試験2回目) ・母性看護におけるウェルネス看護診断の考え方 ・事例による看護過程の展開① 情報収集 (妊娠前～妊娠中、分娩の状況の把握含む)、根拠・アセスメント・健康課題の抽出 <p>27-28 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習②) (臼井、早川、中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による看護過程の展開② アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案 <p>29-30 ウェルネス看護診断による看護過程の展開 (演習③) (臼井、早川、中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事例による看護過程の展開② アセスメント・健康課題の抽出・看護目標の立案と看護計画 ・発表会

科目の目的	妊娠・分娩・産褥期、及び新生児に起こる身体的・心理的・社会的変化を理解し、母性看護の特徴と看護の役割について考える。母性看護の対象への看護を展開するための基礎的知識・技術を学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常な経過をたどる妊婦・産婦・褥婦及び新生児の経過とその看護について理解できる。 ・ハイリスク状況にある妊婦・産婦・褥婦・新生児の経過とその看護が理解できる。 ・人間の性と生殖、およびその看護について理解できる。 ・母子とその家族への支援について理解できる。 ・母性看護に必要な基礎的技術を習得する。
関連科目	基礎科目群：生命倫理 家族学 環境学 生物学基礎 専門基礎科目群：生理学 生化学 発達心理学 免疫・感染症学 社会福祉・地域サービス論 専門科目群：この科目の基盤となる専門科目の全て（主に小児看護学・公衆衛生看護学など）
成績評価方法・基準	中間試験（30％） 定期試験（70％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護に関する既習の講義内容の復習が重要となる。 ・特に周産期医療とその看護について、課題を持って講義に臨んでほしい。 【準備学習に必要な学習時間の目安】 各講義につき1時間の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」森恵美（医学書院） 参考書：「母性の心理社会的側面と看護ケア」新道幸恵（医学書院） 「病気がみえる⑩産科 第3版」（メディックメディア） その他、講義内で紹介する
オフィス・アワー	専任教員：講義開講日の昼休み、講義前後、放課後 非常勤講師：講義前後の休憩時間（場所：非常勤講師控室）
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修≫－Ⅱ-7-A-b －Ⅲ-10-B ≪母性看護学≫－Ⅱ-3-B-a, b ≪母性看護学≫－Ⅲ-4-A, B, C, D ≪母性看護学≫－Ⅲ-5-A, B, C, D
履修条件・履修上の注意	Active Academyにより、資料を事前配布する。各自印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			

授業形態	講義
授業計画	1-8回 母性看護に関して今までの知識のレビューと最近の課題（早川） 母性看護に関する主要なテーマ ・虐待に関する最近の話題 ・母乳育児支援に関する最近の話題（職場環境含む） ・母子感染症に関する最近の話題 ・妊娠・分娩・産褥に関する最近の話題 ・育児に関する最近の話題 ・不妊症に関する最近の話題 高度生殖医療に関する活用と問題 ・高齢と若年妊娠分娩 妊娠合併症 多胎妊娠など ・環境と母子の健康問題に関する最近の話題 *上記にあげた課題をグループ毎に分けて、最新データから学習し、各自その課題にそってまとめ全体の前で発表する。その後討議、まとめを行う。
科目の目的	4年前期で履修した母性看護の基礎的事項をレビューし、最近の母性看護の動向から今後の課題が考えられる。
到達目標	・母性看護に関する最近の話題を知る。 ・母性看護に関する最近の話題から今後の課題が考えられる。
関連科目	専門科目群：母性看護学総論 母性看護学Ⅰ 母性看護学Ⅱ 小児看護学 公衆衛生看護学
成績評価方法・基準	課題発表（20%）課題提出（80%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護に関する既習の講義内容を復習し講義に臨むこと。 母性に関する最近の話題についての課題を持って講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	使用しない
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	《母性看護学》Ⅰ-B 《母性看護学》Ⅱ-3-A Ⅱ-3-B 《母性看護学》Ⅲ-4-C Ⅲ-5-A.C.
履修条件・履修上の注意	Active Academy により資料を事前に配布する、各自印刷して授業に持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 精神（心）の健康</p> <p>2 精神（こころ）のとらえ方1 精神機能</p> <p>3 精神（こころ）のとらえ方2 自我機能</p> <p>4 生活の場と精神保健1 家庭（家族）における精神保健</p> <p>5 生活の場と精神保健2 学校・職場における精神保健</p> <p>6 ストレス・危機と精神保健1 ストレスとストレスマネジメント</p> <p>7 ストレス・危機と精神保健2 危機と危機理論</p> <p>8 精神医療の歴史と現状</p>
科目の目的	精神看護学の意義・目的・機能および精神看護学が取り扱う精神健康，精神障害の意味を理解する。これを基盤として，様々な場や状況における精神看護学の展開に必要な基礎知識を理解する。
到達目標	<p>1. 精神看護の意義・目的・機能が理解できる。</p> <p>2. 精神看護の基盤理論が理解できる。</p> <p>3. 精神医療・看護の歴史を理解し今後の精神看護学の発展を考察できる。</p>
関連科目	心理学，発達心理学，臨床心理学，カウンセリング，精神看護学Ⅰ，精神看護学Ⅱ，精神看護学実習，精神看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験（80％） 課題提出（20％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し，学習内容を把握し，疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に，講義内容の再確認及び疑問点を抽出し，疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	教科書：新看護学体系「精神看護学①精神看護学概論 精神保健第4版」岩崎弥生/渡邊博幸編集，メジカルフレンド社
オフィス・アワー	講義終了後の12時10分から13時まで
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》-I-1-A-a~b</p> <p>《精神看護学》-I-1-B-a~b</p> <p>《精神看護学》-I-1-C-a~e</p> <p>《精神看護学》-IV-7-A-a~d</p> <p>《精神看護学》-IV-7-B-a~c</p> <p>《精神看護学》-IV-7-C-a~d</p> <p>《精神看護学》-IV-7-D-a~c</p> <p>《精神看護学》-IV-8-A-a~j</p>
履修条件・履修上の注意	講義資料は，講義の約1週間前程度から当該日までActive Academyにより配布する。資料は，印刷して持参する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			
時田 征人	寺岡 征太郎	佐藤 るみ子	長澤 貴志

授業形態	講義
授業計画	1 精神医療の展開 1 医療を中心とした枠組み
	2 精神医療の展開 2 地域を中心とした枠組み
	3 精神機能の理解 1 意識・知覚・記憶・見当識・睡眠
	4 精神機能の理解 2 思考・感情・意志、欲動、行動・自我意識・人格（パーソナリティ）
	5 精神機能の異常 1 意識障害（せん妄）・知覚の異常（錯覚・幻覚）・記憶の異常
	6 精神機能の異常 2 思考の異常（思路障害・妄想・思考体験の異常）・感情の異常（気分の異常・感情の興奮性の異常・感情調整の異常）
	7 精神疾患の理解 1－不安を主な症状とする精神疾患 1 神経症性障害
	8 精神疾患の理解 2－不安を主な症状とする精神疾患 2 ストレス関連障害および身体表現性障害
	9 不安を主な症状とする精神疾患の看護 1 不安性障害を持つ人の看護
	10 不安を主な症状とする精神疾患の看護 2 身体表現性障害・ストレス関連障害を持つ人の看護
	11 精神疾患の理解 3－感情の異常を症状とする精神疾患 1 感情障害（概念，成因論，病態，症状，診断）
	12 精神疾患の理解 4－感情の異常を症状とする精神疾患 2 感情障害（治療，経過，予後）
	13 感情の障害を持つ人の看護 1 アセスメントと各現象の関連
	14 感情の障害を持つ人の看護 2 ケアプラン
	15 精神疾患の理解 5－思考・感覚・意欲・認知機能の異常 1－ 統合失調症（概念，成因論，病態，症状，診断）
	16 精神疾患の理解 6－思考・感覚・意欲・認知機能の異常 2－ 統合失調症（治療，経過，予後）
	17 思考・感覚・意欲・認知機能障害を持つ人の看護 1 統合失調症を持つ人の看護 1（アセスメントと各現象の関連）
	18 思考・感覚・意欲・認知機能障害を持つ人の看護 2 統合失調症を持つ人の看護 2（ケアプラン）
	19 パーソナリティ障害の理解と看護 パーソナリティ障害（概念・成因論・病態・症状・診断・治療・経過・予後），看護上の問題とケアプラン
	20 てんかん・精神発達の理解と看護 てんかん・精神発達（概念・成因論・病態・症状・診断・治療・経過・予後），看護上の問題とケアプラン
	21 嗜癖関連問題 1－アルコール・薬物依存症－ アルコール依存症（概念・成因論・病態・症状・診断・治療・経過・予後）
	22 アルコール・薬物依存症を持つ人の看護（長澤貴志） アルコール依存症を持つ人の看護（アセスメント・各現象の関連・ケアプラン）
	23 嗜癖関連問題 2－摂食障害－ 摂食障害（概念・成因論・病態・症状・診断・治療・経過・予後）
	24 摂食障害を持つ人の看護 摂食障害を持つ人の看護（アセスメント・各現象の関連・ケアプラン）

	25 リエゾン精神看護 1 (寺岡征太郎) リエゾン精神看護の目的・対象・方法
	26 リエゾン精神看護 2 (寺岡征太郎) リエゾン精神看護の実際・看護職における精神保健
	27 司法精神看護 (佐藤るみ子) 司法精神看護の目的・対象・方法・実際の活動など
	28 精神障害リハビリテーション 1 精神障害リハビリテーションの目的・対象・方法
	29 精神障害リハビリテーション 2 当事者によるリハビリテーション活動 1
	30 精神障害リハビリテーション 3 当事者によるリハビリテーション活動 2
科目の目的	精神看護の展開の基礎的知識となる、精神疾患、精神科における各種検査や各種治療法（精神療法、精神科薬物療法など）および精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要などを理解する。
到達目標	1. 精神機能と精神症状が理解できる。 2. 代表的な精神疾患の概要、病態、症状、治療方法が理解できる。 3. 精神障害に対する心理社会的リハビリテーションの概要が理解できる。 4. 地域における精神看護の展開の概要が理解できる。
関連科目	心理学、発達心理学、臨床心理学、カウンセリング、精神看護学Ⅱ、精神看護学実習、精神看護学特論
成績評価方法・基準	定期試験（80%）、提出課題（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	予習：各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約30分） 復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約30分）
教科書・参考書	教科書：新体系看護学全書「精神看護学②精神障害を持つ人の看護第4版」岩崎弥生/渡邊博幸編集，メジカルフレンド社。 参考書：これからの精神看護学（森千鶴，田中留伊監編集，ピラールプレス），精神神経疾患ビジュアルブック（落合慈之監修，学研メディカル秀潤社），統合失調症・気分障害を持つ人の生活と看護ケア（坂田三允，中央法規出版）。
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	《精神看護学》Ⅱ-2-A～D 《精神看護学》Ⅱ-3-A～D 《精神看護学》Ⅱ-4-A～C 《精神看護学》Ⅱ-7-A～D 《精神看護学》Ⅱ-8-A～D
履修条件・履修上の注意	講義資料は、講義の約1週間前程度から当該日までActive Academyにより配布する。資料は必ず印刷して持参すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
村松 仁			
時田 征人	山勝 裕子		

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>1 精神看護における看護技術1 (村松 仁) ケアの前提, ケアの原則, ケアの方法</p> <p>2 精神看護における看護技術2 (村松 仁) 患者-看護師関係, アセスメント, チームのダイナミクス</p> <p>3 精神医療における治療的環境と看護1 (村松 仁)</p> <p>4 精神医療における治療的環境と看護2 (村松 仁)</p> <p>5 精神看護における身体ケア1 (村松 仁)</p> <p>6 精神看護における身体ケア2 (村松 仁)</p> <p>7 地域における精神看護 精神科訪問看護</p> <p>8 精神看護における看護過程の展開 (村松 仁)</p> <p>9 看護過程演習1 (村松 仁) 基本データ, 精神症状のアセスメント</p> <p>10 看護過程演習2 (村松 仁) セルフケアのアセスメント1</p> <p>11 看護過程演習3 (村松 仁) セルフケアのアセスメント2</p> <p>12 看護過程演習4 (村松 仁) 看護問題の抽出, 優先順位の決定, 関連図</p> <p>13 看護過程演習5 (村松 仁) 看護計画の立案</p> <p>14 看護過程演習6 (村松 仁) 演習内容の発表と討議</p> <p>15 看護過程演習7 (村松 仁) 演習内容の発表と討議</p>
科目の目的	精神の健康問題 (課題) を持つ人に対する回復 (リカバリー) に向けた看護について, 意義及び方法について学修する。
到達目標	<p>1. 精神看護の基本技術である治療的関係性の意義と治療的関係性の構築方法が理解できる。</p> <p>2. 精神の健康問題 (課題) を持つ人に対する回復 (リカバリー) に向けた看護過程展開の基礎が理解できる。</p> <p>3. 精神科病院における治療環境の意義と適切な調整について理解できる。</p> <p>4. 地域における精神看護の意義及び目的, 方法について理解できる。</p>
関連科目	心理学, 発達心理学, 臨床心理学, カウンセリング, 精神看護学総論, 精神看護学Ⅰ, 精神看護学実習
成績評価方法・基準	定期試験 (60%), 課題 (40%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習: 各講義日の講義内容について教科書及び参考図書を講読し, 学習内容を把握し, 疑問点等を抽出する (約1時間)</p> <p>復習: 講義終了後に, 講義内容の再確認及び疑問点を抽出し, 疑問点について調べる (約1時間)</p>
教科書・参考書	<p>教科書: 精神看護学総論・精神看護学Ⅰで使用した教科書を使用する。</p> <p>参考書: これからの精神看護学 (森千鶴, 田中留伊監編集, ピラールプレス), 精神神経疾患ビジュアルブック (落合慈之監修, 学研メディカル秀潤社), 精神看護学・第2版・患者-学生のストーリーで綴る実習展開 (田中美恵子編著, 医歯薬出版株式会社)</p>
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	<p>《精神看護学》Ⅱ-2-A`E</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-3-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-4-A`C</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-5-A`D</p> <p>《精神看護学》Ⅱ-6-A`B</p>

履修条件・履修上の注意	講義資料は、講義の約1週間前程度から当該日までActive Academyにより配布する。資料は、必ず印刷して持参すること。
-------------	--

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	1単位	選択
担当教員			
村松 仁			

授業形態	講義・演習
授業計画	<p>1 精神医療及び精神保健看護に関する現状と課題</p> <p>2 精神保健看護の基礎理論 1</p> <p>3 精神保健看護の基礎理論 2</p> <p>4 精神保健看護の発展 1</p> <p>5 精神保健看護の発展 2</p> <p>6 精神保健看護の展開における課題 1</p> <p>7 精神保健看護の展開における課題 2</p> <p>8 精神保健看護の展開における課題 3</p>
科目の目的	精神保健看護学及び関連領域に関する近年のトピックスを紹介し、精神保健看護学の置かれている状況を理解し、精神保健看護学の課題を発見し、その解決や対応に向けての自己の意見を、学びの発表や討議を通して考察する。
到達目標	<p>1. 精神保健看護学に関する今日の課題を論じることができる。</p> <p>2. 精神保健看護学の発展にむけての自己の考えを論じることができる。</p> <p>3. 各自の学習内容についての討議を通し、今後の精神看護学のあり方について考察することができる。</p>
関連科目	心理学，発達心理学，臨床心理学，カウンセリング，精神看護学総論，精神看護学Ⅰ，精神看護学Ⅱ，精神看護学実習
成績評価方法・基準	演習における課題のプレゼンテーションと討議（50%），課題レポート（50%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>予習：各講義日の講義内容に関連する研究論文及び参考図書を講読し、学習内容を把握し、疑問点等を抽出する（約2時間）</p> <p>復習：講義終了後に、講義内容の再確認及び疑問点を抽出し、疑問点について調べる（約2時間）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：講義において適宜紹介する。</p>
オフィス・アワー	講義終了後
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	精神保健及び精神看護学に関する各自の関心事項を基に講義を進めるので、受講に際しては自己の精神保健及び精神看護学に関する関心を明確にできることが必要となる。同時に、主体的な学習が求められることを理解しておくこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	1単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野 えり子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 在宅看護の概念1（笠井） なぜ在宅看護が必要か？社会的背景について グループワーク</p> <p>2 在宅看護の概念2（笠井） 在宅看護とは 在宅看護の歴史と現状 在宅看護の目指すもの 看護師の役割と機能</p> <p>3 在宅看護の概念3（笠井） 在宅看護の対象者 対象者の特徴 対象者の生活と生活の場 在宅看護の成立条件 在宅療養者への看護活動</p> <p>4 在宅療養者と家族支援1（笠井） 在宅看護と家族、家族機能 家族のアセスメント</p> <p>5 在宅療養者と家族支援2（笠井） 家族への支援 介護力アセスメント 介護者の健康 介護負担軽減 レスパイトケア</p> <p>6 在宅療養を支える看護1（笠井） 在宅看護の提供方法 訪問看護ステーション設置と管理運営 訪問看護サービスの仕組みと提供 訪問看護の記録</p> <p>7 在宅療養を支える看護2（笠井） 中間テスト 在宅看護師の倫理 自己決定支援 対象者の権利擁護 説明責任</p> <p>8 在宅療養を支える看護3（笠井） 目指す訪問看護ステーションとは グループワーク 発表</p>
科目の目的	在宅看護の歴史と現状、在宅療養支援における在宅看護の目的・特徴、在宅看護の対象、生活の場の特徴を理解し、在宅看護における看護師の役割や機能がどのように在宅療養の場で展開されているかを学ぶ。グループワークによる検索的学習を交えて、在宅看護活動のあるべき姿と今後の展望を自ら思考する。
到達目標	<p>1. 在宅看護の目的、特徴を理解する。</p> <p>2. 在宅看護の場、在宅看護の対象者とそれらの特徴を理解する。</p> <p>3. 療養者と家族の関係性を考えながら介護者への看護の在り方・方法を理解する。</p> <p>4. 在宅看護の現状、課題や活動の在り方を理解する。</p>
関連科目	基礎看護学領域各科目、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、公衆衛生看護学、家族学、
成績評価方法・基準	中間テスト（10％）、定期試験（90％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 在宅看護にかかわる現状及び社会福祉施策、権利保障などに関する事前学習が必要のため、事前に学習テーマを課す。 (1時間程度予習をし、授業に臨んでほしい)
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナースング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」（メディカ出版） 参考書：
オフィス・アワー	専任：水曜日：12:10～13:00（笠井研究室）
国家試験出題基準	在宅看護概論 1-A-a～d、1-B-a. b、2-A-a. b、2-B-a. b、2-C-b～d、3-A-a～c、 3-B-a. b、4-B-a～e、4-F-a
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	1単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野 えり子	今井 真美	金井 敏江	宮田 伸太郎

授業形態	講義（15）
授業計画	<p>1 在宅看護の仕組み1（笠井） 在宅療養支援に関連する社会資源と関係職種</p> <p>2 在宅看護の仕組み2（笠井） 介護保険制度 誕生の背景 事業運営 要介護認定 サービス利用までの流れ 介護報酬・費用負担のしくみ</p> <p>3 在宅看護の仕組み3（笠井） ケアプラン 介護保険給付サービス 居宅・施設サービス 地域密着型 福祉用具 住宅改修費用負担</p> <p>4 在宅看護のしくみ4（笠井） ケアプラン 介護保険給付サービス 居宅・施設サービス 地域密着型 福祉用具 住宅改修費用負担</p> <p>5 在宅看護の仕組み5（笠井） 在宅看護に関連する法規 医療保険制度 難病療養者に関わる制度 子どもを対象とする制度 障害者を対象とする制度 各市町村における在宅療養を支援する制度</p> <p>6 在宅看護の仕組み6（笠井） 在宅看護に関連する法規 医療保険制度難病療養者に関わる制度 子どもを対象とする制度 障害者を対象とする制度 各市町村における在宅療養を支援する制度</p> <p>7 在宅看護の仕組み7（笠井） 地域包括ケアシステム 推進の経緯 背景 地域包括支援センター 地域ケア会議 看護の役割</p> <p>8 多職種連携の実際1（金井） 介護支援専門員の活動と多職種連携の実際 チームケアの意義 ケアマネジメントの概念・過程</p> <p>9 多職種連携の実際2（宮田） 在宅療養者に対するリハビリテーション活動の実際と多職種連携</p> <p>10 多職種連携の実際3（今井） 訪問看護師の活動の実際 多職種連携 看護師間の連携・協働</p> <p>11 訪問看護における安全性の確保（笠井） 中間テスト 訪問看護中の事故の特徴とリスクマネジメント 事故防止</p> <p>12 退院準備 退院調整の実際1（笠井） 在宅移行 療養者・介護者のニーズ把握と社会資源の利用 在宅療養環境調整・整備</p> <p>13 退院準備 退院調整の実際2（笠井） 退院調整 退院調整カンファレンス 地域支援ネットワークと連携・役割分担 在宅移行初回訪問看護の実際</p> <p>14 在宅看護過程の展開1（笠井） 在宅看護過程 特徴 看護過程展開のポイント 展開方法 看護計画</p> <p>15 在宅看護過程の展開2（笠井、山野） 模擬事例の看護過程展開実施 総合評価・まとめ</p>
科目の目的	在宅看護の対象である療養者と家族について学び、在宅看護活動の特質を理解する。また在宅療養を支える社会資源及び多職種連携の在り方を学び、それらを有効に機能させるための方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の仕組みを学び、在宅療養者・家族の在宅療養支援体制を整備する方法を理解する。 2. 在宅療養支援に係る関係機関・関係職種とそれらが有効に機能するための方法を理解する。 3. 療養者および家族を支援するための在宅看護過程の特徴と展開方法を理解する。
関連科目	成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学、社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	中間試験（10％） 定期試験（90％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉、社会保障制度の既習内容の復習が必要である。 2. 社会資源について 特に介護保険制度、医療保険制度、障害者総合支援法、難病対策の制度について事前に予習しておくこと。 <p>（準備学習は各講義の前、1時間程度予習をして授業に臨んでほしい）</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」櫻井尚子（メディカ出版）</p> <p>参考書：「国民衛生の動向」2015/2016 一般財団法人厚生労働統計協会</p>
オフィス・アワー	専任：金曜日：12:10～13:00（笠井研究室） 非常勤講師：非常勤講師控室、講義終了後、休憩時間
国家試験出題基準	在宅看護論 I 4-C-a～d、4-D-a～c、4-E-a～e、4-F-a～d、5-A-a～c、5-B-a～e、5

	- C - a ~ e
履修条件・履修上の注意	事前学習については、その都度テーマを提示する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野 えり子	堀 美佐子	久住 美稚子	

授業形態	講義（18）	演習（12）
授業計画	1	日常生活援助1（笠井） 在宅看護論Ⅰの復習、在宅看護援助の基本、対象の理解、初回訪問とは
	2	日常生活援助2（笠井） 事例から学ぶ初回訪問看護 シナリオ作成 演習
	3	日常生活援助3（笠井、山野） 初回訪問看護 演習発表
	4	日常生活援助4 療養環境整備と事故防止対策（笠井） 住まい、ADL障害のアセスメント、療養環境整備、在宅における事故と事故防止対策
	5	日常生活援助5 排泄・清潔の援助（笠井） 在宅における排泄の特徴 排泄にかかわる環境と介護力、排尿・排便のアセスメントと看護、排泄補助用具の選択方法、清潔のアセスメント、在宅でのケア方法
	6	日常生活援助6 在宅感染症対策（笠井） 在宅感染症と予防策の実際 家族教育 医療廃棄物の処理
	7	日常生活援助7 食事・栄養の援助（笠井） 在宅での食生活の特徴、食生活・嚥下に関するアセスメント、ケア、介助のポイント
	8	特殊な技術を伴う在宅看護1 在宅酸素療法（笠井） 在宅酸素療法（HOT） 適応基準 目的 HOTに用いられる機器と管理方法、家族教育 災害時対策
	9	特殊な技術を伴う在宅看護2 在宅人工呼吸療法（笠井） 在宅人工呼吸療法（HMV） 適応基準 HMVの療養環境整備 HMVの使用機器と管理、家族教育 おこりやすいトラブルと対処方法 災害時対策
	10	特殊な技術を伴う在宅看護3 褥瘡管理（久住） 褥瘡ケア 発生のリスクアセスメント 褥瘡の予防 発生時の対応 治療・看護の実際
	11	特殊な技術を伴う在宅看護4 胃瘻、経管栄養管理（笠井） 経管栄養 種類と適応 経鼻、胃瘻 栄養補給方法と管理 家族教育 観察・アセスメントポイント おこりやすいトラブルと対処方法
	12	特殊な技術を伴う在宅看護5 膀胱カテーテル留置管理（笠井） 膀胱カテーテル留置 適応条件 カテーテルの種類と適応 観察・アセスメントポイント 家族教育 おこりやすいトラブルと対処方法
	13	在宅看護の実際1 独居療養者への支援（笠井） 独居療養者への支援 地域包括ケアシステム 多職種連携 緊急時の体制整備
	14	在宅看護の実際2 小児の在宅ケア（堀） 小児の在宅看護 対象 医療的ケア 小児の在宅看護の特徴 家族支援 多職種連携の実際
	15	在宅看護の実際3 神経難病患者の在宅ケア（笠井） 神経難病患者の在宅看護 ALSの場合 進行性疾患における在宅看護の特徴 フィジカルアセスメントとケアマネジメント 多職種連携 家族支援の実際
	16	在宅看護の実際4 エンドオブライフケア（山野） エンドオブライフケア 終末期看護の特徴 症状マネジメント 各ステージにおける療養者・家族支援の実際
	17	在宅看護過程の展開1（笠井） 中間テスト オリエンテーション 演習の方法、進め方 事前学習
	18	在宅看護過程の展開2（笠井） 在宅看護過程の特徴 展開方法 演習事例の説明
	19-26	在宅看護過程の展開3-10（笠井、山野） 演習 情報収集 アセスメント 看護問題抽出 看護計画立案 看護実施計画立案 演習シナリオ作成
	27	在宅看護過程の展開11（笠井、山野） シナリオに基づき、事例別の訪問看護演習発表
	28	在宅看護過程の展開12（笠井、山野） シナリオに基づき、事例別の訪問看護演習発表
	29	在宅看護過程全体のまとめ（笠井、山野） 演習した結果についてグループディスカッション
	30	在宅看護過程全体のまとめ（笠井、山野） グループごと演習結果発表、講評、在宅看護過程のまとめ

科目の目的	在宅療養者や家族を支える社会資源とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。また在宅看護と生活援助の技術を習得すると共に、家族への介護技術指導を実施することにより、在宅療養者・家族に対する自律性支援のありかたを理解する。
到達目標	1. 在宅療養支援に関わる関係機関・関係職種とそれらを有効に機能させるための方法を理解する。 2. 基本的な生活援助の技術を習得する。 3. 特殊な処置・管理を要する在宅療養者の援助に必要な知識と技術を習得する。 4. 家族への介護技術支援に必要な知識と看護技術を習得する。 5. 在宅療養者に対する看護過程の特徴を理解した看護過程を習得する。
関連科目	基礎看護学領域各科目、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学
成績評価方法・基準	中間試験（10％）、定期試験（90％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	1. 在宅看護論Ⅰの既習講義内容の復習が必要であり、特に社会資源の活用方法やチームケアについて復習をすること。 2. 基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、精神看護学で学んだケア技術の復習をしておくこと 3. 特殊な技術を要する在宅看護では、適応となる基礎疾患の知識が基盤になるので事前学習をして基礎疾患を理解したうえで講義に臨んでほしい。（準備学習として各講義につき、1時間程度の予習復習をしてほしい）
教科書・参考書	教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える人々」 参考書：「写真でわかる訪問看護 訪問看護の世界を写真で学ぶ」押川真喜子（インターメディカ） 「介護保険制度に関するパンフレット」（社会保険出版社） 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団）
オフィス・アワー	専任教員：金曜日：12:10～13:00（笠井研究室） 非常勤講師：講義の後、休憩時間（場所：非常勤講師控室）
国家試験出題基準	在宅看護論Ⅱ 4-F-b～d、4-G-a～e、6-A-a～f、6-B-a～e、6-C-a b、6-D-a～e、 7-A-a～d、7-B-a～e、7-C-a, c, d、8-A-a～d、8-B-a～d、8-C-a～e、8-D-a～c 8-E-a～e、8-E-a～e、8-G-a～d
履修条件・履修上の注意	事前学習については、テーマを提示するので、予習・復習をしてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
牛込 三和子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 基礎看護学の学び入門（上星） 基礎看護学の特色と4年間の学習の展望</p> <p>2 成人看護学の学び入門（牛込） 成人看護学の特色と4年間の学習の展望</p> <p>3 老年看護学の学び入門（伊藤まゆみ） 老年看護学の特色と4年間の学習の展望</p> <p>4 小児看護学の学び入門（二宮） 小児看護学の特色と4年間の学習の展望</p> <p>5 母性看護学の学び入門（早川） 母性看護学の特色4年間の学習の展望</p> <p>6 精神看護学の学び入門（村松） 精神看護学の特色と4年間の学習の展望</p> <p>7 在宅看護論の学び入門（笠井） 在宅看護論の特色と4年間の学習の展望</p> <p>8 公衆衛生看護学の学び入門（矢島） 公衆衛生看護学の特色と4年間の学習の展望</p>
科目の目的	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学、在宅看護論、公衆衛生看護学の各専門領域におけるそれぞれの特色を実践的視点でわかりやすく解説し、学生個々が4年次修了までの学習をイメージできるようにし、学習の動機づけをする。
到達目標	1) 看護学の各領域の特色を表現することができる。 2) これから履修する看護学専門科目の学習に興味を持って取り組める。
関連科目	専門科目群の全科目
成績評価方法・基準	レポート100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	看護や人の健康に関連する様々な図書、ニュース記事などに広く関心を向け、情報収集するとともに、それらの中から幾つかを選んで熟読し、看護について深く考える時間を持ってください。1コマ当たり、4時間程度の学習を求めます。
教科書・参考書	特にありません。
オフィス・アワー	講義の前後、昼休み
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	必修
担当教員			
根生 とき子			

授業形態	講義、GW
授業計画	<p>1回 看護とマネジメント 管理とは何か、看護マネジメントの基礎、看護管理過程、組織管理について</p> <p>2回 看護関連法令 看護を取り巻く諸制度について、保健師助産師看護師法、医療法、医療職の法律について</p> <p>3回 ケアのマネジメント 看護職の協働、他職種の協働、チーム医療、クリニカルパスについて</p> <p>4回 安全管理 患者の権利の尊重、医療安全、情報管理について</p> <p>5回 感染管理 院内感染予防、感染対策について</p> <p>6回 看護サービスの質の管理 職員教育、人材育成、サービスの質の評価について</p> <p>7回 看護の経済的評価 診療報酬制度、労働環境、看護政策等について</p> <p>8回 看護管理の実際 病院管理の実際について まとめ</p>
科目の目的	看護管理は、管理者になろうとする者だけが学ぶものではなく、看護そのものを提供するうえで必要とされる知識や技術である。看護はチーム医療や組織・システムの中で新しいヘルスケアシステムを創造し展開して行く中核となることが期待されている。医学の発展に伴う高度医療、情報技術の発達、EBM、個人情報の擁護など、変化してゆく社会や人々にニーズと環境を適応させながら、安全且つ高い水準のケアを提供するための管理の方法を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理を支える組織、リスクマネジメントの基本、関連する社会制度、法を理解できる。 2. 病院をはじめとする組織内の安全管理のシステムと実際が理解できる。 3. 医療チームの一員として、看護チームの一員として、どのように仕事をして行くのか考えられる。
関連科目	看護学概論Ⅰ、看護学概論Ⅱ、法学、チーム医療論
成績評価方法・基準	課題提出20%、筆記試験80%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	テキストや配布資料を使い予習1時間、授業後復習1時間行うこと
教科書・参考書	<p>教科書 上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践〔1〕．医学書院</p> <p>参考書 井部俊子，中西睦子監：看護管理学習テキスト1～8・別巻．日本看護協会出版会 村島さい子，加藤和子，瀬戸口要子編：ナーシング・グラフィカ看護の統合と実践① 看護管理．メディカ出版</p>
オフィス・アワー	授業日の昼休み（12：10～13：00）
国家試験出題基準	【看護師】看護の統合と実践－Ⅰ－1－ABCDE 健康支援と社会保障制度－Ⅲ－6－D 必修問題Ⅱ－9－D
履修条件・履修上の注意	特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
矢嶋 和江			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 災害と法制度</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害とは 2) 災害看護の目的 3) 災害サイクルと災害対策 4) 災害による援助ニーズの経時的変化 5) 災害支援に関する法制度 (矢嶋) <p>2 災害による健康障害、災害発生時の応急救護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害の種類別健康障害 2) トリアージとは・タッキングの原則 3) 災害現場でのトリアージと応急救護法 (矢嶋) <p>3 災害救援活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 医療チーム派遣体制：DMAT 2) 災害看護師派遣体制：災害支援ネットワーク (看護協会) 3) 民間災害ボランティア派遣 <ul style="list-style-type: none"> ・災害ボランティアとその役割 ・被災地における支援活動の特性 ・ボランティアとしての心構え (矢嶋) <p>4 災害救援活動</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 国際救援とその仕組み 2) 国際緊急援助隊とは 3) 国外の被災地における援助活動の特性 (矢嶋) <p>5 災害発生時の行動～病院・施設の対応</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被害の軽減対策 (災害対応マニュアルと防災訓練) 3) 多死傷者受け入れのための準備 4) 被災施設職員の健康管理と災害ボランティアの受け入れ (矢嶋) <p>6 災害時の保健活動 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害被災者の健康問題 2) 避難センターにおける支援と保健活動 3) 在宅の被災者に対する支援 4) 仮設住宅生活者に対する支援 5) ハイリスクグループへの支援 6) ASDとPTSDの症状とその予防対策 7) 惨事ストレスと心のケア (矢嶋) <p>7 災害時の保健活動 2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 災害準備期の保健活動 2) 災害時の情報管理、組織・運営管理、業務管理、予算管理、人事管理 3) 救援者の健康管理 4) 被災後のコミュニティーづくり 5) 地域防災計画、健康危機管理マニュアル等計画の策定への参画 (矢嶋) <p>8 原子力災害について・まとめ</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 放射線災害の基礎 2) 被ばくによる身体への影響 3) 原子力災害時の対応について <p>減災に向けて、あなたができることは何ですか？ (矢嶋)</p>
科目の目的	災害の種類や経時的な医療ニーズの変化について理解し、保健医療職として災害各期における適切な被災者支援活動ができるための基礎的な知識を学ぶ。また、支援活動における看護の役割を理解し、国内外で発生する災害を人道的な視点から考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義及び災害看護の目的を説明できる。 2. 災害サイクルと発災後の援助ニーズの経時的変化を説明できる。 3. トリアージの概念に基づいた判断と、適切な応急処置ができる。 4. 災害の種類、発生地域、避難者の置かれた状況等によってどのような健康問題が発生するのかを説明できる。 5. 地方自治体における災害時の保健師の役割を説明できる。
関連科目	臨床看護管理学、公衆衛生看護管理学、地域保健行政
成績評価方法・基準	試験 (100%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	<p>教科書 「最新保健学講座 5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集 (メヂカルフレンド社)</p> <p>参考書 「災害看護」黒田裕子、酒井明子 監修 (メディカ出版)</p>

	「看護師・介護師のための災害救護ハンドブック」矢嶋和江 編集（利根沼田印刷） 「阪神淡路大震災—その時看護は—」南 裕子 監修（日本看護協会出版会） 他 授業内で紹介
オフィス・アワー	矢島正栄：月～金 17:00～18:00 矢嶋和江：授業の前後
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 ≪公衆衛生看護学概論≫ 3-B-c, d ≪健康危機管理≫ 3-A, B, C, D, E 看護師国家試験出題基準 ≪必修問題≫ IV-16-J ≪小児看護学≫ II-10-G ≪精神医学≫ I-1-D ≪看護の統合と実践≫ II-2-A, B, C
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
辻村 弘美			

授業形態	講義
授業計画	<p>1回 授業ガイダンス及び国際看護総論 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の概念 2. 国際協力の歴史とその変遷 被援助国時代から援助供与国になるまで 3. 日本の国際協力の流れ 二国間援助（無償資金協力, 技術協力, 有償資金協力）と多国間援助 4. 国際協力に関わる機関、GO、NGO、その他の援助機関の役割（JICA、厚生労働省、外務省、WHO、UNICEFなどについて） 5. 最近の国際協力の動向について <p>2回 国際看護総論2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の必要性 <ul style="list-style-type: none"> ・世界のさまざまな格差 ・わが国が受けた支援 ・開発協力大綱（ODA大綱）の基本理念と原則 2. 保健医療の現状への対策 <ul style="list-style-type: none"> ・プライマリ・ヘルスケアの基本原則と意義 <p>3回 途上国における健康問題 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 先進国と開発途上国について 2. 貧困とは 3. 栄養問題、環境問題 <p>4回 国際保健医療活動の実際 1</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 途上国での医療活動、NGOワーカー <p>5回 途上国における健康問題2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 感染症コントロール（ポリオ・麻疹根絶活動、マラリア、下痢症、結核） 2. HIV/AIDS 3. リプロダクティブヘルス/ライツ <p>6回 国際保健医療活動の実際2</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 青年海外協力隊活動について <p>7回 グローバル社会と国際看護</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 在日外国人の増加による問題、外国人看護師の受け入れ問題など <p>8回 ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs）、国際看護協力への道</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ミレニアム開発目標（MDGs）と持続可能な開発目標（SDGs） 2. 国際医療協力に必要な資質、国際医療協力への道
科目の目的	国際協力や国際看護の概念や意義などを理解し、国際保健医療という視点において国際看護や国際協力などのあり方について考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際看護の概念や必要性が理解できる 2. 国際協力の歴史的な経緯と最近の動向が理解できる 3. 諸外国における健康問題や看護の現状が理解できる 4. 日本や諸外国で自分ができる国際看護活動とは何かを考えることができる
関連科目	専門基礎科目－公衆衛生学、疫学・保健統計 専門科目－災害看護論
成績評価方法・基準	試験（100％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	国際協力等の宿題を出すことがあります（学習時間30分程度） また、日常生活の中で国際保健や国際看護に関する報道について興味をもっていただきたい
教科書・参考書	教科書：「国際看護学入門」国際看護研究会編（医学書院） 参考書：「バッシュ国際保健学講座」ポールバッシュ（じほう） 医者のいないところで 村のヘルスケア手引書 デビッド・ワーナー（シェア） 世界子供白書（ユニセフ）等
オフィス・アワー	授業前後
国家試験出題基準	【看護の統合と実践】 目標Ⅲ. 国際社会における看護について基本的な理解を問う。 3. 国際化と看護 A. 看護のグローバル化 B. 多様な文化と看護 C. 看護の国際協力活動
履修条件・履修上の注意	なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	必修
担当教員			
矢島 正栄			
廣田 幸子	中下 富子		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 公衆衛生看護とは（1-16 矢島） 「公衆衛生」と「公衆衛生看護」、「地域看護」と「公衆衛生看護」</p> <p>2 公衆衛生看護の理念と目的 公衆衛生看護の規程に流れる理念、公衆衛生看護の目的</p> <p>3 公衆衛生看護活動と法令、職業倫理1 公衆衛生看護活動の根拠となる法律の概要</p> <p>4 公衆衛生看護活動と法令、職業倫理2 保健師の身分、教育に関する規定、公衆衛生看護活動において求められる倫理</p> <p>5 公衆衛生看護活動の特質 公衆衛生看護の特質、保健師に求められる能力</p> <p>6 公衆衛生看護の対象1 個人 公衆衛生看護の対象である個人の捉え方、個人に対する公衆衛生看護活動の特徴</p> <p>7 公衆衛生看護の対象2 家族 公衆衛生看護の対象である家族の捉え方、家族に対する公衆衛生看護活動の特徴</p> <p>8 公衆衛生看護の対象3 集団・地域 公衆衛生看護の対象である集団・地域の捉え方、集団・地域を対象とする公衆衛生看護活動の特徴</p> <p>9 公衆衛生看護の対象4 現代の人々の健康課題 現代の日本で対策に重点が置かれている健康課題</p> <p>10 公衆衛生看護活動の場1 保健所、市町村における保健師の活動</p> <p>11 公衆衛生看護活動の場2 在宅医療、介護・福祉分野における保健師の活動</p> <p>12 公衆衛生看護の活動方法1 公衆衛生看護に用いられる技術（健康相談、家庭訪問）</p> <p>13 公衆衛生看護の活動方法2 公衆衛生看護に用いられる技術（健康診査、健康教育、地区組織活動支援）</p> <p>14 公衆衛生看護の活動方法3 地区活動の展開</p> <p>15 公衆衛生看護の歴史1 欧米における公衆衛生看護の歴史、日本の公衆衛生看護の歴史1</p> <p>16 公衆衛生看護の歴史2 日本の公衆衛生看護の歴史2</p> <p>学校保健 （中下）</p> <p>1 学校保健の制度 教育法規、学校保健の領域、養護教諭制度の変遷</p> <p>2 児童生徒の現代的健康課題、学校における保健教育</p> <p>3 学校保健における組織活動 保健組織活動、学校保健計画、保健室経営と保健室経営計画</p> <p>4 学校安全と危機管理、学校環境衛生活動</p> <p>5 学校における保健管理（1） 健康観察、健康診断</p> <p>6 学校における保健管理（2） 疾病・感染症予防</p> <p>7 学校における保健管理（3） 救急処置</p> <p>8 学校における保健管理（4）</p>

	<p>健康相談 産業保健 (廣田)</p> <p>1 産業保健・看護の考え方と我が国における変遷 産業保健の目的と定義、産業看護の定義と役割、産業保健・看護の歴史</p> <p>2 産業保健活動を推進するための体制 産業保健行政、法体系、管理体制、労働安全衛生マネジメントシステム</p> <p>3 産業保健の現状と健康課題 労働災害と業務上疾病の発生状況、労働者の健康状態</p> <p>4 産業保健活動の基本 総括管理、作業環境管理、作業管理、健康管理、労働衛生教育</p> <p>5 産業看護活動の実際① 職業性疾病及び作業関連疾患と予防対策、過重労働対策、職場のメンタルヘルスケア</p> <p>6 産業看護活動の実際② 職場巡視、多様化する労働者への対応、地域・職域連携活動</p>
科目の目的	公衆衛生看護の概念と役割、地域の人々の健康を守る公衆衛生看護活動の方法について理解し、今後の保健師活動について展望する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生看護の概念と歴史の変遷を説明できる。 2. 公衆衛生看護をめぐる保健医療福祉施策の概要と関係職種について説明できる。 3. 公衆衛生看護の法的基盤を説明できる。 4. 公衆衛生看護活動における倫理的態度を選択できる。 5. 公衆衛生看護の役割、活動の特質を説明できる。 6. 公衆衛生看護の対象と活動の場の特徴を説明できる。 7. 公衆衛生看護活動の方法を説明できる。
関連科目	<p>教養科目群：発達・行動・心理の各科目、人と社会・生活の各科目</p> <p>専門基礎科目群：地域科目群の各科目</p> <p>専門科目群の各科目</p>
成績評価方法・基準	試験80% レポート20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき1時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	<p>教科書</p> <p>「標準保健師講座1 地域看護学概論」奥山則子 他(医学書院)</p> <p>「国民衛生の動向2016/2017」(財団法人厚生統計協会)</p> <p>(学校保健)</p> <p>「編集 衛藤隆・岡田加奈子 改訂8版 学校保健マニュアル」(南山堂)</p> <p>「国民衛生の動向2016/2017」(財団法人厚生統計協会)</p> <p>(産業保健)</p> <p>標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動(医学書院)</p> <p>参考書</p> <p>(産業看護)</p> <p>公衆衛生看護学テキスト4 公衆衛生看護活動II 学校保健・産業看護(医歯薬出版株式会社)</p> <p>産業看護学2014年版(日本看護協会出版会)</p>
オフィス・アワー	<p>矢島正栄：月～金曜日17:00～18:00</p> <p>中下富子・廣田幸子：講義の前後</p>
国家試験出題基準	<p>保健師国家試験出題基準</p> <p>《公衆衛生看護学概論》 1-A, B, C 2-A, B, C 3-A-c¹ 3-C, D</p> <p>《学校保健・産業保健》 1-A, B, C, D, E 2-A, B, C, D, E</p> <p>《公衆衛生看護学方法論I》 1-A, B, C 2-A, B</p> <p>看護師国家試験出題基準</p> <p>《必修問題》 9-B, C</p> <p>《疾病の成り立ちと回復の促進》 3-A</p> <p>《健康支援と社会保障制度》 1-A, B, C, D 2-A, B, C 3-A, B, C 11-A, B, C, D, E, F, G, H</p>
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2学年	2単位	選択
担当教員			
小林 亜由美			
廣田 幸子			

授業形態	講義、演習
授業計画	1 公衆衛生看護の支援技術 健康相談 1：活動の実際（小林）
	2 健康相談 2：面接技術の基本（小林）
	3 検診・健康診査 1：健康診査の意義、目的、対象（小林）
	4 検診・健康診査 2：健康診査の方法（小林）
	5 健康相談 3：演習 1（小林）
	6 健康相談 4：演習 2（小林）
	7 家族保健指導 1：家族の発達課題、家族の持つ保健機能（小林）
	8 家族保健指導 2：家族の問題把握と診断、家族支援（小林）
	9 家族保健指導 3：保健指導計画の立案演習 1（小林）
	10 家族保健指導 4：保健指導計画の立案演習 2－提出（小林）
	11 健康教育 1：健康教育の理念と目的、健康教育の理論（廣田）
	12 健康教育 2：健康教育の対象・方法（廣田）
	13 健康教育 3：健康教育の展開過程 1（廣田）
	14 健康教育 4：健康教育の展開過程 2（廣田）
	15 健康教育 5：健康教育計画と指導案 1（廣田）
	16 健康教育 6：健康教育計画と指導案 2（廣田）
	17 健康教育 7：健康教育の評価 1（廣田）
	18 健康教育 8：健康教育の評価 2（廣田）
	19 家族保健指導 5：保健指導準備 1（小林）
	20 家族保健指導 6：保健指導準備 2（小林）
	21 家庭訪問 1：家庭訪問の意義と目的、家庭訪問の対象（小林）
	22 家庭訪問 2：家庭訪問の展開（小林）
	23 家庭訪問 3：家庭訪問の事後処理、訪問記録の意義と作成方法（小林）
	24 家庭訪問 4：家庭訪問計画作成 1（小林）
	25 家庭訪問 5：家庭訪問計画作成 2（小林）

	26	家庭訪問 6 : 家庭訪問演習 1 (小林)
	27	家庭訪問 7 : 家庭訪問演習 2 (小林)
	28	地域組織活動 1 : 地域組織活動の意義と目的 (小林)
	29	地域組織活動 2 : 地域組織活動の実際 (小林)
	30	地域組織活動 3 : 地域組織の育成・運営に関わる保健師活動のあり方 (小林)
科目の目的	公衆衛生看護活動の方法である健康相談、健康教育、家庭訪問、地域組織活動支援について活動の特徴と展開方法を学び、活動展開に必要な知識・技術を習得する。実践現場のあらゆる場面で適用し得る応用力を養うことを目指し、演習を交えて体験的に学習する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康相談、健康診査の意義と目的を理解し、対象や場面に応じた保健指導を実施できる。 2. 家庭訪問の意義、目的とプロセス(準備・実施・評価)を説明できる。 3. 健康教育の概念と理論、個人及び集団を対象に健康教育を実施する際のプロセスと方法を説明できる。 4. 地域組織活動の意義、活用される理論と支援方法を説明できる。 	
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習	
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習/レポート(50%)	
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	健康相談演習事例に関する事前学習(2.5時間)、家庭訪問演習事例に関する訪問計画の作成(2.5時間)、家族への保健指導計画作成-実施-評価(10時間)	
教科書・参考書	「標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術(第3版)」中村 裕美子他 (医学書院)	
オフィス・アワー	12:10~13:00	
国家試験出題基準	【保健師】≪公衆衛生看護方法論Ⅰ(個人・家族・グループ支援方法論)≫-3-A-a, b, c, -B-a, b, c, d, e, -4-A-a, b, c, -B-a, b, c, d, e, f, g, -6-A-a, b, c, d, -B-a, b, c, d, e, f, g, h, -8-A-a, b, c, d, -B-a, b, c, d, -C-a, b, c, -D-a, b, ≪公衆衛生看護方法論Ⅱ(組織・集団・地域支援方法論)≫-5-A-a, b, c, d, -B-a, b, c, d, -C-a, b, c, d, -D-a, b, c	
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
小林 亜由美			

授業形態	講義、演習
授業計画	1 地域診断の概念と過程
	2 地域集団の特性の把握
	3 健康課題の抽出方法1
	4 健康課題の抽出方法2
	5 地域保健活動計画立案のプロセス1
	6 地域保健活動計画立案のプロセス2
	7 保健活動の必要量－稼働量の算定、予算化
	8 地域保健活動の評価に用いる指標と評価方法
	9 地域診断演習1：オリエンテーション、情報収集計画の作成
	10 地域診断演習2：情報収集計画表の作成
	11 地域診断演習3：地域踏査
	12 地域診断演習4：地域踏査
	13 地域診断演習5：既存資料による地域特性の把握
	14 地域診断演習6：既存資料による地域特性の把握
	15 地域診断演習7：既存資料による地域特性の把握
	16 地域診断演習8：既存資料による地域特性の把握
	17 地域診断演習9：健康課題の抽出
	18 地域診断演習10：健康課題の抽出
	19 地域診断演習11：対策の検討
	20 地域診断演習12：対策の検討
	21 地域診断演習13：年間活動計画
	22 地域診断演習14：年間活動計画
	23 地域診断演習15：年間活動計画
	24 地域診断演習16：事業計画
	25 地域診断演習17：事業計画

	26 地域診断演習18：事業計画
	27 地域診断演習19：事業計画
	28 地域診断演習20：地域保健活動計画報告・検討会準備
	29 地域診断演習21：地域保健活動計画報告・検討会1
	30 地域診断演習22：地域保健活動計画報告・検討会2
科目の目的	地域を単位とした健康問題の探求と、問題解決に向けた組織的・計画的な活動の展開方法を説明できる。さらに、保健計画の策定・遂行・評価、及び施策化に関わる看護専門職の役割について理解を深める。
到達目標	1. 地域の特性と健康課題を捉え、優先順位をつけることができる。 2. 健康課題に対する解決・改善に向けた目的・目標を設定できる。 3. 目標達成の手段を明確にし、年間活動計画・保健事業計画を立案できる。 4. 地域の健康管理における関係機関、関係職種との連携の必要性と方法を説明できる。 5. 評価の項目・方法・時期を設定できる。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学、公衆衛生看護学実習、疫学、保健統計
成績評価方法・基準	試験(50%)、演習課題(50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	地域の情報収集(2時間) 地域踏査(7時間)、健康課題の抽出(2時間)、対策の検討(2時間)、保健事業計画作成(2時間)
教科書・参考書	教科書：「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集(メヂカルフレンド社) 教科書：「国民衛生の動向2015/2016」(財団法人厚生統計協会)
オフィス・アワー	12:10～13:00
国家試験出題基準	【公衆衛生看護方法論Ⅱ(組織・集団・地域支援方法論)】-1-A-a, b, c, d, -B-a, b, c, d, C-a, b, c, -2-A-a, b, -B-a, b, c, d, e, f, g, -3-A-a, b, c, d, e, f, g, -B-a, b, c, d, -C-a, b, c, d
履修条件・履修上の注意	保健師国家試験受験資格取得のための要件科目

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	選択
担当教員			
奥野 みどり			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 母子保健総論 母子保健の考え方・我が国の母子保健の変遷</p> <p>2 母子保健総論 我が国の母子保健の水準</p> <p>3 母子保健総論 我が国の母子保健施策の概要</p> <p>4 母子保健論 思春期・若い家族の保健指導</p> <p>5 母子保健論 妊娠・分娩・産褥期の保健指導 妊娠・分娩・産褥期の保健指導 1</p> <p>6 母子保健論 子育て期・更年期の保健指導</p> <p>7 演習 母子保健活動の実際 (1) ・個別事例から支援について理解する。</p> <p>8 小児保健論 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 1</p> <p>9 小児保健論 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 2</p> <p>10 小児保健論 乳・幼児の成長発達・健康・生活と保健指導 3</p> <p>11 小児保健論 障害児・小児慢性疾患児の保健指導</p> <p>12 小児保健論 ハイリスク母子の保健指導</p> <p>13 演習 母子保健活動の実際 (2) ・個別事例から支援について理解する。</p> <p>14 演習 母子保健活動の実際 (3) ・個別事例から支援について理解する。</p> <p>15 演習 母子保健活動の実際 (3) ・地域の情報から地域での保健師活動を理解する。</p>
科目の目的	母子保健活動の理念と特質を学び、実践の基礎となる知識及び技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 母子保健活動の理念と目的がわかる。 2. 母子が抱える健康課題の支援の方法がわかる。 3. 我が国の母子保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割がわかる。
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生学、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、精神看護学総論
成績評価方法・基準	定期試験等試験(70%)・レポート等提出物(30%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・公衆衛生学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、母性看護学、小児看護学で学んだ知識をしっかりと定着させて臨んでください。 ・教科書の各回講義内容に該当するところを読んでから授業に臨んでください。
教科書・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・「標準保健師講座3対象別公衆衛生看護活動」(医学書院) ・国民衛生の動向2015/2016(財団法人厚生統計協会)
オフィス・アワー	昼休み・講義終了後
国家試験出題基準	【保健師】 《対象別公衆衛生看護活動論》1-A-a. b. c.、B-a. b. c. d. e. f.、C-a. b. c. d. e.、D-a. b. c. d. e. f
履修条件・履修上の注意	保健師・助産師課程履修希望者は、履修すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	2単位	選択
担当教員			
廣田 幸子			
小林 亜由美	一場 美根子		

授業形態	講義（オムニバス方式）28コマ及び演習2コマ		
授業計画	1	成人高齢者施策1 我が国の成人高齢者の健康問題と対策（講義：廣田）	
	2	成人高齢者施策2 健康増進対策：健康日本21、健康増進法、新健康フロンティア戦略（講義：廣田）	
	3	成人高齢者施策3 特定健康診査と特定保健指導：高齢者の医療の確保に関する法律（講義：廣田）	
	4	成人保健活動1 メタボリックシンドローム・生活習慣病の保健指導（講義：廣田）	
	5	成人保健活動2 栄養・食生活、身体活動・運動の保健指導（講義：廣田）	
	6	成人保健活動3 たばこ・アルコールの保健指導、がん対策（講義：廣田）	
	7	成人保健活動4 自殺予防・こころの健康・睡眠の保健指導	
	8	成人保健活動5 口腔・歯科保健指導（講義：廣田）	
	9	成人保健指導計画立案1 個別事例による成人を対象とした保健指導計画の立案（演習：廣田）	
	10	成人保健指導計画立案2 立案した保健指導計画の振り返り（演習：廣田）	
	11	成人高齢者施策4 要支援・要介護者対策：介護保険法（講義：廣田）	
	12	成人高齢者施策5 介護予防対策：介護保険法、新健康フロンティア戦略（講義：廣田）	
	13	高齢者保健活動1 認知症高齢者の支援（講義：廣田）	
	14	高齢者保健活動2 高齢者の虐待（講義：廣田）	
	15	感染症対策1 我が国の感染症対策の動向：感染症の予防及び感染症の患者に対する法律（講義：小林）	
	16	感染症対策2 麻疹・インフルエンザ対策と保健活動（講義：小林）	
	17	感染症対策3 食中毒対策と保健活動（腸管出血性大腸炎、ノロウイルス等）（講義：小林）	
	18	感染症対策4 HIV感染症/エイズ/性感染症対策と保健指導（講義：小林）	
	19	感染症対策5 結核対策（講義：小林）	
	20	感染症対策6 結核の保健活動（講義：小林）	
	21	障害児（者）保健1 障害児（者）対策：障害者自立支援法（講義：小林）	
	22	障害児（者）保健2 障害児（者）対策と保健活動（講義：小林）	
	23	難病対策1 我が国の難病対策と保健活動（講義：小林）	
	24	精神保健活動1 地域精神保健福祉活動 ・精神保健福祉法と関係する行政の役割 ・地域精神保健福祉活動と保健師の役割（講義：一場）	

	<p>2 5 精神保健活動2 地域精神保健福祉活動に向けての基礎知識 ・歴史的変遷（医療・福祉対策を含めて）（講義：一場）</p> <p>2 6 精神保健活動3 地域精神保健福祉活動に向けての基礎知識 ・ライフサイクルからみた精神保健 ・社会病理を背景とする精神保健の理解（講義：一場）</p> <p>2 7 精神保健活動4 地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～ ・精神保健福祉相談と家庭訪問指導（講義：一場）</p> <p>2 8 精神保健活動5 地域精神保健福祉活動の実際(1)～個別支援を中心に～ ・個別事例から支援について理解する（グループワークを通して）（講義：一場）</p> <p>2 9 精神保健活動6 地域精神保健福祉活動の実際(2)～地域での支援を中心に～ ・精神障害者の実態や医療費分析等から施策化に至る活動の実際（講義：一場）</p> <p>3 0 精神保健活動7 地域精神保健福祉活動の実際(2)～地域での支援を中心に～ ・地域情報から地域での保健師活動について理解する（グループワークを通して）（講義：一場）</p>
科目の目的	公衆衛生看護活動の対象となる成人保健、高齢者保健、精神保健、障害者保健、難病対策、感染症対策についてその理念と特質を学び、保健指導の実践の基礎となる知識を習得する。またそれぞれの領域において現代の地域社会が抱える課題について考え、地域における健康管理体制について学ぶ。
到達目標	<p>1. 生活習慣病、高齢者、精神疾患、感染症、難病、障害者（児）に関する保健活動の理念と目的が理解できる。</p> <p>2. 対象者が抱える問題と支援の展開方法がわかる。</p> <p>3. 同領域における我が国の保健管理システムとその遂行に関わる保健師の役割が理解できる。</p>
関連科目	免疫・感染症学、公衆衛生学、疫学、老年看護学総論、老年看護学ⅠⅡ、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ～Ⅴ、歯科保健、社会福祉・社会保障制度論、精神看護学総論、精神看護学ⅠⅡ、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ～Ⅲ、地域保健行政
成績評価方法・基準	<p>・定期試験90%（定期試験を100%とした場合の各領域の点数配分；成人保健30%、高齢者保健15%、感染症保健20%、障害者保健/難病対策15%、精神保健20%）</p> <p>・演習課題提出10%</p>
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義内容について教科書及び国民衛生の動向を事前に読み、不明点を明らかにしておくこと。また教科書に記述のある疾患に関する病態生理、疾患の発生病序等について復習しておくこと。（約30分）
教科書・参考書	教科書「標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動」（医学書院） 教科書「国民衛生の動向2015/2016」（厚生統計協会）
オフィス・アワー	小林亜由美 講義時間の前後、昼休み 廣田 幸子 講義時間の前後、昼休み 一場美根子 講義時間の前後（場所：公衆衛生看護学教員研究室）
国家試験出題基準	<p>【保健師】</p> <p>《対象別公衆衛生看護活動論》</p> <p>2-A-a. b. c、B-a. b. c、3-A-a. b. c、B-a. b、C-a. b. c. d. e、4-A-a. b. c、B-a. b. c、C-a. b. c. d. e. f. g、5-A-a. b. c、B-a. b. c. d. e、C-a. b、6-A-a. b. c、B-a. b. c. d、7-A-a. b、B-a. b. c、C-a. b. c. d. e、8-A-a. b、B-a. b、C-a. b. c. d</p> <p>《公衆衛生看護方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）》</p> <p>5-A-a. b. c、B-a. b. c. d. e</p> <p>《健康危機管理》</p> <p>2-A-a. b. c. d、B-a. b. c. d. e. f</p> <p>【看護師】</p> <p>《健康支援と社会保障制度》</p> <p>11-C-a. b. c. d. e、E-a. b. c. d. e. f. g、F-a、G-a、H-a. b. c. d. e</p>
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修希望者は履修すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
矢島 正栄			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 地域看護管理の基本 地域看護管理の意義、地域看護管理の特色、地域看護管理の諸相</p> <p>2 情報管理 健康関連情報の収集・管理・発信、個人情報取り扱い、情報公開、地域における情報ネットワークの構築</p> <p>3 組織運営・管理 組織の目的、組織運営の基本、地方自治体における組織の仕組み・権限・意思決定と指示系統、事業の計画と運営、施策化のプロセス</p> <p>4 予算管理 国および地方自治体における予算の仕組みと保健衛生関係予算の実際、予算の確保と執行</p> <p>5 人事管理・人材育成、地域ケアの質保証 人事管理の目的、人員確保・適材配置・労務管理の実際、人事評価、人材育成方針、現任教育の計画と方法の実際 地域情報の管理、サービス提供機関のアセスメント、関係者との連携・協働、社会資源の開発</p> <p>6 地域ケアシステムづくり、地域における健康危機管理 地域ケアシステムとは、地域ケアシステムの発展過程と保健師の役割 健康危機管理とは、健康危機管理の体制と保健師の活動</p> <p>7 地域における健康危機管理 健康危機管理の実際</p> <p>8 地域における健康危機管理 健康危機管理の実際</p>
科目の目的	人々が健康で暮らしやすい地域をつくるための地域看護管理の意義と実際について理解を深める。
到達目標	<p>1. 公衆衛生看護管理の意義と特色を説明できる。</p> <p>2. 公衆衛生看護管理における情報管理、組織管理、事業・業務管理、予算管理、人事管理の基本的考え方と方法を説明できる。</p> <p>3. 地域ケアの質保証、地域における健康危機管理、地域ケアシステムづくりの意義、目的、保健師の役割を説明できる。</p>
関連科目	公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅱ、地域保健行政、社会福祉・社会保障制度論
成績評価方法・基準	定期試験80%、レポート20%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	各回の講義に臨む前にテキスト、配付資料を精読しておいてください。1コマにつき4時間程度の準備学習を求めます。
教科書・参考書	教科書 「最新保健学講座5 公衆衛生看護管理論」平野かよ子編集（メヂカルフレンド社） 参考書 なし
オフィス・アワー	月～金 16:30～18:00
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準 《公衆衛生看護管理論》 1-A, B, C, D, E, F 2-A, B, C 《健康危機管理》 1-A, B, C
履修条件・履修上の注意	特にありません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			
荒木重雄			

授業形態	講義
授業計画	<p>1-2 助産の概念 助産師の職制と業務（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産の概念：助産の起源 出産の変遷 助産の定義など ・助産師の定義 助産師の業務 ・助産・助産師の定義：ICMに規定される助産の基本概念 ICMの活動 WHO ・助産師の役割と責務：助産の意義 助産師の職業倫理 ICM WHO <p>3 助産師と倫理 性・生殖と人権と倫理（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師と生命倫理 助産師と職業倫理 ・性と生殖における倫理 女性の意思決定と擁護 ・母体保護 出生前診断など <p>4 助産の歴史と文化（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産の変遷（出産の変遷） ・助産師の変遷（わが国及び世界） ・助産師の法的変遷 <p>5 母子保健の動向（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・母子保健の歴史 ・母子保健の動向と諸制度 <p>6 欧米の助産師 特別講義（荒木）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欧米の助産師から学ぶ。 <p>7 助産師と教育</p> <p>我が国における助産師教育の歴史</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸外国における助産師教育 <p>8 助産の将来（早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産師の役割（業務・責務）とこれからの展望 ・助産の将来 ・全体討議（1～7の講義を通して）
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師の役割・責務および助産師に求められる姿勢・態度について学ぶ。 ・専門助産師として自立できる能力及び他の職種（医師等）とパートナーを持って連携できる能力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助産師の役割・責務について説明できる。 ・母子並びに家族の尊厳と権利の尊重を理解し、助産師としての職業倫理について説明できる。 ・国際的視野の感覚を持てる助産師を目指す。
関連科目	専門科目群：母性看護学総論
成績評価方法・基準	定期試験（80%）課題提出（20%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護学に関する既習講義内容の復習をして臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：助産学概論（医学書院） 参考書：世界の出産（勉強出版）新版助産業務要覧（日本看護協会）
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	《基礎助産学》Ⅰ-1-A. B. Ⅰ-2-C. Ⅰ-3-A. B. Ⅰ-4-A. B.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
早川 有子			
竹中 恒久	牛島 廣治		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 遺伝と遺伝性疾患（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遺伝医学の重要性 ・ 染色体：染色体と遺伝子 遺伝の法則 常染色体異常 性染色体異常 ・ 遺伝子：遺伝子疾患 ・ 遺伝性疾患の分類 ・ 出生前診断 <p>2 母子と薬剤（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性と生殖に関する薬物 思春期 成熟期 更年期と薬物：経口避妊薬 排卵誘発剤など ・ 妊娠、分娩、産褥、授乳期と薬物： 陣痛促進剤 子宮収縮剤 緊急避妊薬 薬物の催奇形性 薬物の母乳移行など <p>3 母子の健康に影響を及ぼす因子 母子と感染（竹中）</p> <p>母子と生活環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 物理的要因：放射線 騒音など ・ 化学的要因：大気汚染 環境汚染物質と環境など ・ 母子と嗜好品・薬物：たばこ アルコール 依存性薬物など <p>母子と感染：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 母子感染の重要性 ・ 母子感染の機序 ・ 母子感染総論 ・ 母子感染各論： ヒトパルボウイルスB19 C型肝炎ウイルス ヒト免疫不全ウイルス（HIV） 成人T細胞白血病ウイルス トキソプラズマ 梅毒トレポネーマ ヒトパピローマウイルス 風疹 梅毒など <p>4 母子と感染（牛島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児に起こりやすい疾患（感染症）： 麻疹 水痘 突発性発疹 手足口病 カンジダ症 RSウイルス感染症 伝染性膿痂疹 乳幼児下痢症（ロタウイルス ノロウイルス） <p>5 母子と免疫（牛島）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 免疫とは ・ 母体の免疫学的特徴 ・胎児の免疫学的特徴 ・新生児の免疫学的特徴 ・ 免疫と母乳栄養 免疫と予防接種など ・ 妊娠の維持機構と免疫 ・臓器の成熟と器官形成（免疫系） ・ 免疫能の特性 ・ 低出生体重児の特徴：免疫 <p>6-7 母子と栄養（早川）</p> <p>母子の健康と食生活：妊娠期・授乳期の栄養と食生活 栄養に関する基礎知識 妊婦の栄養：妊婦の栄養と食生活 母体の栄養と胎児の発育 妊産婦の食生活指針 授乳婦の栄養： 乳幼児の栄養： 学童・思春期の子どもの栄養： 母子の健康に影響を及ぼす因子：栄養所要量 母体栄養と妊娠合併症：妊娠高血圧症候群など</p> <p>8 母子への援助・予防（早川）</p> <p>遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養に関する母子の予防と援助 1～5の学びを通してGW 発表</p>
科目の目的	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の学びを通して、母子の健康に影響を及ぼす因子について学ぶ。
到達目標	遺伝・感染・免疫・薬剤・栄養の視点から母子の健康が説明できる。
関連科目	専門基礎科目：生理学 解剖学Ⅱ 免疫・感染症学 薬理学 臨床薬理学 栄養学 健康管理論
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：母性看護、助産ケアに関連ある既習科目の予習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：基礎助産学Ⅱ（基礎医学）医学書院 参考書：必要時提示
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 非常勤講師：講義前後
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅰ》－Ⅱ-7-A. B. C. Ⅱ-8-A Ⅱ-9-A. B. Ⅱ-10-A. B. C. D. E. 《基礎助産学Ⅱ》－Ⅰ-2 Ⅰ-4. Ⅰ-5-A.B. Ⅰ-10-D. －Ⅱ-16-G. Ⅱ-20-B. Ⅱ-21-A

履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。
-------------	--------------------

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
中島 久美子			
岡崎 友香	石坂 泰子		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：思春期・青年期女性への援助（中島） ・月経前緊張症、若年妊娠・出産に伴う心理的問題、望まない妊娠と中絶</p> <p>2 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題1）（岡崎） ・不妊症、不妊治療患者の心理、不妊治療と治療後妊娠における諸問題と助産ケア</p> <p>3 女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康問題と援助：成人期女性への援助（妊娠・出産をめぐる問題2）（石坂） ・出生前診断をめぐる問題、出生前診断を考える女性の意思決定へのケア ・流産・死産の悲嘆反応、子どもを亡くした親へのケア（親子をめぐる問題）</p> <p>4 親-子をめぐる問題：母子関係（1）：正常な妊娠経過からの逸脱・ハイリスク状態にある妊婦のアセスメントと援助（中島） ・アタッチメント理論、親子関係、愛着障害・児童虐待</p> <p>5 親-子をめぐる問題・母子関係（2）：正常な産褥経過からの逸脱・ハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助（中島） ・低出生体重児の母親の心理的な問題とケア、多胎児の子育て、障がい児をもつ子どもの子育て ・産前・産後うつ病、産後うつ病が子どもの心身の発達に与える影響</p> <p>6 親-子をめぐる問題：父子関係（3）（中島） ・父親の育児、子育てにおける父親の抑うつ</p> <p>7 家族と社会（中島） ・家族とは、近代家族の特徴、家族をめぐる諸問題、夫婦関係と夫婦の関係性への支援 ・家族と法（児童虐待防止法、DV防止法）</p> <p>8 父母と社会、子どもと社会（中島） ・母親と社会、父親と社会 ・現代の家族支援への道のり、日本の子育て支援、世界の子育て支援</p>
科目の目的	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題や、親子関係、家族・父母・子どもと社会をめぐる問題について理解し、助産師として必要とされる考え方や、支援について学ぶ。
到達目標	女性のライフサイクル各期における心理社会的問題について理解し、助産師として必要な支援を学ぶことができる。 親子関係（母子関係、父子関係）、家族・父母・子どもと社会をめぐる問題について理解し、子育て支援について学ぶことができる。
関連科目	母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、基礎助産学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅰ（医学的診断と周産期ハイリスクへの処置）
成績評価方法・基準	定期試験（70％）、課題提出（30％）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱの復習 準備学習の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：「助産学講座4、基礎助産学[4]、母子の心理・社会学」村瀬聡美・我部山キヨ子（医学書院） 参考書：「助産師基礎教育テキスト第7巻ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子（医学書院）
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅰ》Ⅱ-13-A, B, C 《助産診断・技術学Ⅰ》4-B-a, b, c, d, e, f, g 《助産診断・技術学Ⅱ》4-D-a, b, c, d
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	2単位	選択
担当教員			
早川 有子			
中島 久美子	臼井 淳美		

授業形態	演習
授業計画	<p>1-2 オリエンテーション 研究とは（早川他） ・助産学を支える理論と研究 研究と助産師 ・助産学を支える理論と研究 助産学を構成する理論 研究と助産師</p> <p>3-4 文献検索（早川他） 助産学研究のテーマ設定と発表</p> <p>5-16 研究計画書の作成（倫理含む）（早川他） 研究計画書についての発表・討議 各実習施設にて、約5例の受け持ち事例を通して学ぶ。 例 会陰裂傷を防ぐためには 母乳栄養への援助など</p> <p>17-30 研究実施 論文まとめ 発表（早川他） 各実習施設ごとに計画書にそって研究を実施する。 * 助産実習がスタートする前、研究計画書はほぼ完成していることが条件となる。</p>
科目の目的	助産学における研究課題を学生自ら主体的に探究することを通して、総合的な理解を養う。 学生自身が講義・演習・実習を通して興味を持ったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その成果を発表・論文化する。
到達目標	各施設の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画書をたて、実施しその成果について論文を作成する。
関連科目	既習の科目全て関連する。
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程（30%）論文作成結果（70%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：取り組みたいテーマについての文献検索、研究計画書の書き方を学習し講義演習に臨むこと。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：基礎助産学Ⅰ「助産学研究」医学書院 参考書：看護研究step by step 黒田裕子 医学書院 パソコンで進める やさしい看護研究 富田真佐子 ohmsha社 看護研究入門・実施・評価・活用：ナンシー・バーンズ他 エルゼビア・ジャパン
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後 各研究担当者と相談
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
横田 佳昌			
家坂 直子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1-2 妊娠期の異常・ハイリスク (家坂 横田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の異常：妊娠疾患：妊娠悪阻 妊娠高血圧症候群 ・妊娠持続期間異常：流産 早産 過期妊娠など ・着床異常：異所性妊娠 前置胎盤 低位胎盤 低置胎盤など ・胎児異常妊娠：胎児発育不全 血液型不適合妊娠 多胎妊娠など ・胎児付属物異常妊娠：絨毛膜羊膜円 常位胎盤早期剥離 など <p>ハイリスク妊娠</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偶発性合併妊娠：心疾患合併妊娠 呼吸器疾患合併妊娠 糖尿病合併妊娠など <p>3 妊娠期の助産診断に必要な検査法 臨床検査 母体・胎児の健康診査に必要な検査 (横田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠期の検査：妊娠診断薬 胎児胎盤機能検査 胎児血採血 ・臨床検査：妊娠前 (不妊治療) の検査 ・妊娠後の検査 ・基礎知識：尿検査 血液検査 <p>4-5 分娩期の異常・偶発疾患 産科手術および産科医療処置 (家坂 横田)</p> <p>分娩の3要素の異常</p> <ul style="list-style-type: none"> ・娩出力の異常：過強陣痛 微弱陣痛 ・産道の異常：軟産道強靱 狭骨盤 ・胎児の異常：回旋・進入の異常 巨大児など ・胎児付属物の異常：絨毛膜羊膜炎 臍帯巻絡 臍帯下垂・脱出 常位胎盤早期剥離 前置胎盤など ・分娩経過の異常：肩甲難産 子宮内反症 など ・軟産道損傷：陰・会陰裂傷 頸管裂傷 子宮破裂など ・出血量の異常：弛緩出血など ・産科ショック：出血性ショック 羊水塞栓 DIC など ・産科手術および産科医療処置：骨盤位牽出術 吸引遂娩術 鉗子遂娩術 無痛分娩 (硬膜外麻酔) 帝王切開術 ・分娩誘発・促進時の管理 ・緊急事態の予測と予期的対応 <p>6 産褥期の異常・偶発疾患 (家坂 横田)</p> <p>性器の異常：子宮復古不全 晩期産褥出血など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産褥器感染症：産褥熱 尿路感染症 ・血栓・塞栓症：深部静脈血栓・肺塞栓症 ・乳房・乳頭・乳腺異常：乳腺炎など ・産褥期精神障害：マタニィブルー 産後うつ病 など ・産後後遺症：妊娠高血圧症候群後遺症 <p>7-8 NICUとハイリスク新生児 (家坂 横田)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早産児・低出生体重児のケア ・ハイリスク児の主要な病態とケア：呼吸障害 チアノーゼ おう吐 新生児痙攣 病的黄疸 感染症など
科目の目的	妊娠・分娩・産褥・新生児の正常・異常を診断し、助産ケアに生かすことができる能力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を診断できる。 ・妊娠・分娩・産褥・新生児期の正常・異常を助産師の立場から判断し、ケアに結び付けて考えられる。 ・緊急事態に対応できる能力を養う。
関連科目	母性看護学Ⅰ Ⅱ 助産診断技術学Ⅳ (助産技術演習)
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習の内容：既習で学んだ母性看護、助産師ケアの復習をして講義に臨むこと。 準備学習時間の目安：3時間45分
教科書・参考書	教科書：助産診断技術学Ⅱ (1 2 3) 医学書院 参考書：産婦人科診療ガイドライン (産科編2014) 日本産科婦人科学会/日本産婦人科医会
オフィス・アワー	講義開講日：授業前後
国家試験出題基準	《基礎助産学Ⅱ》Ⅱ-16-A. B. C. E. F. Ⅱ-17-A. B. C. D. E. F. G. H. Ⅱ-18-A. B. C. D. E. F. Ⅱ-19-A. B. Ⅱ-20-A. B. C. D. Ⅱ-22-A. B.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			
中島 久美子			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 妊娠期の経過と診断（臼井） 妊娠の成立・維持 妊娠経過の診断（正常・異常を含む） ・妊娠による母体の変化 胎児の発育・健康状態の診断</p> <p>2 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助①（臼井） 妊娠期の助産診断の特徴 妊娠前期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア</p> <p>3 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助②（臼井） 妊娠中期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア</p> <p>4 妊娠期の助産診断と正常妊娠経過にある妊婦への援助③（臼井） 妊娠後期の助産診断とケア（グループワーク） ・妊婦健康診査における妊娠経過の診断とケア ・妊婦の健康生活の診断とケア ・妊娠期のフィジカルアセスメント ・社会的側面の診断とケア</p> <p>5 妊娠期の心理（中島） 妊娠前期・中期・末期における心理 ・妊娠期における心理の変化 ・親役割準備への支援 ・家族の役割の変化に対する支援</p> <p>6 保健指導の技術（臼井） 個別相談、集団指導の基本 個人への保健指導 ・マイナートラブルなどへの支援、バースプランの作成への支援など 集団への保健指導 ・出産前準備教室などの集団指導の実際</p> <p>7-8 正常な妊娠経過からの逸脱およびハイリスク妊婦へのアセスメントと援助（臼井） 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント 異常妊娠・ハイリスク妊婦とその家族へのケア ・切迫流早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病、多胎妊娠などを合併している妊婦への助産ケア ・異常出血に対する処置への対応 ・合併症妊娠（心疾患・精神疾患など）に関連する助産ケア 助産師による妊婦のリスク診断</p>
科目の目的	妊娠経過の正常・異常の診断について学び、安定した妊娠期の生活ができるための支援とハイリスク妊娠時のケアおよび支援について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。 ・妊娠各期における妊婦および胎児の助産診断と、その診断に基づくケアについて説明できる。 ・ハイリスク妊婦や正常を逸脱した妊婦およびその家族に必要なケアを考察できる。
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと ・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ、〔1〕妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座5、助産診断・技術学Ⅰ」堀内成子（医学書院）</p> <p>参考書：「最新産科学 正常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂） 「最新産科学 異常編 改訂第22版」，荒木勤（文光堂） 「今日の助産 改訂第3版」，北川真理子・内山和美（南江堂） その他、講義内で紹介する。</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後、放課後（臼井）、昼休み（中島）

国家試験出題基準	<p>【助産師】</p> <p>《基礎助産学Ⅱ》- I-1-A, B、 I-2-A, B、 I-3-A, B, C, D、 I-4-A, B, C、 I-5-A, B、 I-6-A</p> <p>《助産診断・技術学Ⅰ》-1-A, B、 -2-A, B、 -3-A, B, C</p> <p>《助産診断・技術学Ⅱ》-1-A, B, C、 -2-A, B, C, D, E、 -3-A, B, C、 -4-A, B, C, D, E</p>
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島 久美子			
早川 有子	臼井 淳美		

授業形態	講義
授業計画	<p>1 助産診断・技術学の概要 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産過程の概要、助産診断学の概要、助産技術学の概要 ・助産診断学・助産技術学の理論構築 (教科書「1妊娠期」) <p>2 分娩の基礎、正常分娩、分娩が母体・胎児に与える影響、分娩期の心理社会的変化、健診に必要な検査の基礎知識 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩の定義と種類、分娩の3要素、正常な分娩経過、分娩機序、 ・分娩による母体への影響、胎児への影響 ・分娩期の心理社会的特徴 ・検体検査に必要な知識 <p>3-5 分娩期の助産診断 分娩期のフィジカルアセスメント (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・分娩進行状態の診断：分娩開始の予知・分娩開始・破水・分娩経過の診断、 ・産婦及び胎児の健康状態の診断、産婦の心理社会的側面の診断、出生直後の新生児の診断 <p>6-7 正常経過にある産婦への援助 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・援助の基本、分娩進行に伴う助産ケア (第1期、第2,3期、分娩後2時間まで)、 ・分娩経過に伴う産婦と家族の心理社会的側面のケア ・主体的出産への支援、産婦の分娩想起と出産体験理解への支援 ・出生直後の母子接触・早期授乳支援 <p>8 正常な分娩経過からの逸脱及びハイリスク状態にある産婦のアセスメントと援助 (中島)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体的ハイリスク因子のアセスメント、心理的ハイリスク因子のアセスメント、 ・援助の基本、正常分娩急変時の対応、分娩中・産褥期に搬送すべき症状を呈する母体の疾患 <p>9-12 助産過程の展開 (紙上事例) (早川・中島・臼井)</p> <p>(妊娠期) 正常妊婦の助産診断 (分娩期) 正常分娩の助産診断 (産褥期) 正常褥婦の助産診断 (新生児) 正常新生児の助産診断</p> <p>13-15 ハイリスク状態・異常への支援 (紙上事例) (早川・中島・臼井)</p> <p>(妊娠期の異常) ハイリスク妊婦・異常妊婦の助産診断 (PIH, PROM, 切迫早産) (分娩期の異常) ハイリスク分娩・異常分娩の助産診断 (異常出血の処置・帝王切開前後のケア) (産褥期・新生児の異常) ハイリスク褥婦(メンタルヘルス)・新生児の助産診断 (低出生体重児、帝王切分娩児のケア)</p>
科目の目的	分娩期における女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態について、EBMをふまえた基礎的助産診断・技術を養う。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過から予防的ケアと異常の早期発見・対処ができる能力を養う。
到達目標	分娩の生理と産婦の身体的・心理社会的変化を理解できる。 正常な分娩経過をアセスメントし、助産ケアの実践に繋げることができる。 妊娠・分娩・産褥・新生児の助産過程を展開できる (紙上事例)。 ハイリスク状態にある産婦の分娩経過をアセスメントし、予防的ケアと異常の早期発見・対処が理解できる。
関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ
成績評価方法・基準	定期試験 (50%) ・課題提出 (50%)
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。 準備学習時間の目安：2時間
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二 (医学書院) 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二 (医学書院) 参考書：「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦・新生児へのケア」遠藤俊子 (日本看護協会出版会)
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫ I-7-A, B, C I-8-A, B I-9-A, B I-10-A ≪基礎助産学Ⅱ≫ II-22-A, B ≪助産診断技術学Ⅱ≫ 5-A, B, C, D, E, F, G, H 6-A, B, C, D 8-A, B, C, D, E
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 産褥期の経過と診断 産褥経過の診断（正常・異常を含む） 復古の機序と経過</p> <p>2 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助① 褥婦の健康生活の助産診断 日常生活への適応および退行性変化促進のケア ・栄養、排泄、睡眠・休息、活動、清潔などへのケア 産褥復古が阻害されるか否かの予測と予防的ケア</p> <p>3 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助② 産褥期の心理社会的変化 褥婦の心理社会的側面の診断とケア ・出産体験の受容 ・親役割の獲得、家族の役割獲得と家族関係 愛着形成および親役割の獲得 ・育児能力の診断</p> <p>4-5 母乳育児支援 乳汁分泌機序と経過 母乳育児に関する診断 母乳育児へのケア ・母乳育児支援とその実際（母乳育児を行えない/行わない母親への支援を含む。 また、事例を通して、母乳育児支援の実際について考える。）</p> <p>6 産褥期の助産診断と正常経過にある褥婦とその家族への援助③ 日常生活への適応および退行性変化促進のケア 不快症状緩和へのケア 褥婦のセルフケア能力を高めるための支援 （指導案の作成を通して、褥婦に必要なケアを考える） ・育児に必要な基本的技術への支援 ・家族計画指導 ・母子の一ヶ月健診までの生活への支援 ・社会資源の活用への支援</p> <p>7-8 正常な産褥経過からの逸脱およびハイリスク状態にある褥婦のアセスメントと援助 身体的・心理社会的ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦とその家族へのケア ・産褥期の異常と合併症の予防 子宮復古不全、産褥期に起こる感染症、血栓性静脈炎、妊娠高血圧症候群後遺症、妊娠糖尿病、 母子感染症など、身体的に正常を逸脱している褥婦およびその家族への援助 ・心理的リスクを持つ褥婦、特殊な状況にある褥婦（マタニティブルー、産後うつ病、母子 分離、死産後など）およびその家族への援助</p>
科目の目的	産褥期の正常・異常の診断および援助・保健指導ができるための知識（母乳育児支援・乳房ケアなど）・技術・態度について学ぶ。これらの技術が母親にとって、自立につながるよう支援できるための能力を養う。また、異常な経過を伴うハイリスク褥婦のケアに対応できる能力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常経過にある褥婦の助産診断が説明できる。 ・褥婦および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。 ・正常経過にある褥婦に対し、必要な保健指導を説明できる。 ・ハイリスク褥婦や正常を逸脱した褥婦およびその家族に必要な援助を考察できる。
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲの講義内容を復習しておくこと。 ・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。
教科書・参考書	教科書：「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2] 分娩期・産褥期」, 我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：「最新産科学 正常編 改訂第22版」, 荒木勤（文光堂） 「最新産科学 異常編 改訂第22版」, 荒木勤（文光堂） 「今日の助産 改訂第3版」, 北川眞理子・内山和美（南江堂） その他、講義内で紹介する
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後 放課後
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫-Ⅰ-11-A, B, Ⅰ-12-B, Ⅱ-18-D、 ≪助産診断・技術学Ⅱ≫-1-C-h、-10-A, B, C, D, E、-11-A, B, C, D、12-A, B, C, D, E, F、13-A
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	1単位	選択
担当教員			
臼井 淳美			

授業形態	講義
授業計画	<p>1 新生児の経過と診断 新生児の身体的・生理的特徴 ・新生児の身体的特徴 ・新生児の生理的特徴</p> <p>2 新生児の診断と援助① 出生直後の新生児の診断とケア 出生後24時間以内の新生児の経過診断とケア</p> <p>3 新生児の診断と援助② 出生後24時間以降～生後1週間までの早期新生児期の経過診断とケア ・母子・親子関係を促進するケア ・新生児の行動上の特徴 ・家庭生活への移行とフォローアップ</p> <p>4 新生児の診断と援助③ 出生後1ヶ月までの新生児の診断とケア ・退院後の新生児の健康課題に対する予測とケア ・新生児を迎える生活環境のアセスメントとケア ・新生児期の健康診査（1ヶ月健診） 発育・発達評価、保健指導の要点</p> <p>5 乳幼児の経過とその援助 乳幼児の正常経過 ・身体的特徴、生理的特徴など 乳幼児の健康診査 ・健診に必要な技術 ・発育・発達評価・保健指導の要点 正常経過にある乳幼児およびその家族への援助 ・発達性を促進するケア（栄養、遊びなど） ・起こりやすい疾病の予防的ケア（予防接種など） ・家族へのケア（育児相談、母子相互関係・親子関係の確立） ・乳児期に起こりやすい疾患（SIDSなど） ハイリスク乳幼児およびその家族への援助</p> <p>6 フィジカルアセスメント 新生児のフィジカルアセスメントとケア ・新生児の観察技術と検査</p> <p>7-8 正常な新生児経過からの逸脱およびハイリスク状態にある新生児のアセスメントとケア ハイリスク因子のアセスメント ハイリスク新生児とその家族へのケア ・生理学的適応を助ける援助の基本 ・低出生体重児へのケア ・治療を受ける新生児のケア 呼吸障害、黄疸などに対するケア ディベロップメンタルケア など ・親・家族へのケア（児を中心とした家族への支援） ・ハイリスク児の主要な病態（胎児発育不全、呼吸窮迫症候群、新生児一過性多呼吸、チアノーゼと心不全、病的黄疸、感染症、嘔吐や腹部膨満など）とケア ・新生児の急変時の対応 など</p>
科目の目的	新生児・乳幼児の正常・異常の診断および援助ができるための知識・技術を養う。特に新生児の育児に必要な基本的技術・生活環境、ハイリスク新生児の救急時の母子および家族への対応について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・正常経過にある新生児の助産診断が説明できる。 ・新生児および、その家族への援助に必要な技術を説明できる。 ・ハイリスク新生児や正常を逸脱した新生児およびその家族に必要な援助を考察できる。 ・乳幼児の経過と、各時期に合わせた援助について理解することができる。
関連科目	専門科目群：母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、小児看護学Ⅰ（新生児期や乳幼児期、NICUに関連する内容）、公衆衛生看護学Ⅲ、基礎助産学Ⅱ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅵ
成績評価方法・基準	定期試験100%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ul style="list-style-type: none"> ・母性看護に関する既習の講義内容、公衆衛生看護学Ⅲ、小児看護学Ⅰの講義内容を復習しておくこと。 ・【準備学習に必要な時間の目安】各講義につき3時間45分の授業時間外における学習（予習・復習など自己学習）が必要となる。
教科書・参考書	<p>教科書：「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3] 新生児期・乳幼児期」，我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院）</p> <p>参考書：「今日の助産 改訂第3版」，北川真理子・内山和美（南江堂） 「新生児学入門 第3版」，仁志田博司（医学書院） 「新生児ベーシックケア」，横尾京子（医学書院） その他、講義内で紹介する。</p>

オフィス・アワー	講義開講日：講義前後、放課後
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫- I -13-A, B、 I -14-A、 I -15-A, B、Ⅱ-21-B, C、 ≪助産診断・技術学Ⅱ≫-1-C-i、-7-D、-14-A, B, C、-15-A, B, C、-16-A, B, C, D, E, F, G、-17-A, B、 -18-A, B, C, D, E、-19-A, B, C, D, E
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
中島 久美子			
早川 有子	臼井 淳美	竹中 恒久	遠藤 究

授業形態	講義・演習・実技
授業計画	<p>1-2 妊娠期の技術 基礎助産技術（診察技術、援助技術）（中島） ・外計測、骨盤計測、聴診、内診、レオポルド触診法、子宮底・腹囲測定、ザイツ法他 ・妊娠期の診察：シュミレーション学習（ロールプレイ、リフレクション）</p> <p>3-4 分娩期の技術 分娩介助の原理（中島） ・分娩介助の総論（入院時の判断、第1期～分娩室入室の判断、準備、パルトグラム、他） ・正常分娩介助法の原理、間接介助の役割他 ・助産基本技術（導尿 無菌操作、ガウンテクニックなど） ・分娩介助準備（物品準備、清潔野、外陰部消毒）</p> <p>5-6、7-8 正常分娩の介助（1） 正常分娩介助法（中島） ・分娩介助時の技術（肛門保護、人工破膜、会陰保護） ・分娩介助時の技術：児の娩出・児の処置（児頭娩出、顔面清拭、巻絡確認、肩甲娩出～体幹娩出、娩出時間・性別確認、出生児の呼吸助成、臍帯切断） ・胎盤の検査：胎盤娩出（胎盤精査、子宮収縮・軟産道精査、子宮底輪状マッサージ）</p> <p>9-10 正常分娩の介助（2） 新生児の助産技術（臼井） ・出生直後の観察・ケア・諸計測、成熟度評価、アプガールスコア、シルバーマンスコア</p> <p>11-12 分娩第1期のケア（中島） ・産痛と産痛緩和法、呼吸法・怒責法・腹圧、分娩促進・姿勢の工夫、ツボ刺激、マッサージ他</p> <p>13-14 分娩介助法の実際、分娩介助技術評価（中島） ・分娩介助手順の説明、ビデオ学習 ・分娩介助評価法の解説</p> <p>15-16 分娩介助演習(1)（早川・中島・臼井・臨床助産師） ・分娩介助手順のデモンストレーション、分娩介助演習</p> <p>17-18 分娩介助演習(2)（中島） ・分娩介助演習</p> <p>19-20 産褥期の技術 乳房管理・乳房ケア（臼井） ・退行性変化促進への援助、日常生活適応（マイナートラブル）への援助、家族計画指導等 ・乳汁分泌の機序、乳房診察、乳管開通法、乳房マッサージ、搾乳など</p> <p>21-22 分娩介助法の実際（フリースタイル）（中島） ・側臥位、座位、四つんばい、スクワット他</p> <p>23-24 超音波診断・胎児心拍数陣痛モニタリング 母体・胎児の健康診査に必要な検査の基礎知識（遠藤） ・超音波診断、胎児心拍数陣痛モニタリングによる検査の実際、包括的な胎児の健康状態の評価</p> <p>25 止血法 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（1）（竹中） ・止血技術の実際（緊急時使用物品と薬剤、止血法、出血性・非出血性ショック時の処置、異常出血への対応）</p> <p>26 会陰切開・裂傷部縫合 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（2）（竹中） ・会陰切開と裂傷部の縫合の実際</p> <p>27 新生児蘇生 基礎助産技術：緊急時の対応と応急処置（3）（竹中） ・新生児蘇生の実際</p> <p>28-29 分娩介助演習(3)（中島） ・分娩介助演習</p> <p>30 分娩介助実技試験（早川・中島・臼井） ・分娩介助実技試験(直接介助)</p>
科目の目的	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断と、対象によりよい助産を提供するための基礎実践能力を養う。 今後強化されるべき助産師の役割と機能に基づく高次の助産診断・技術法を理解し、ハイリスクや緊急時に対応できる能力を養う。
到達目標	妊娠・分娩・産褥各期の女性と新生児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常の判断ができる。 正常分娩介助法の原理が理解でき、分娩介助技術が習得できる。 高次の助産診断・技術法により、ハイリスク妊産婦および新生児への対応が理解できる。
関連科目	母性看護学Ⅰ、Ⅱ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅰ、助産診断・技術学Ⅱ、助産診断・技術学Ⅲ、助産診断・技術学Ⅳ、助産診断・技術学Ⅴ
成績評価方法・基準	定期試験（50％）、課題提出（25％）、実技試験（25％）

準備学習の内容・ 準備学習に必要な 学習時間の目安	準備学習内容：基礎助産学及び助産診断・技術学の予習・復習。分娩介助技術と基礎看護技術の実技の習得。 助産診断・助産課程に関する演習課題。 準備学習時間の目安：1時間
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：「助産師基礎教育テキスト7、ハイリスク妊産褥婦新生児へのケア」遠藤俊子（日本看護協会出版会） 「正常分娩の助産術、トラブルへの対応と会陰裂傷縫合」進純郎・堀内成子（医学書院） 「助産外来の健診技術、根拠に基づく診察とセルフケア指導」進純郎・高木愛子（医学書院） その他、講義にて提示する
オフィス・アワー	講義開講日の昼休み（専任教員） 講義開講前後の休憩時間（非常勤講師）
国家試験出題基準	【助産師】 ≪基礎助産学Ⅱ≫ Ⅱ-22-C, D, E ≪助産診断技術学Ⅱ≫ 1-A, B, C, D 7-A, B, C, D
履修条件・履修上の 注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	選択
担当教員			
竹中 美			
早川 有子	小暮 志保	樋口 美恵子	松浦 光子

授業形態	講義
授業計画	<p>1 助産管理の基本（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理の基本概念とプロセス ・助産業務管理の過程 ・助産管理の概念：組織における助産師の役割と助産管理体制 助産業務管理の特性など ・助産と医療経済：医療保険制度と助産業務 分娩費用など <p>2 病産院における助産業務管理（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産業務管理の過程：管理目標の策定 業務の分析など ・助産業務管理の方法：組織管理 書類管理 財務管理 業務の質管理など <p>3-4 病産院における助産業務管理（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・産科棟の管理：看護体制 継続的な援助システム 母乳育児 ・院内助産・院内助産院の管理：オープンシステム ・外来の助産管理：助産外来 助産師外来 家族計画外来 女性外来 <p>5-6 関連法規と助産師の義務・責任（竹中）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連法規：医療法 保健師看護師助産師法 医師法 母子保健法など ・助産師の法的責任と義務：応召 出生証明書の交付 助産録の記載 届け出 守秘義務など <p>7 助産所における助産業務の管理（松浦）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産所とは ・助産所の管理に関する法規（助産所の関係法規） ・助産所の管理・運営：医療機関との連携 救急時の搬送と搬送基準など ・助産所の経営 ・出張助産：自宅分娩における助産師の役割など <p>8-9 助産業務と医療事故（竹中 早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周産期における医療事故（GW 発表） ・助産業務における安全対策（GW 発表） ・災害対策（GW 発表） <p>10-11 助産業務の実際（樋口）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・助産業務管理の過程 ・助産業務管理の方法 ・産科棟の管理 ・院内助産 院内助産院の管理 ・外来の助産管理 *事例等による講義の展開 <p>12-13 助産管理のあり方（竹中 早川）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の助産管理のあり方（全体討議） <p>14-15 周産期管理システムとリスクマネジメント（小暮）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周産期管理システム ・周産期医療事故とリスクマネジメント *事例による講義展開
科目の目的	<ul style="list-style-type: none"> ・助産管理の基本概念及び施設の形態に応じた助産の業務、人事管理、予算管理、情報管理の基本的考え方を学ぶ。 ・医療事故への助産師としての対応について学ぶ。 ・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について学ぶ。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助産が業務の管理、助産所の運営の基本について理解する。 ・周産期医療システムの運用と関係機関との連携について理解する。 ・周産期における医療安全の確保と医療事故への対応について理解する。
関連科目	基礎助産学Ⅰ 地域保健行政
成績評価方法・基準	定期試験（100%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護、助産ケアの既習講義の復習をして講義に臨むこと。 学習課題を持って講義に臨むこと。</p> <p>準備学習時間の目安：2時間</p>
教科書・参考書	<p>教科書 助産管理（医学書院）基礎助産学Ⅰ「助産学概論」医学書院</p> <p>参考書 助産業務ガイドライン2014（日本助産師会）</p>
オフィス・アワー	講義開講日：講義前後
国家試験出題基準	《助産管理》-1-A. B. C. D. -2-A. B. -3-A. B. C. -4-A. B. C. D. -5-A. B. C.
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1学年	1単位	必修
担当教員			
馬醫 世志子			

授業形態	実習
授業計画	<p>オリエンテーション 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等に関する説明を受け、実習に向けての準備を行う。</p> <p>病院実習 病院施設の見学実習を通して、病院の特徴・機能・役割や保健医療チームの実際を知る。健康障害を持つ対象者を理解する。</p> <p>実習のまとめ 観察した現象や学んだことから、病院施設における看護師の役割について討議し、発表する。また、目標を振り返り、看護学の学習上の学びや課題について、レポートを作成する。</p>
科目の目的	<p>病院施設における実習を通して、病院の機能を支える人々の役割と機能について理解する。また、対象者の視点から、医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知り、健康障害を持つ人について理解を深める。本実習を通して看護師の役割について考えることで、今後の学習の動機付けとすることを目的とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 病院の特徴、機能、役割について知る。 2. 保健医療チームを構成する職種について知る。 3. 医療が提供される場所としての環境およびサービスについて知る。 4. 健康障害を持つ対象者の受診行動を観察し、その特徴を知る。 5. 病院施設における看護師の役割について考える。 6. 目標1～5を通し、看護学の学習上の学びや課題を明らかにする。
関連科目	看護学概論 I・II の統合と、2年次以降の看護学学習の基盤となる。
成績評価方法・基準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>病棟実習前に約1日の予習が必要（学内実習日の設定あり）。</p> <p>準備学習は実習記録に沿って行う。</p>
教科書・参考書	<p>教科書1：『ナースング・グラフィカ⑩基礎看護学－看護学概論』川村佐和子他（編）（メディカ出版）</p> <p>参考書：特になし</p>
オフィス・アワー	水曜：12：10～12：50（馬醫研究室）
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	病院実習では、実習用ユニフォーム、ナースシューズ、名札を着用すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	2学年	2単位	必修
担当教員			
上星 浩子			

授業形態	実習
授業計画	<p>オリエンテーション 実習目的、実習目標、実習方法、留意事項等に関して説明を聞き、実習に向けての準備を行う。</p> <p>病院実習 病院施設内において、一人の対象者を受け持たせていただき、看護過程を展開し、既習の学習を活用しながら自分の行える範囲で指導者による指導のもと、看護援助を実施する。</p> <p>実習場所：高崎総合医療センター、日高病院、七日市病院、鶴谷病院、群馬中央病院</p> <p>実習内容・方法：詳細は実習要項に提示する。 学内合同カンファレンス 実習目標の到達度及び今後の課題等について発表し、相互の学びとする。また、自己の課題を明らかにする。</p>
科目の目的	対象者への援助を実践するための看護過程の展開ができること及び自己の看護観を深めることを目指す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護過程の展開ができる。 2. 基本的な看護援助を根拠に基づき、安全・安楽に実施できる。 3. 相談、報告および看護の記録ができる。 4. 医療チームのあり方と医療従事者としての基本的態度を理解し看護できる。
関連科目	看護学概論Ⅰ・Ⅱ、看護過程論、看護援助学Ⅰ、看護援助学演習Ⅰの統合が必要である。看護援助学Ⅱ、看護援助学演習Ⅱ、3年次以降の教科目や実習の基盤となる。
成績評価方法・基準	出席状況、事前学習状況、実習記録、実習レポート、実習自己評価表を総合して評価する。全てを総合して実習の目標に到達した場合、C以上の評価となる。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護援助学演習Ⅰで学習した技術の復習 2. 看護過程の復習 3. 実習先の病院概要および受け持ち患者の疾患や治療に関する準備学習
教科書・参考書	教科書：基礎看護学で使用した全てのテキスト 基礎看護学実習Ⅱ実習要項 参考書：特になし
オフィス・アワー	月曜・水曜：12：10～12：50（上星研究室）
国家試験出題基準	《基礎看護学》-Ⅰ-1-A～C、2-A～C、Ⅱ-3-A～G 4-A～E Ⅲ-6-A-b、6-B-a、6-C
履修条件・履修上の注意	履修の手引のとおり、1年次に開講される必修科目すべての単位認定を受けており、かつ2年次前期に開講される「看護援助学Ⅰ」「看護援助学演習Ⅰ」の単位認定を受けていることを履修条件とする。 患者を実際に受け持つ実習であるため、感染症抗体値（1年次検査済）結果および予防接種歴を提出し、必要な感染予防対策を取ることが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
鈴木 珠水			
金子 吉美	横堀 ひろ	瀧川 佳織	

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所 病院実習 : 独立行政法人国立病院機構 渋川医療センター : 4東病棟 (消化器内科他)、5西病棟 (血液内科他)、6西病棟 (呼吸器内科)、6東病棟 (呼吸器内科) 学内実習 : 群馬パース大学</p> <p>実習の過程 1. オリエンテーション: 実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する 2. 病院実習: 成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する 3. 学内実習: 病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む</p> <p>実習記録 1. 受け持ち患者記録Ⅰ (アセスメントシート) 2. 受け持ち患者記録Ⅱ (関連図) 3. 受け持ち患者記録Ⅲ (ケアプラン) 4. 受け持ち患者記録Ⅳ (看護記録) 5. 実習行動計画表</p>
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害(慢性期)をもつ成人期にある対象を、発達段階をふまえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。
到達目標	1. 成人期における対象の身体的・心理的・社会的特性をライフスタイルや発達段階を踏まえて理解する。 2. 対象の病期(慢性期、終末期)と健康問題を理解し、看護を実践する。 3. 入退院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行う。 4. チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を理解する。 5. 自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を深める。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅱ
成績評価方法・基準	実習日数のうち4/5以上、出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する。対象の理解と看護過程の実践内容50%、記録物の内容及び提出状況20%、医療者としての姿勢15%、実習参加態度15%とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	受け持ちが予測される疾患(呼吸器、消化器、血液造血管器等)について、病態生理、症状、検査、治療、看護に関する学習をすること。準備学習の内容や項目、それに必要な時間など、詳細は、実習要項に提示する。
教科書・参考書	教科書： 「系統看護学講座 成人看護学②～⑮」(医学書院) 参考書： 「治療薬マニュアル」(医学書院) 「看護データブック」(医学書院) 「看護診断ハンドブック」(医学書院) 等
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内(病棟実習、学内実習)に対応する。
国家試験出題基準	【看護師】 ≪必修問題≫Ⅰ-2, 3, 4、Ⅱ-6, 8、Ⅱ-7-F, G、Ⅱ-9-A, C, D, E、Ⅲ-10-A, C、Ⅲ-11, 12、Ⅳ-13, 14, 15, 16 ≪人体の構造と機能≫Ⅰ・Ⅱ-1～16 ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫Ⅰ-1、Ⅱ-2, 3、Ⅲ-4～13 ≪健康支援と社会保障制度≫Ⅰ-1, 2, 3、Ⅲ-9-B、Ⅲ-11-E, F, G ≪基礎看護学≫Ⅰ-1, 2、Ⅱ-3, 4, 5、Ⅲ-6 ≪成人看護学≫Ⅰ-1, 2、Ⅱ-3C、Ⅱ-4～7、Ⅲ-8～19
履修条件・履修上の注意	自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	3単位	必修
担当教員			
萩原 英子			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習場所 病院実習：前橋赤十字病院(7号病棟：心臓血管外科等・10号病棟：消化器外科等) 済生会前橋病院(整形外科病棟) 学内実習：群馬バース大学</p> <p>実習の過程 1. オリエンテーション：実習目的、到達目標、実習方法、留意事項等について理解する 2. 病院実習：成人期にある患者を実習施設より紹介していただき、一連の看護過程を展開する 3. 学内実習：病院実習での学びを振り返り、学内実習課題に取り組む</p> <p>実習記録 1. 受け持ち患者記録Ⅰ(アセスメントシート) 2. 受け持ち患者記録Ⅱ(関連図) 3. 受け持ち患者記録Ⅲ(ケアプラン) 4. 受け持ち患者記録Ⅳ(看護記録) 5. 受け持ち患者記録Ⅴ(経過表) 6. 実習行動計画表</p>
科目の目的	既習の知識、技術を用いて、健康障害(急性期)をもつ成人期にある対象を、発達段階をふまえて総合的にとらえ、看護を実践する能力を養う。
到達目標	1. 成人期における対象の身体的・心理的・社会的特性をライフスタイルや発達段階を踏まえて理解する。 2. 対象の病期(クリティカル期、周手術期、回復期)と健康問題を理解し、看護を実践する。 3. 入退院による生活環境の変化への適応がスムーズであるように援助を行う。 4. チーム医療のあり方や、その中における看護職のあり方を理解する。 5. 自分の看護実践を振り返り、看護に対する自己の見方や考え方を深める。
関連科目	解剖学Ⅰ・Ⅱ、生理学、疾病の成り立ち、薬理学、成人看護学総論、成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、成人看護学演習、成人看護学実習Ⅰ
成績評価方法・基準	実習日数のうち4/5以上、出席した者を評価の対象とし、成人看護学実習評価表に基づき評価する。対象の理解と看護過程の実践内容50%、記録物の内容及び提出状況20%、医療者としての姿勢15%、実習参加態度15%とする。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	受け持ちが予測される疾患(消化器、循環器、運動器等)について、病態生理、症状、検査、治療、看護に関する学習をすること。詳細は、実習要項に提示する。
教科書・参考書	<p>教科書： 「周手術期看護論」雄西智恵美、秋元典子編著(ヌーヴェルヒロカワ) 「系統看護学講座 成人看護学②～⑬」(医学書院)</p> <p>参考書： 「治療薬マニュアル」(医学書院) 「看護データブック」(医学書院) 「看護診断ハンドブック」(医学書院) 等</p>
オフィス・アワー	萩原英子(研究室306)：実習時間内に対応する 小池菜穂子(研究室308)：実習時間内に対応する 藤巻郁朗(研究室307)：実習時間内に対応する
国家試験出題基準	<p>【看護師】 ≪必修問題≫Ⅰ-2,3,4、Ⅱ-6,8、Ⅱ-7-F,G、Ⅱ-9-A,C,D,E、Ⅲ-10-A,C、Ⅲ-11,12、Ⅳ-13,14,15,16 ≪人体の構造と機能≫Ⅰ・Ⅱ-1～16 ≪疾病の成り立ちと回復の促進≫Ⅰ-1、Ⅱ-2,3、Ⅲ-4～13 ≪健康支援と社会保障制度≫Ⅰ-1,2,3、Ⅲ-9-B、Ⅲ-11-E,F,G ≪基礎看護学≫Ⅰ-1,2、Ⅱ-3,4,5、Ⅲ-6 ≪成人看護学≫Ⅰ-1,2、Ⅱ-3～7、Ⅲ-8～19</p>
履修条件・履修上の注意	自己の健康管理に留意し、主体的に実習に取り組むこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	4単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	実習
授業計画	<p>1 実習場所 1) ほたか病院 2) グループホーム上白井の家 3) ケアサポートセンター夢 4) グループホーム吉岡たやの家 2) 高齢者施設 グループホーム ベルジ吉岡たやの家 グループホーム 上白井の家 ケアサポートセンター 夢</p> <p>2 実習内容・方法 詳細は、実習要項に記載</p>
科目の目的	老年期にある対象者を総合的に理解し、保健医療福祉チームの一員として、既習の知識・尊重する態度・技術を活用し、対象者に応じた看護を展開する能力を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の加齢変化や疾病による健康問題、生活行動、人生観やニーズなどの特性を観察、フィジカルアセスメント、コミュニケーション等を通してアセスメントし、理解する。 2. 老年期にある人の看護問題に応じた個別的なケアプランを立案し、実施・評価する。 3. 老年期にある人の特性や自立、安全を守るケア技術の実践方法を習得する。 4. 老年期にある人の尊厳・権利の尊重に基づいたケア提供者としての態度を習得する。 5. 老年期にある人のケアに関わる保健医療福祉の各専門職の役割と機能、連携について学習する。
関連科目	老年看護学総論、老年看護学Ⅰ、老年看護学Ⅱ、老年看護学演習
成績評価方法・基準	実習要項にて提示
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習要項で指示された事前学習項目をレポートにまとめ、実習第1日目に提出
教科書・参考書	教科書：老年看護学で使用した全ての教科書 参考書：特になし
オフィス・アワー	実習オリエンテーション日、実習のない月曜日、実習時間内・時間外
国家試験出題基準	<p>老年看護学</p> <p>Ⅰ-1-A~D 2-A, B 3-A, B</p> <p>Ⅱ-4-A~C 5-A~I 6-A~Q 7-A~C 8-A, B 9-A, B 10-A, B</p>
履修条件・履修上の注意	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
柴崎 由佳			

授業形態	実習
授業計画	<p>1 実習場所</p> <p>1) 群馬県立小児医療センター 第1病棟、第2病棟 NICU・GCU、PICU、産科病棟</p> <p>2) 前橋赤十字病院 5号(小児科)病棟</p> <p>3) 群馬県内保育園・保育所 12施設</p> <p>2 実習内容・方法 詳細は実習要項にて提示する</p>
科目の目的	成長発達の過程にある子どもとその家族の特徴を理解し、変化する社会の中で、子どもと家族がいきいきと生活できるように、それぞれの健康レベルに応じた看護を考える。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの特性を理解し、成長発達に応じた関わりができる。 2. 健康障害とそれに付随する環境の変化が子どもや家族に及ぼす影響について理解できる。 3. 健康障害を持つ子どもと家族の健康問題に応じた看護過程の展開ができる。 4. 子どもの特性を踏まえた基本的な看護援助が実施できる。 5. 子どもの最善の利益を考えた支援について理解を深めることができる。 6. 子どもが医療を受けるさまざまな場と看護職の役割について理解できる。
関連科目	小児看護学(小児看護学総論、小児看護学Ⅰ、小児看護学Ⅱ、小児看護学Ⅲ、小児看護学特論)、母性看護学各科目、基礎看護学各科目、精神看護学各科目、地域看護学各科目、統合分野各科目、教養科目群(心理学、生命倫理、教育学、家族学、環境論など)、専門基礎臨床科目群(解剖学、生理学、発達心理学、疾病の成り立ち、免疫・感染症学、薬理学ほか)、専門基礎地域科目群(公衆衛生学、保健統計、栄養学、歯科保健、健康管理論ほか)
成績評価方法・基準	実習要項にて提示する
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習前に提示する
教科書・参考書	<p>参考書</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論」奈良間美保他著(医学書院)。 2. 「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論」奈良間美保他著(医学書院)。 3. 「ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術」中野綾美編(メディカ出版)。
オフィス・アワー	実習前後
国家試験出題基準	—
履修条件・履修上の注意	当該実習科目前に開講されている全必修科目の単位認定を受けていること

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
臼井 淳美			
早川 有子	中島 久美子		

授業形態	実習
授業計画	<p>実習施設 愛弘会 横田マタニティーホスピタル</p> <p>実習の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1組の母子を受け持ち、母子と家族との関わりを通して、看護展開をする。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 母親の産褥過程、新生児の経過に合わせた行動計画を立案し、ウェルネス思考に基づいた看護を実践する。 (2) 学生主体の事例カンファレンスに参加し、看護過程の展開を通して、現実に即した看護を追究するための事例検討を行う力を養う。 2) 母性看護の対象への理解を深めるため、以下のような実習を行う。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 妊婦健診（妊娠期の基本的看護技術、妊婦の身体的、心理社会的側面の看護） (2) 不妊外来（生殖医療外来における検査・治療の見学実習、不妊治療を受ける女性の看護） (3) 分娩見学（正常分娩・腹式帝王切開術の立ち会い、産痛緩和、新生児の出生時の蘇生、家族関係・家族役割） (4) 母親学級・ヨガ教室 (5) 新生児室実習・新生児1ヶ月健診 (6) ハイリスク妊婦（入院中の妊婦）
科目の目的	妊娠・分娩・産褥期及び新生児を総合的にとらえ看護過程を展開する。また、母子の看護に必要な基礎的実践能力を養う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊婦・産婦・褥婦及び新生児とその家族に対する個別的な援助について理解する。 ・妊婦・産婦・褥婦及び新生児の援助を実施するために必要な基本的技術が習得できる。 ・妊婦・産婦・褥婦及び新生児の健康を保持増進するために必要な援助（健康教育）について学ぶ。
関連科目	<p>教養科目群：すべての科目</p> <p>専門基礎科目群：すべての科目</p> <p>専門科目群：すべての科目。特に母性看護学総論、母性看護学Ⅰ、母性看護学Ⅱ、基礎看護学関連の科目全般</p>
成績評価方法・基準	母子の看護過程の展開（30%）、基本的看護技術（20%）、母性看護学領域における健康教育（10%）、課題レポート（10%）、実習態度・出席状況など（30%）を総合的に評価する。詳細は実習要項にて提示する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>準備学習の内容：母性看護学の講義及び演習で学習した内容。詳細は実習要項にて提示する。</p> <p>準備学習に必要な学習時間の目安：事前準備および実習中の学習時間の目安として最低15時間必要となる。</p>
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 母性看護学各論 母性看護学Ⅱ」, 森恵美（医学書院）</p> <p>参考書：必要時提示する</p>
オフィス・アワー	各担当教員が対応 オリエンテーションで通知する
国家試験出題基準	<p>【看護師】</p> <p>《母性看護学》－Ⅲ-4-A, B, C, D 《母性看護学》－Ⅲ-5-B-b, C-f, D</p>
履修条件・履修上の注意	3年次前期までに開講される必修科目すべての単位認定を受けていることが履修条件となる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	3学年	2単位	必修
担当教員			
村松 仁			
時田 征人			

授業形態	実習
授業計画	実習要項にて提示
科目の目的	精神健康の維持・増進、回復のために必要な看護学及び関連領域の知識と、精神看護学を展開するための技術及び態度を統合し、精神に障害を持つ人への看護実践の基礎能力を習得する。
到達目標	1. 精神科病院における治療環境の特徴が理解できる 2. 治療環境としての自己活用ができる 3. 対象者の精神状態やニーズを把握し、必要な看護を展開できる。 4. 精神に障害を持つ人の社会復帰支援の現状と課題を理解する。
関連科目	心理学，発達心理学，臨床心理学，精神看護学総論，精神看護学Ⅰ，精神看護学Ⅱ，精神看護学特論
成績評価方法・基準	実習要項にて提示
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習要項にて提示
教科書・参考書	教科書：精神看護学総論・精神看護学Ⅰ・Ⅱで使用した教科書。 参考書：これからの精神看護学（森千鶴，田中留伊監編集，ピラールプレス），精神神経疾患ビジュアルブック（落合慈之監修，学研メディカル秀潤社），精神看護学・第2版・患者－学生－のストーリーで綴る実習展開（田中美恵子編著，医歯薬出版株式会社）など。
オフィス・アワー	実習指導担当教員が対応
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	実習要項にて提示

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
笠井 秀子			
山野 えり子			

授業形態	実習
授業計画	<p>1 オリエンテーション（笠井、山野） 実習の目的、目標、方法、留意事項などに関する説明</p> <p>2 訪問看護ステーション実習（笠井、山野） 実習場所 ①ほたか訪問看護ステーション ②訪問看護ステーション ホームナース ③群馬県看護協会訪問看護ステーション富岡 ④群馬県看護協会訪問看護ステーション渋川 ⑤群馬県看護協会訪問看護ステーション粕川 ⑥群馬県看護協会訪問看護ステーション高崎 ⑦群馬県看護協会訪問看護ステーション前橋南 ⑧群馬県看護協会訪問看護ステーション ⑨広瀬訪問看護ステーションたんぼぼ ⑩訪問看護ステーションほほえみ ⑪富岡地域医療事務組合 在宅医療支援センター</p> <p>3 学内実習（笠井、山野） 方法 実習期間中の月曜日、金曜日にカンファレンスを実施し、情報共有 課題解決 看護技術復習 看護過程の展開を実施</p> <p>4 実習のまとめ（笠井、山野） 在宅看護過程の実践、在宅看護の目指すもの</p>
科目の目的	在宅療養者とその家族に対する総合的な理解を深め、在宅療養支援における看護の役割と支援方法、援助技術、在宅療養支援システムの実践について学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象となる療養者とその家族の特徴を理解する。 2. 在宅療養の場における看護の役割を理解する。 3. 在宅療養者とその家族を対象とする生活の場における支援方法を理解する。 4. 訪問看護ステーションの機能・役割を理解する。 5. 在宅療養支援システムの仕組みと多職種連携の在り方を理解する。
関連科目	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目
成績評価方法・基準	在宅看護実習評価表（80%）、出席状況（5%）、事前学習課題（5%）、実習レポート（10%）
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱで学習した内容を復習しておくこと。
教科書・参考書	<p>教科書：「系統看護学講座 統合分野 在宅看護論」秋山正子（医学書院） 「ナーシンググラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア」</p> <p>参考書：「介護保険制度に関するパンフレット」（社会保険出版社） 「訪問看護サービス」（日本訪問看護振興財団） 「NANDA 看護診断2015-2017」（医学書院）</p>
オフィス・アワー	専任：月曜日：12:10～13:00（笠井研究室） 実習指導教員：実習施設内において随時
国家試験出題基準	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ、在宅看護論Ⅱにわたるすべての項目
履修条件・履修上の注意	在宅看護概論、在宅看護論Ⅰ・Ⅱ、他教養科目群、専門基礎科目群、専門科目群のすべての科目履修済みのものについて復習が必要である。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	4学年	2単位	必修
担当教員			
鈴木 珠水			
看護学科教員で担当			

授業形態	実習
授業計画	<p>実習期間：2週間（1週を臨地実習、1週を学内実習（事後学習）とする。） 実習時間：原則として8時30分～16時30分とする。 実習施設：1. 国立大学法人 群馬大学医学部附属病院 2. 独立行政法人 国立病院機構 渋川医療センター 3. 医療法人 日高会 日高病院</p> <p>病院実習の進め方 1. 1名もしくは複数の患者との関わりを通して、実習目標を達成する。 1) 対象者の状態や状況に合わせた行動計画を立案し、看護を実践する。 2) 他職種とのカンファレンスに参加し、情報の共有・継続看護について実践する。</p> <p>2. チームアプローチの実際を知るため次のような実習を通して目標を達成する。 1) 看護師同行実習（複数の患者を担当する場合の看護実践の学び） 2) リーダーナース同行実習 3) 看護管理者同行実習 4) 認定看護師・専門看護師、チームでの活動への同行実習 5) 外来見学実習 6) 退院調整部門実習</p> <p>学内実習の進め方 実習記録・レポートを通して実習の振り返りを行い、看護専門職としての姿勢について考え実習目標を達成する。 1. 学内での学習体験発表 ～2週目の学内実習の木曜日に「学習体験発表会」を予定している。各グループで発表内容を決め、資料作成をし手発表準備に備えること。当日の発表会では他のグループの発表に対して意見・質問・感想などを述べ、学びを深めること。 2. 実習での学びの確認と考察、記録類のまとめ</p>
科目の目的	既習の知識や技術を統合し、ケア提供組織の中で展開されるチームアプローチを通して、総合的な看護実践能力を高める。
到達目標	1. 対象者の特性や状況にあわせた計画的・継続的な看護を実践できる。 2. 看護の質保障と安全管理のためのケア提供システムについて理解し、実践できる。 3. 看護職間及び多職種間における協同・連携（チームアプローチ）の実践について理解できる。 4. 看護専門職として質の高い看護を提供するための探求的姿勢を養うことができる。
関連科目	座学における既習科目、演習、臨床看護分野の実習すべて総合的に関連する
成績評価方法・基準	実習要項に示す。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	全体オリエンテーション及び施設別オリエンテーションに参加し、自身の目標を明確にする。事前学習として3時間の準備学習時間を要する。事前学習課題は、アクティブアカデミーでアップしているの、各自印刷して課題に取り組むこと。
教科書・参考書	教科書：志自岐康子他（編） ナーシンググラフィカ基礎看護学①—看護概論、メディカ出版 参考書：上泉和子他著：系統看護学講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践[1]. 医学書院。
オフィス・アワー	担当教員が実習時間内（病棟実習、学内実習）に対応する。 詳細は施設別オリエンテーションで通知する。
国家試験出題基準	基礎看護学：2-C 3-E, F 6-A, B, D 看護の統合と実践：1-A～E
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。1週目の病院実習では、群馬パース大学看護学科4年生としての自覚を持ち、礼節を持って実習にのぞむこと。2週目の学内実習ではグループ間で協力しあい、学習体験発表会の課題に取り組むこと。学習体験発表会では、他施設や他のグループの学びに耳を傾け、共有化することで自己の学びを広げること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	5単位	選択
担当教員			
小林 亜由美			

授業形態	実習
授業計画	<p>1 実習場所 ・ 渋川・利根沼田・吾妻保健福祉事務所、前橋市保健所ならびに管内市町村保健センター ・ 高崎市内外小中学校 ・ 群馬県内事業所</p> <p>2 実習時期 9月-11月</p> <p>3 実習内容 実習施設を拠点とする公衆衛生看護活動に参加する。詳細は、実習要項に別途提示する。</p>
科目の目的	公衆衛生の理念と目標を実現するために行われる、地域で生活する人々を対象とした看護活動の方法と看護の展開に必要な技術を学び、地域保健医療福祉における看護専門職の役割を理解する。
到達目標	<p>1. 地域で生活する個人・家族・集団の健康を守るための地域活動の展開方法を理解できる。</p> <p>2. 個人・家族・集団の健康課題の改善・解決に向けた支援技術を実施できる。</p> <p>3. 個人・家族・集団の健康課題の改善・解決のために、社会資源のシステム化、施策化をする必要性和その方法が理解できる。</p> <p>4. 産業保健における安全・衛生管理の方法と看護職の役割を理解できる。</p> <p>5. 学校保健における保健管理・保健教育の方法と養護教諭の役割を理解できる。</p> <p>6. 専門職として、また組織の一員としての役割と責任について説明できる。</p>
関連科目	公衆衛生学、疫学、保健統計、社会福祉・社会保障制度論、地域保健行政、栄養学、歯科保健、公衆衛生看護学概論、公衆衛生看護学Ⅰ、公衆衛生看護学Ⅱ、公衆衛生看護学Ⅲ、公衆衛生看護学Ⅳ、公衆衛生看護管理学
成績評価方法・基準	実習要項にて提示
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	実習施設に関する年間活動計画、保健事業計画、施設概要、事業実績等の資料を読み解く（6時間）。実習中に実施可能な看護技術を練習する（6時間）。翌日の実習プログラムを確認し、学びたいことを整理する（6時間）。
教科書・参考書	なし
オフィス・アワー	月～水、金12:10～13:00
国家試験出題基準	保健師国家試験出題基準【公衆衛生看護学方法論Ⅰ（個人・家族・グループ支援方法論）】1-A-a-c, B-a-f, C-a-c, -A-a-c-B-a-f, 3-A-a-c, B-a-e 4-A-a-c, B-a-g, 5-A-a-c, B-a-e, 6-A-a-d, B-a-h【公衆衛生看護学方法論Ⅱ（組織、集団、地域支援方法論）】1-A-a-d, -B-a-h, 2-A-a, b, -B-a-h, 3-A-a-h, B-a-d, C-a-d, 4-A-a-h, 5-A-a-d, -B-a-d, -C-a-d, -D-a-c, 6-A-a-d, B-a-f, 【対象別公衆衛生看護学活動論】1-A-a-c, -B-a-f, -C-a-e, -D-a-f, 2-A-a-c, -B-a-c, 3-A-a-c, -B-a-c, -C-a-e, 4-A-a-c, -B-a-c, -C-a-g, 5-A-a-c, B-a-e, C-a-b, 6-A-a-c, -B-a-c, 7-A-a, b, -B-a-c, -C-a-e, 8-A-a, b, -B-a, b, -C-a-d, 【学校保健、産業保健】1-A-a, b, -B-a-c, -C-a-h, D-a-j, -E-a-e, 2-A-a, b, -B-a-c, -C-a-i, -D-a-l, -E-a-c, 【健康危機管理】1-A-a, b, -B-a-d, -C-a-j, 2-A-a-d, -B-a-f, 3-A-a-d, -B-a, b, -C-a-d, -D-a-f, -E-a-g, 【公衆衛生看護学管理論】1-A-a-g, -B-a-d, -C-a-j, -D-a, b, -E-a-d, -F-a, b, 2-A-a, b, -B-a, b, -C-a-c, 6-A-a-c, 7-A-M【保健医療福祉行政論】1-A-a-e, -B-a-c, -C-a-d, 2-A-a-d, -B-a-c, -C-a-d, 2-A-a-d, -B-a-h, 3-A-a, b, -B-a-d, -C-a-g, -D-a, b, -E-a-f, -F-a-f, 4-A-a-c, -B-a-d, -C-a-d
履修条件・履修上の注意	保健師課程履修者のみ履修できる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	4学年	11単位	選択
担当教員			
中島 久美子			
早川 有子	臼井 淳美		

授業形態	実習
授業計画	<p>1-9週 1. 助産学実習Ⅰ（9単位） 生理的な経過をとる妊産婦を対象に以下の実習を行う。 10例の分娩介助を行い、そのうち1例は妊娠期から産後1カ月までの期間を受け持つ。 1) 妊娠期実習 2) 分娩介助・継続事例実習 3) 産褥期実習 4) 胎児・新生児・間接介助実習</p> <p>10週 2. 助産学実習Ⅱ（1単位） ハイリスク状態にある妊産婦及び新生児を1例受け持ち、対象の健康状態を助産診断し、助産過程の展開を行う。</p> <p>11週 3. 助産学実習Ⅲ（1単位） 地域の助産師の活動を見学、参加することで助産業務の特性と課題、今後の展望を考察する。</p>
科目の目的	周産期の母子と家族のケアに必要な助産診断・技術の基礎的能力、社会の特性を理解し母子と家族の健康を守る科学的思考能力を養う。また、助産師としての職業アイデンティティの形成を目指した知識・技術・態度を学ぶことを目指す。
到達目標	10例の正常分娩介助を通して、助産課程の展開、妊娠中期から生後1カ月の母子の継続した健康診査・ケアを行いその助産診断・技術を習得できる。 1例のハイリスクの妊・産・褥婦を受け持ち、ハイリスクにあるケースの助産診断・技術を習得できる。 助産所実習を通して、地域における助産・母子保健活動の実際を知り、助産師の役割を学ぶことができる。 継続事例を通して、助産管理の初歩的実践能力を学ぶことができる。
関連科目	基礎助産学Ⅰ、基礎助産学Ⅱ、基礎助産学Ⅲ、基礎助産学Ⅳ、助産診断技術学Ⅰ、助産診断技術学Ⅱ、助産診断技術学Ⅲ、助産診断技術学Ⅳ、助産診断技術学Ⅴ、助産診断技術学Ⅵ、公衆衛生看護学Ⅲ、助産管理
成績評価方法・基準	実習内容、実習記録、実習態度、出席状況等により、助産実習担当教員全員の協議により総合的に評価する。 詳細は実習要項に提示する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	準備学習内容：助産師課程履修科目全ての学習した内容を復習しておくこと。分娩介助を含む助産ケアに係る技術は十分に演習しておくこと。助産所・助産管理に係る事前学習をして臨むこと。
教科書・参考書	教科書：「助産学講座6、助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座7、助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 「助産学講座8、助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期」我部山キヨ子・武谷雄二（医学書院） 参考書：助産師課程履修科目の前期講義にて提示した参考書に準ずる。
オフィス・アワー	各担当教員が対応 実習オリエンテーションにて提示する。
国家試験出題基準	【助産師】 《基礎助産学Ⅱ》 全般 《助産診断・技術学Ⅰ》 1-A, B 2-A, B 3-A, B, C 5-A, B, C, D 《助産診断・技術学Ⅱ》 全般 《地域母子保健》 1-A, B, C 4-A, B, C 《助産管理》 2-B
履修条件・履修上の注意	助産師課程履修者のみ履修可能とする。 4年次前期までに開講される全必須科目及び助産師課程履修科目の全ての単位認定を受けていることが履修条件となる。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	3学年	1単位	必修
担当教員			
伊藤 まゆみ			

授業形態	講義、演習
授業計画	<p>1 看護研究の意義と目的 看護における研究の役割と目的、EBN</p> <p>2 研究の種類とデザイン 研究の種類と研究デザインの関係、研究デザインの種類</p> <p>3 事例研究と質的研究 看護の実践と研究、質的研究の特徴と方法</p> <p>4 量的研究 量的研究の特徴と方法、記述統計の基本</p> <p>5 研究における倫理 研究と倫理、研究における倫理ガイドラインと倫理的配慮</p> <p>6 専門領域における研究の特徴と実際① 基礎看護学</p> <p>7 専門領域における研究の特徴と実際② 成人看護学</p> <p>8 専門領域における研究の特徴と実際③ 老年看護学・看護学</p> <p>9 専門領域における研究の特徴と実際④ 精神母性看護学・小児看護学</p> <p>10 専門領域における研究の特徴と実際⑤ 地域看護学・在宅看護学</p> <p>11 研究のプロセスと研究計画書の作成 テーマの設定、データ収集、分析方法、発表 研究計画書の内容と作成方法</p> <p>12 文献検索① データベースを用いた文献検索の方法（演習）</p> <p>13 文献検索② 文献検索の実際（演習）</p> <p>14 文献検索③ 収集論文のクリティークと文献カードの作成</p> <p>15 まとめ 自己の研究課題の焦点化</p>
科目の目的	看護研究とは何か、看護研究の意義と目的、方法、プロセス、倫理的配慮、各専門領域における研究の特徴を学ぶ。また、自分の関心のある研究テーマについての文献検索、論文の収集、クリティークを行い、研究の実施に向けての最初のステップを学習する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護研究の意義と目的が理解できる。 2. 研究の種類と特徴が理解できる。 3. 各専門領域における研究の特徴が理解できる。 4. 文献検索方法が理解でき、必要な文献を収集できる。 5. 研究のプロセスと研究計画書の作成方法、倫理的配慮が理解できる。 6. 研究の実施に向けて、自分の研究テーマを探索できる。
関連科目	既習科目すべて
成績評価方法・基準	期末試験50%、課題レポート35%、平常点15%
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<ol style="list-style-type: none"> 1. 専門領域における研究の特徴と実際①～⑤をとおして、関心のある研究領域・取り組みたいテーマをイメージしながら授業に参加する。 2. 文献検索の実際、論文収集、文献の読み込みは授業時間以外の時間を使って学習を進める。
教科書・参考書	教科書：「看護における研究」、南裕子（日本看護協会出版会） 参考書1：「看護研究のすすめ方・つかい方」、数間恵子（日本看護協会出版会） 参考書2：「文献レビューのきほん」、大木秀一（医歯薬出版）
オフィス・アワー	講義実施日の9-17時
国家試験出題基準	基礎看護学：2-B-a, b
履修条件・履修上	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	4学年	4単位	選択
担当教員			
学科教員全員			

授業形態	演習、ゼミ
授業計画	<p>第1回 領域別、指導教員別オリエンテーション</p> <p>第2～60回 リサーチクエスションの絞り込み、文献検索、研究計画立案、研究の実施、分析、論文作成各領域の指導教員の指導の下、研究計画を立て、実施し、その結果を論文として仕上げる。 基礎看護学に関する研究：基礎看護学領域担当教員</p> <p>成人看護学（慢性期）に関する研究：成人看護学（慢性期）領域担当教員</p> <p>成人看護学（急性期）に関する研究：成人看護学（急性期）領域担当教員</p> <p>老年看護学に関する研究：老年看護学領域担当教員</p> <p>母性看護学に関する研究：母性看護学領域担当教員</p> <p>小児看護学に関する研究：小児看護学領域担当教員</p> <p>精神看護学に関する研究：精神看護学領域担当教員</p> <p>在宅看護学に関する研究：在宅看護学領域担当教員</p> <p>助産学に関する研究：助産学領域担当教員</p> <p>公衆衛生看護学に関する研究：公衆衛生看護学領域担当教員</p>
科目の目的	看護学における研究課題を学生自ら主体的に探求することを通して、総合的な理解力を養う。看護学及びそれに関連する以下の領域から、学生自身が講義・演習・実習を通して興味をもったテーマを選定し、理論に基づき、教員の指導のもとで研究を計画・実施し、さらに、その結果を発表・論文化する。
到達目標	各領域の指導教員のもと、自分の選定したテーマに従い研究計画を立て、実施し、その結果について論文を作成する。
関連科目	看護研究概説、臨地実習など既習の科目全てと関連する。
成績評価方法・基準	卒業研究に取り組む過程および論文作成結果を総合して指導教員が評価する。
準備学習の内容・準備学習に必要な学習時間の目安	<p>研究に取り組んでみたいテーマについて情報収集をしておくこと。</p> <p>研究のキーワードとなる用語をいくつか絞り込んでおくこと。</p> <p>取り組む研究課題によって、また、個人やグループの能力によって、必要な学習時間が変わるので、指導教官の指導の下、計画的に進めていくこと。</p>
教科書・参考書	<p>教科書 看護研究概説で用いた資料、教科書（看護における研究、南裕子、日本看護協会出版会）。</p> <p>参考書 1. 黒田裕子の看護研究step by Step、黒田裕子、医学書院 2. ひとりで学べる看護研究、山口瑞穂子、石川ふみよ、照林社 3. バーンズ&グローブ 看護研究入門—実施・評価・活用—、ナンシー・バーンズ、スーザン・K・グローブ、エルゼビア・ジャパン</p> <p>など。</p> <p>随時指導教官が紹介する。</p>
オフィス・アワー	指導教官のオフィスアワーに従う。
国家試験出題基準	
履修条件・履修上の注意	主体的に取り組むこと。指導教官とのやり取りはアポイントメントを取ったうえで、指導をうけること。研究上にて得られたデータの取り扱いや、データの入った記録媒体の取り扱いに注意すること。